

MIYAKUBO-SITE

# 宮久保遺跡

団体営園場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999

長坂町教育委員会

山梨県長坂町

---

# 宮久保遺跡

---

団体営園場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999. 3

長坂町教育委員会

# 序

八ヶ岳南麓の中央に位置する長坂町は、約3万年前から人間の生活していた痕跡が発見されている。山梨県内でも最も古い遺跡が存在する町です。この長坂町では、水田農業の近代化をめざし、町内全域にわたり圃場整備事業を推進してきました。

その圃場整備事業に先立ち、町内では小屋敷遺跡や別当西遺跡をはじめ数多くの遺跡が発掘調査され、記録として保存されてきました。

本報告書も1997年度の塙川団体苟圃場整備事業に伴い発掘調査された宮久保遺跡の概要を記したもので  
す。宮久保遺跡からは縄文時代中期末から後期の住居跡・配石造構や平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、  
中世の遺構等が見つかっております。発掘調査例の少ない塙川地区において、この地域の歴史を明確する  
上での貴重な発見となり、また、縄文時代後期や平安時代の集落の様相を究明する一資料として、教育や  
研究の場において多くの方々に広くご活用いただければ幸いです。

末筆ながら、地域住民の皆様の多大なご理解のもとに発掘調査を無事完了できましたことを深く感謝す  
るとともに、種々のご協力を賜った関係機関各位ならびに直接調査と整理に従事していただいた多くの方々  
に厚く御礼申し上げます。

1999年3月

長坂町教育委員会

教育長 小松清寿

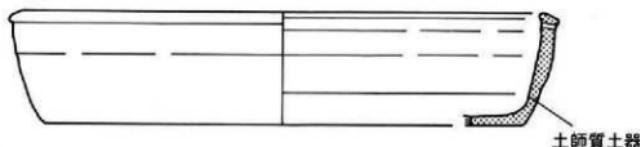


## 例　　言

- 1 本書は山梨県北巨摩郡長坂町塚川字前村に所在する宮久保遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は塚川団体営圃場整備事業にともない、長坂町役場産業課の委託を受け、長坂町教育委員会が実施した。
- 3 本書は、第1章1を小宮山隆（長坂町教育委員会学芸員）が執筆し、それ以外は村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が執筆・編集を行った。
- 4 現場の基準点測量については、（株）新生測量に委託した。
- 5 出土品および図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。
- 6 発掘調査および報告書作成にあたっては、関係諸機関・地元・多くの研究者の方々からのご指導・ご協力を賜った。厚く感謝申し上げる。

## 凡　　例

- 1 出土土器・土製内盤の縮尺は原則として1/3である。遺構・石器については各図のスケールを参照されたい。
- 2 石器の内、磨石・磨凹石・石皿の磨面はスクリーントーンで示している。
- 3 拓本で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。
- 4 描図中の土器は以下のとおりである。



# 宮久保遺跡

## 本文

## 挿図・表

序		図 1 長坂町の遺跡分布図	10
例言・凡例		図 2 宮久保遺跡の位置と周辺遺跡分布図	12
本文目次		図 3 宮久保遺跡調査区位置図	14
挿図・表目次		図 4 1号住居址・カマド実測図	31
写真図版目次		図 5 2号住居址・カマド実測図	32
第1章 調査の経過と概要	9	図 6 3号住居址実測図	33
1. 発掘調査に至る経過	9	図 7 4・5号住居址実測図	34
2. 発掘調査の概要	9	図 8 4・5号住居址カマド実測図	35
3. 発掘調査組織	9	図 9 6号住居址実測図	36
第2章 遺跡をとりまく環境	13	図 10 6号住居址土器分布図	37
1. 遺跡の立地	13	図 11 7号住居址実測図	38
2. 周辺の遺跡	13	図 12 7号住居址土器分布図	39
第3章 発見された遺構と遺物	15	図 13 8号住居址実測図	40
1. 遺構	15	図 14 1・2号竪穴遺構・土坑実測図	41
住居址	15	図 15 3号竪穴遺構・土坑実測図	42
竪穴遺構	20	図 16 土坑実測図	43
土坑・ピット	21	図 17 土坑実測図	44
遺物集中地點	26	図 18 土坑・ピット実測図	45
掘立柱建物跡	27	図 19 1号掘立柱実測図・ピット土層図	46
集石遺構	27	図 20 1号集石遺構	47
列石	27	図 21 2号集石遺構	48
2. 遺物	28	図 22 1号列石実測図	49
遺構外出土土器	28	図 23 1号住居址出土遺物	50
土製品	28	図 24 2号住居址出土遺物(1)	50
石器	28	図 25 2号住居址出土遺物(2)	51
第4章まとめ	117	図 26 3号住居址出土遺物(1)	51
		図 27 3号住居址出土遺物(2)	52
		図 28 4号住居址出土遺物(1)	52
		図 29 4号住居址出土遺物(2)	53
		図 30 4号住居址出土遺物(3)	54
		図 31 5号住居址出土遺物	55
		図 32 6号住居址出土遺物(1)	56
		図 33 6号住居址出土遺物(2)	57

## 挿図・表

図34 6号住居址出土遺物(3).....	58	図67 出土遺物(14).....	89
図35 6号住居址出土遺物(4).....	59	図68 出土遺物(15).....	90
図36 6号住居址出土遺物(5).....	60	図69 出土遺物(16).....	91
図37 6号住居址出土遺物(6).....	61	図70 出土遺物(17).....	92
図38 6号住居址出土遺物(7).....	62	図71 出土遺物(18).....	93
図39 6号住居址出土遺物(8).....	63	図72 出土遺物(19).....	94
図40 6号住居址出土遺物(9).....	64	図73 出土遺物(20).....	95
図41 6号住居址出土遺物(10).....	65	図74 出土遺物(21).....	96
図42 7号住居址出土遺物(1).....	65	図75 出土遺物(22).....	97
図43 7号住居址出土遺物(2).....	66	図76 出土遺物(23).....	98
図44 7号住居址出土遺物(3).....	67	図77 出土石器(1).....	99
図45 7号住居址出土遺物(4).....	68	図78 出土石器(2).....	100
図46 7号住居址出土遺物(5).....	69	図79 出土石器(3).....	101
図47 7号住居址出土遺物(6).....	70	図80 出土石器(4).....	102
図48 7号住居址出土遺物(7).....	71	図81 出土石器(5).....	103
図49 7号住居址出土遺物(8).....	72	図82 出土石器(6).....	104
図50 7号住居址出土遺物(9).....	73	図83 出土石器(7).....	105
図51 7号住居址出土遺物(10).....	74	図84 出土石器(8).....	106
図52 8号住居址出土遺物(1).....	74	図85 出土石器(9).....	107
図53 8号住居址出土遺物(2).....	75	図86 出土石器(10).....	108
図54 出土遺物(1).....	76	図87 出土石器(11).....	109
図55 出土遺物(2).....	77	図88 出土石器(12).....	110
図56 出土遺物(3).....	78	図89 出土石器(13).....	111
図57 出土遺物(4).....	79	図90 出土石器(14).....	112
図58 出土遺物(5).....	80	図91 出土石器(15).....	113
図59 出土遺物(6).....	81	図92 出土石器(16).....	114
図60 出土遺物(7).....	82	図93 出土石器(17).....	115
図61 出土遺物(8).....	83	図94 出土石器(18).....	116
図62 出土遺物(9).....	84	図95 小碟を敷き詰めた遺構.....	121
図63 出土遺物(10).....	85	図96 遺物分布図(1).....	122
図64 出土遺物(11).....	86	図97 遺物分布図(2).....	123
図65 出土遺物(12).....	87		
図66 出土遺物(13).....	88		

## 写真図版

図版1	宮久保遺跡全景	126	図版34	6・8号土坑	134
図版2	1号住居址	126	図版35	9・5号土坑(集石土坑)	134
図版3	2号住居址	126	図版36	100号土坑	135
図版4	2号住居址遺物出土状況	126	図版37	ピット1	135
図版5	作業風景	126	図版38	ピット4	135
図版6	3号住居址	127	図版39	F-5G a遺物出土状況	135
図版7	3号住居址遺物出土状況	127	図版40	垂飾(玉)出土状況(7号住居址)	135
図版8	4・5号住居址	128	図版41	水晶出土状況(3号住居址)	135
図版9	4号住居址カマド	128	図版42	1号暗渠	135
図版10	5号住居址カマド	128	図版43	3号住居址出土土器	136
図版11	4号住居址遺物出土状況	128	図版44	6号住居址出土土器	136
図版12	6号住居址	129	図版45	6号住居址炉体土器	136
図版13	6号住居址上層	129	図版46	6号住居址出土土器	136
図版14	6号住居址 炉	129	図版47	7号住居址埋設土器	136
図版15	7号住居址(1)	130	図版48	7号住居址出土土器	137
図版16	7号住居址(2)	130	図版49	8号住居址出土土器	137
図版17	7号住居址埋設土器	130	図版50	100号土坑出土土器	137
図版18	8号住居址	131	図版51	B-2出土土器	137
図版19	1号掘立柱建物跡	131	図版52	B-2出土土器	137
図版20	1号列石	132	図版53	B-2出土土器	137
図版21	1号竪穴遺構	132	図版54	B-2出土土器	138
図版22	1号溝	133	図版55	B-2出土土器	138
図版23	2号溝	133	図版56	B-2出土土器	138
図版24	2号竪穴遺構	133	図版57	2号住居址出土土器	138
図版25	1号集石	133	図版58	5号住居址出土土器	138
図版26	2号集石	133	図版59	4号住居址出土土器	138
図版27	1号土坑	133	図版60	5号住居址出土土器	138
図版28	9号土坑	134	図版61	4号住居址出土土器	138
図版29	19号土坑	134	図版62	出土石器(1)	139
図版30	20号土坑	134	図版63	出土石器(2)	140
図版31	21号土坑	134	図版64	出土石器(3)	141
図版32	27号土坑・ピット14	134	図版65	出土石器(4)	142
図版33	61・62・63・64号土坑	134	図版66	出土石器(5)	143

# 第1章 調査の経過と概要

## 1 発掘調査に至る経過

1979（昭和54）年度から始まった長坂町の圃場整備事業は、水田利用再編対策の推進、作物体系の確立、農地の集積による機械化と省力化等、農業基盤整備の確立を目的としている。町内の県営圃場整備事業は1994（平成6）年度にはほぼ完了したが、団体営による圃場整備申業は現在も町内の各所で行われている。

1996（平成8）年度に町産業課から、塚川地区で実施する団体営圃場整備事業について、埋蔵文化財の取り扱いに関する照会があり、町教育委員会では周知の埋蔵文化財包蔵地である宮久保遺跡が存在する旨を回答した。同時に、町教育委員会で現地踏査と確認調査を実施した。翌1997（平成9）年度には長坂町長から文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知（平成9年5月1日）が提出され、丁法的に埋蔵文化財の現状保存が困難な部分について長坂町教育委員会の直営により発掘調査を実施することになった。同年5月13日に重機による表土剥ぎを開始し、埋蔵文化財発掘調査の報告（平成9年6月19日）を行った。発掘調査には約4ヶ月を要し、同年9月27日に現場調査を完了し、同年10月2日に長坂警察署に遺物発見届を提出した。その後、整理作業を1998（平成10）年3月まで実施した。

## 2 発掘調査の概要

今回の調査区は圃場整備対象区域の、北東から南西に伸びる細長い範囲であり、調査面積は1,403m<sup>2</sup>である。そこに発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッドを設定し、南から北方向に1～8、西から東方向にA～Hとグリッド番号を付けた。

調査はまず始めに重機によって遺構面を覆っている表土（水田の耕作土）を剥ぎ取り、次に人力で丁寧に確認面の精査を行い、遺構確認を行った。遺物については必要なものを出土原位置の記録をし、取り上げ作業を行った。その後、土層断面図・遺構図・遺物出土状況写真・遺構写真等を図化・撮影し、調査を完了した。

発掘調査の結果は、巻末の発掘調査抄録を参照されたい。

## 3 発掘調査組織

事業主体	長坂町教育委員会				
事務局	教育長 小松 清寿 教育課長 植松 忠 教育係長 奥石 君夫				
調査担当	小宮山 隆（当時教育委員会埋蔵文化財担当） 村松 佳幸（当時教育委員会臨時職員）				
調査補助員	吉田 光雄				
発掘・整理作業員	横山 幸男	國府田孝吉	植松 重雄	塙原製裝重	小林 松男
	奥石 保孝	相吉いわと	小林はる代	秋山かつゑ	八卷 重子
	小林 裕	小林 敏江	小林 立枝	渡辺 早月	大柴 富子
	畑 梅子	井出 仁美	名取 初子	小尾トヨ子	長田加代子
	清水 純代	日向登茂子	橋本はるみ	石川 昭江	奈良 裕子
	小林 広美	山本 理奈	深沢 慶子	吉田 浩之	

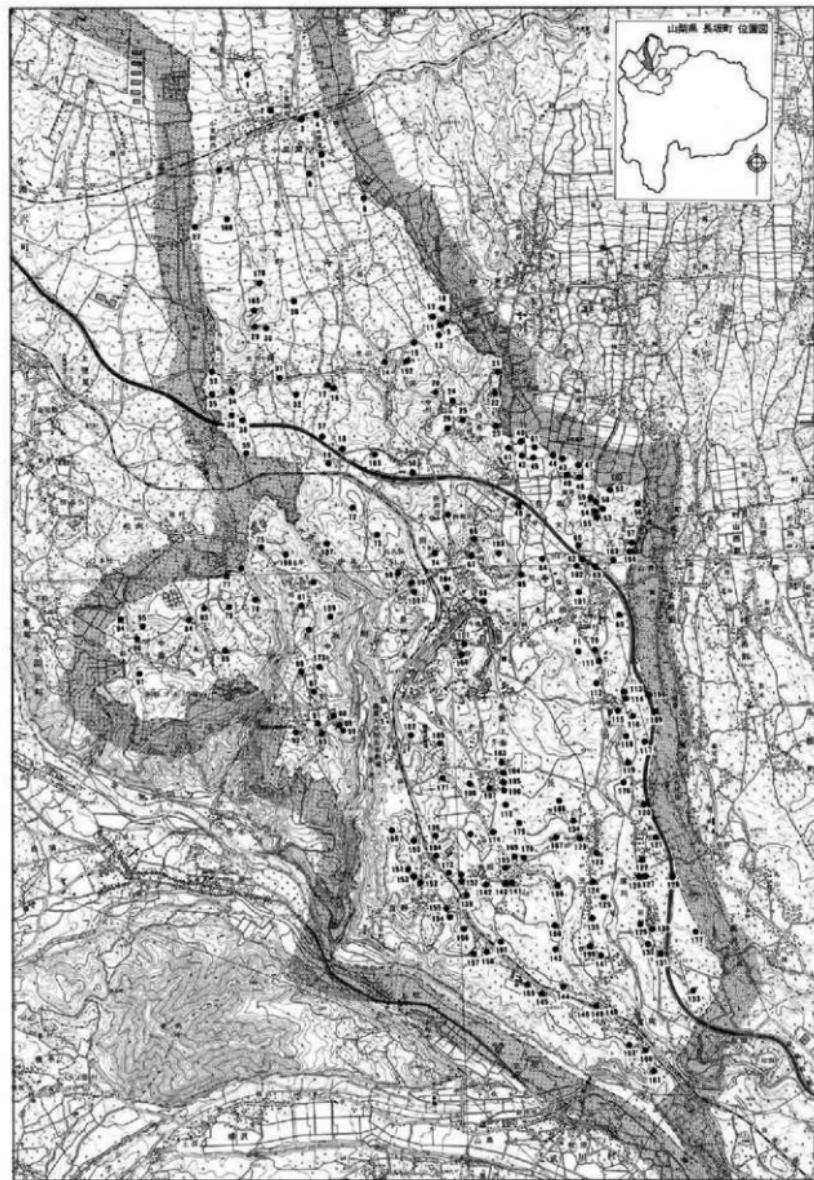


図1 長坂町の遺跡分布図

表1 長坂町の遺跡分布一覧

(縦=绳文時代 案=弥生時代 古=古墳時代 平=平安時代 中=中世)

001	耳塚 中	070	石原田南遺跡 縄 平 中	139	新居遺跡 縄
002	法性寺前遺跡 縄 中	071	源原遺跡 縄 平	140	相吉氏屋敷跡 中
003	信玄原遺跡 繩	072	越中久保遺跡 縄 平	141	和音遺跡 中
004	小糸間古戦場跡	073	久保遺跡 縄	142	上松氏居敷跡 平
005	桜畠跡 近	074	房屋數遺跡 縄	143	下屋敷遺跡 縄
006	小矢遺跡 近	075	治の平遺跡 縄	144	清水頭遺跡 縄 古 平
007	雲間遺跡 繩	076	東葉遺跡 3 平	145	向原遺跡 平
008	桜畠南遺跡 繩	077	東葉遺跡 2 平	146	三つ墓古墳 2 消滅
009	堀尾數東遺跡 縄	078	東葉遺跡 4 縄 平	147	原町農業高校前遺跡 縄
010	堀尾數北遺跡 縄	079	東葉遺跡 1 縄 平	148	三つ墓古墳 3 消滅
011	堀尾數遺跡 縄	080	和手東遺跡 中	149	三つ墓古墳 1 古
012	牛久保跡 縄 亦	081	小尾平遺跡 口石 縄	150	池之平A遺跡 縄
013	牛久保南遺跡 縄	082	間の岸遺跡 縄	151	池之平A遺跡 縄 平
014	沢入遺跡 縄 中	083	西麻東遺跡 平	152	向井丹下屋敷跡 中
015	宇平道跡 縄 中	084	西麻南遺跡 縄	153	池之平B遺跡 縄
016	東下屋敷遺跡 縄	085	西麻南遺跡 縄 平	154	上口野遺跡 縄 平
017	西下屋敷遺跡 縄	086	和手遺跡 縄 平	155	田中氏屋敷跡 中
018	新田森遺跡 縄	087	腰巻遺跡 縄	156	上日野A遺跡 縄 平
019	西下屋敷南遺跡 縄	088	城山上北遺跡 縄 平	157	上日野B遺跡 縄 平
020	横手遺跡 縄 中	089	城山上南遺跡 縄	158	上日野C遺跡 縄 平
021	牛之字遺跡 縄	090	中丸城跡 中	159	越久保遺跡 平 中
022	尾駒附跡 縄 中	091	尾久學遺跡 縄 平	160	日野塚遺跡 平
023	内城遺跡 中	092	清春白梅美術館南遺跡 縄	161	上日野原遺跡 縄 平
024	十郎林遺跡 縄	093	袖久保遺跡 縄	162	當同遺跡 近
025	阿原遺跡 平	094	後平遺跡 縄 平	163	櫻角遺跡 亦 古
026	中尾根遺跡 縄	095	武平北遺跡 縄 平	164	大井遺跡 縄
027	手白尾遺跡 縄	096	武平道跡 縄 平	165	中込遺跡 縄
028	夫婦石遺跡 縄	097	大平遺跡 縄 平	166	半白尾東遺跡 縄
029	樺山1遺跡 縄	098	下馬久保遺跡 縄	167	西屋敷遺跡 古
030	樺山2遺跡 縄	099	鳥久保遺跡 縄	168	上町南遺跡 縄
031	樺山平南遺跡 純 平	100	高松酒跡 縄	169	鶴角西遺跡 縄 古 平
032	葛原北遺跡 純 平	101	上南遺跡 縄 平	170	鶴角東遺跡 古 平
033	上フノリ平北遺跡 縄	102	酒呑谷遺跡 純 古 平	171	長坂上二条酒跡 縄 平
034	上フノリ平南遺跡 縄	103	東村A遺跡 縄 平	172	越久保遺跡 縄
035	上フノリ平西遺跡 縄	104	東村B遺跡 純 古 平	173	新宿区健康村遺跡 縄 平
036	下フノリ平北遺跡 縄	105	中村遺跡 古 平	174	長坂下一条・柴原
037	葛原遺跡 亦 亦	106	鰐田遺跡 平	175	鶴田遺跡 亦 平
038	下フノリ平南遺跡 純 中	107	西村遺跡 古 平	176	古屋敷遺跡 純
039	下フノリ平南遺跡 平	108	中反塙跡 縄 平	177	荒里遺跡 縄
040	別当西遺跡 純	109	中央・桃原	178	中込北遺跡 縄
041	別当十三塙 純	110	長坂氏屋敷跡 中	179	浜尻 上町遺跡 縄
042	別当十三塙	111	白山神社前遺跡 平	180	下屋敷北遺跡 縄 平
043	南新居北遺跡 中	112	上屋敷遺跡 縄 平	181	柳坪北遺跡 純 亦 平
044	深桑城址	113	大々神十三塙 中	182	柳坪北遺跡 純 亦 平
045	小和田遺跡 純 平	114	大々神A遺跡 平	183	境原遺跡 亦 平
046	南新居屋敷跡	115	大々神B遺跡 古 平	184	北村北遺跡 亦 亦 平
047	南新居遺跡 平	116	治郎田遺跡 古 平	185	酒呑場東遺跡 純 亦 亦 平
048	南新居西遺跡 平	117	黒鷲A遺跡 平	186	牛山遺跡 純
049	小和田跡	118	森木遺跡 亦 古	187	北村東遺跡 純 古
050	米山遺跡 牛石 純	119	塙川・柳坪遺跡 純	188	大久保北遺跡 純 中
051	米山東遺跡 平	120	黒鷲遺跡(2本木立跡) 純 古	189	天工堰古墳 古
052	豊田遺跡 平	121	新田遺跡 純	190	池之平北遺跡 純 平
053	豊田遺跡 崩 古 平	122	坂之輪遺跡 中	191	清水頭北遺跡 純 平
054	弥右衛門塚 1	123	原南北遺跡 平 中	192	宇千平の土壙
055	弥右衛門塚 2	124	原町遺跡 平	193	成間・慈塚
056	浜田北遺跡 平	125	上久遠北遺跡 純 平	194	馬越塚遺跡
057	浜田北遺跡 平	126	塙川の土塁 中	195	柳屋遺跡 純 平
058	東原の土塁	127	下村遺跡	196	治郎田北遺跡 純
059	東原遺跡 中	128	塙川十三塙群	197	竹原遺跡 純
060	柳坪新居遺跡 純 古 平	129	・鶴久保遺跡 純 平 中	198	天白城址 中
061	原田遺跡 純 平	130	下村南遺跡 純 平	199	下原遺跡 純
062	柳坪A遺跡 純 古 平	131	見里西遺跡 純 平		
063	柳坪B遺跡 純 古 平	132	勝見遺跡 純 平		
064	小屋敷遺跡 純 平	133	駒場遺跡 純 平		
065	久保塙遺跡 純	134	寺前遺跡 純 平 中		
066	成岡遺跡 亦 亦 平	135	上久遠遺跡 純		
067	成岡新田遺跡 亦 亦 平	136	反田遺跡 純 平 中		
068	お田遺跡 平	137	三井氏屋敷跡 中		
069	石原田北遺跡 純 平	138	北村遺跡 亦 古		

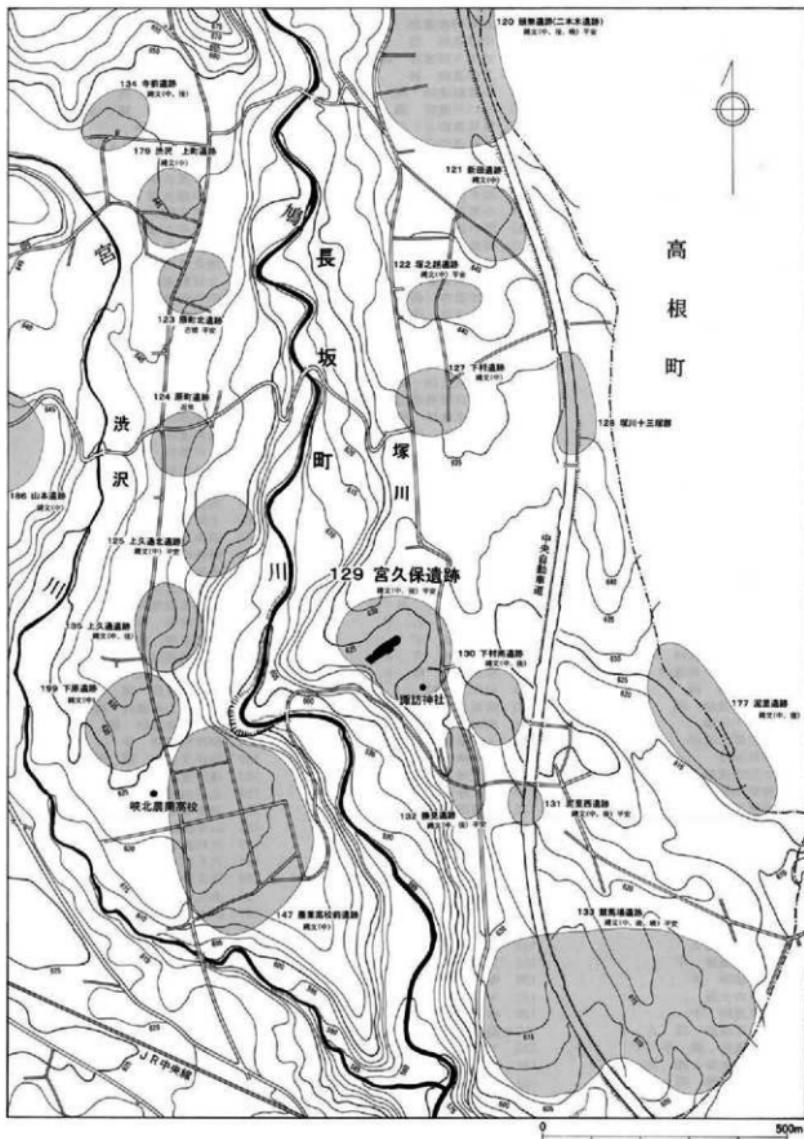


図2 宮久保遺跡の位置と周辺遺跡分布図

## 第2章 遺跡をとりまく環境

### 1 遺跡の立地

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町塚川字前村に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある塚川地区は町の南端部に位置する。堇崎岩屑流で出来た八ヶ岳南麓緩斜面は鳩川や泉川のような中小河川により浸食されているが、町南部ではその浸食力が増大し段丘崖を形成するに至っている。塚川地区はJR中央本線の通る段丘面の対岸にあたる鳩川の左岸段丘面上に位置する。段丘面上は縁辺部に行くにつれ、いくつかの尾根あるいは微高地が形成されている。本遺跡は諏訪神社のある微高地からその西側にある尾根状の台地にかけて立地する。今回の調査区はその微高地と台地に挟まれた低地部にあり、標高は約620mである。遺跡は段丘面の縁辺部に位置し、約50m南は鳩川との比高差が約20mある段丘崖になる。また、調査区は低地部であるため、表土から2m以上掘り下げるとき水が湧き出してくれる。

低地部の地層は、調査区北側の台地の裾部にあたる所からは黄褐色土層が確認できる。しかし、それはしっかりしたローム層とは違い、小礫が混じる砂質のような土層であった。それ以外の所は黄褐色土を含む暗褐色土の2次堆積層で、その中には拳大前後的小礫が数多く含まれている。縄文時代中期後半において近隣の頭無遺跡が磨石類を多数出土することで知られているが、この地域の地山に礫が多く含むことと関係しているのかもしれない。遺構はその層に構築されているのであるが、遺構覆土の暗褐色土は黒いので、遺構の中心は何となく分かることだが、外側に行くに従い色がぼやけてしまい、輪郭をつかむのに苦労した。

### 2 周辺の遺跡

長坂町南部にあたる塚川地区には現在のところ19遺跡が確認されており、縄文時代・平安時代の遺跡が多い。本遺跡から北へ約1.5km離れた頭無遺跡は、1973（昭和48）年に中央自動車道本線の建設に先立ち、山梨県教育委員会により発掘調査が行われている。その時に、縄文時代中期の住居跡が15軒、古墳時代前期の住居跡が2軒発見された。縄文時代中期後半の住居跡から出土した土器群は、山梨県に広く分布する曾利式土器の編年研究の基礎資料として欠くことのできないものである。また、本遺跡から南東へ約1kmのところにある競馬場遺跡は、1932（昭和27）年から知られている縄文中期から晩期の遺跡であり、1994（平成6）年に焼却灰処理施設建設に先立つ試掘調査において、縄文中期末の敷石住居跡や中期から晩期の土器が多量に出土した。塚川地区には縄文中期から晩期までの遺跡が分布している。

1969（昭和44）年には中央自動車道本線建設にともない塚川十三塚の測量・発掘が行われている。30基確認された塚と思われる小丘の内14基を地形測量し、6基を発掘調査している。出土遺物がほとんどないので小丘群の性格は不明であるが、「十三塚」と呼ばれる中世の信仰遺跡ではないかとの指摘がなされている。また、本遺跡から北へ約400mのところに塚川の塁跡がある。中世のものであるとは断定できないが、東西方向に約70m残存している。

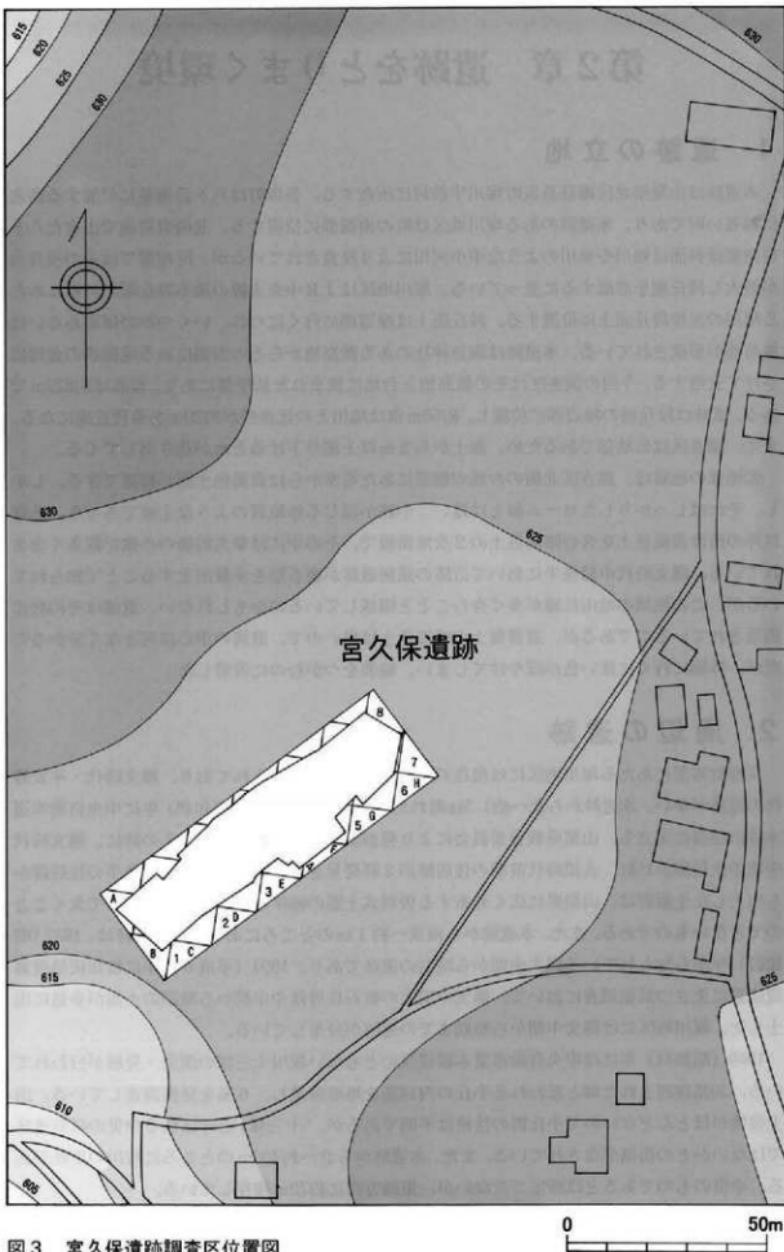


図3 宮久保遺跡調査区位置図

# 第3章 発見された遺構と遺物

## 1. 遺構

### 1号住居址（図4）

- （位置）調査区中央部や北東寄りのE-6・F-6グリッドにまたがって位置する。
- （重複）住居址とは重複していないが、カマドの西隣で浅い土坑と重複している。また、西隣で倒木痕と重複している。倒木痕は3.5m×2.2m深さ83cmの大きさで、褐色土の下に黒褐色土が入り込んでいるのでそれと判断し、そこから出土するのは自然疊のみで遺物はなかった。
- （形状）平面形は長方形をしている。
- （規模）長軸3.4m×短軸2.7mを測る。壁高は10cmと、掘り込みはそれほど残っていないかった。
- （床面）貼床・硬化面は確認されていない。
- （施設）カマドは南東壁の東寄りに設置されている。カマドには袖石になるような大きい石ではなく、掌大より小さな疊が多数出土している。カマド周辺に粘土は確認されなかったが、燃焼部に焼土が確認された。煙道が約60cmある。周溝はない。
- （遺物）図23 1:師器は図示できるようなものは出土しなかった。この住居址の覆土からは縄文土器がやや多く出土している。縄文後期壙之内式が多いが、数点中期前半の土器が出土している。
- （時期）時期決定できる遺物が出土していないので断定はできないが、カマドの位置が同じ2号住居址と同時期と思われ、後述する2号住居址が甲斐型土器編年XII期と考えられるので、その時期であろう。

### 2号住居址（図5）

- （位置）調査区中央部の北西の調査区壁際D-5・D-6グリッドに位置する。
- （重複）重複はないが、住居址の約半分が調査区外である。
- （形状）平面形は長方形をしていると思われる。
- （規模）調査区内では長軸（北東・南西方向）3m×短軸（北西・南東方向）1.5mを測る。壁高は18cmである。1号住居址と同じく掘り込みが深い。
- （床面）貼床は確認されていないが、床面全体が硬化している。住居の南側で一段高くなっているところがあり、そこも硬化していた。
- （施設）カマドは、1号住居址と同様に南東壁の東隣に設置されている。袖石に使われたと思われる疊が数点出土している。また、カマドの北側に焼土や小疊がまとまって出土している。粘土は確認されていない。住居南隅に貯蔵穴と思われるピットがある。周溝はない。

(遺物) 図24・25 1は甲斐型壺である。器高4.3cm×口径12.7cm×底径5cm、体部内面の縁文ではなく、底部は回転糸切り後一部をヘラ削りしている。口縁部の玉縁化が進んでいる。2～4は黒色土器の壺で、4には高台が付いている。2は器高4.8cm×口径16cm×底径9cm、3は器高不明×口径15cm×底径不明、4は器高不明×口径18.4cm×底径不明である。5～13は甲斐型甕、14は須恵器大甕の破片である。

(時期) 1の甲斐型壺から甲斐型土器編年XI～XII期と考えられる。

### 3号住居址(図6)

(位置) 調査区中央部のE-5グリッドに位置する。

(重複) 住居址とは重複しない。

(形状) 平面形は楕円形をしている。住居の壁の立ち上がりは緩やかで、皿状を呈している。

(規模) 長軸5.3m×短軸3.4mを測る。深さは25cmである。住居北側には段がある。

(床面) 桧大より小さな礫が住居中央部を中心に敷き詰められている。地山に含まれる礫とも考えたが、住居外にも、3号住居址を立ち割った土層断面にも小礫が密集している様子はなく、また、小礫の間には粘質のある黒褐色土と明褐色土が結び合っていたため、3号住居址の床面に敷き詰めてあるものと判断した。硬化面は確認されていない。通常の敷石住居の場合、小さい礫は大きい礫の間を埋めるように使われるが、小さい礫だけで敷石されているのはあまり例がない。なお、図の中央の大きな礫は覆土中出土のものである。

(施設) 炉は発見されなかった。北西の壁際のピットに中期末から後期初頭と思われる大型深鉢の口縁部(図26-1)が置かれていた。住居内に柱穴と思われるピットが數基発見されているが、規則的に配置されていない。住居址上端周辺にピットが巡っているので、むしろそれらを柱穴と考えた方がいいであろう。

(遺物) 図26・27 1は口縁部下約5cmの所に横位の微隆起線を施し、縦位の微隆起線で6単位に区画し、対になる2区画が無文で他の4区画は縄文を充填している。覆土中からは堀之内式を中心に出土している。

出土した石器は横刃形石器2点、磨石2点、凹石1点、磨・凹石3点、石錐1点、石皿2点の合計11点である。それ以外に水晶が住居の北側から1点出土している。

(時期) 1の土器から中期末～後期初頭と考えられる。

(備考) 3号住居址のような遺構は山梨県内には発見されていないようである。管見の限りでは、長野県諏訪郡富士見町店渡宮遺跡33号住居址のみである。店渡宮遺跡33号住居址は径が3.6mと小さいが、中央に大きめの炉がある。掘り込みが深く、手のひら大の平石も敷かれているが、桧大の小礫を住居の一部に敷き詰めている。他に長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡D-8号土坑も、土坑内部に偏平な小礫が貼り付けられている。これは墓坑と考えられており、3号住居址と比べ、大きさ・底部の礫の様子・土器の出土状況に違いがあるので、同じ性格のものではないが、ほぼ同時期の遺構であり、

小砾の在り方について考える上で貴重な事例となるであろう。

#### 4号住居址（図7・8）

（位置）調査区中央部やや西寄りのC-4・C-5・D-4・D-5グリッドにまたがって位置する。

（重複）5号住居址と重複している。4号住居址が5号住居址を切っている。

（形状）平面形は長方形をしていたと思われる。

（規模）上層断面の観察から長軸3.5m×短軸3.0mと推定される。壁高は37cmである。

（床面）カマドの前面に一部硬化面が確認された。

（施設）カマドが東壁の中央に作られている。袖石の列が1つ確認でき、天井石として使用されたと思われる扁平環も出土している。焼土粒は覆土中からやや多量に出土しているが、カマド内の燃焼部に焼土は確認できなかった。周溝はない。

（遺物）図28・29・30 1～6・8・9・49・53は甲斐型壺であり、どれも体部内面に暗文は施されていない。1は器高4cm×口径11.4cm×底径4.4cm、2は器高4.4cm×口径11.8cm×底径4.1cm、3は器高3.7cm×口径11.4cm×底径4.6cm、4は器高3.6cm×口径11.2cm×底径4.8cm、5は器高4.2cm×口径13.2cm×底径5.3cm、6は器高3cm×口径12.1cm×底径3.7cmである。49は器高4cm×口径11.5cm×底径4cm、53は器高4.8cm×口径15cm×底径不明である。7は墨色土器で、50・51・54～56は皿で、50は器高2.6cm×口径12cm×底径5cm、54は器高2.5cm×口径12cm×底径5.4cmである。11・13・14～32・37～40・57・59～68・70は甲斐型壺である。12・69は須恵器壺の破片である。他に縄文土器が少数出土している。

（時期）カマド周辺から出土した2・3・4・49の中斐型壺から甲斐型土器編年XI～XII期と考えられる。

#### 5号住居址（図7・8）

（位置）調査区中央部やや西寄りのC-4・C-5・D-4・D-5グリッドにまたがって位置する。

（重複）4号住居址と重複している。5号住居址は4号住居址に切られている。

（形状）平面形は長方形をしている。

（規模）長軸4.4m×短軸3.8mを測る。壁高は40cmである。

（床面）貼床・硬化面は確認されていない。

（施設）東壁のやや南寄りにカマドが作られている。左右の袖石が残っており、その外側に部分的に粘土が確認されたので、礫と粘土でカマドが構築されていたと思われる。燃焼部に焼土がわずかに確認されている。煙道はほとんどない。

（遺物）図29・31 図29-47・48・52は5号住居址から出土している。47は住居址の南コーナー、48は北コーナーからそれぞれ出土しており、両者とも体部外面に底部から口縁部

に向かって引かれた直線の刻線が施されている。47は3本-3本-1本、48は3本-3本-2本の組み合わせになっている。それらが奇しくも対になるように南北のコーナー付近から出土していることは、住居廃棄時のまじないであるかのように感じる。52は皿で器高2.8cm×口径14cm×底径6cmである。

図31-1~18・21・23~26は中變型壺である。27は鉢であるが、他の遺跡でよくみられる中變型壺と同じ技法・胎土の鉢ではなく、厚手でハケメも中變型壺よりも細かく幅狭く、口縁部の下に少し段が付けられている。口縁部の屈曲は緩やかであり、口径は36cmである。一見中世の土師質土器のようでもあるが、カマド周辺の中變型壺口縁部片の下から出土しているので、平安時代の土器であることは間違いないであろう。

(時期) 47・48の中變型壺から中變型土器編年X期と考えられる。

## 6号住居址(図9)

(位置) 調査区南端のB-2・B-3グリッドにまたがって位置する。

(重複) 南側で8号住居址とわずかに重複する。新旧関係は8号住居址の上に6号住居址が乗っているので、8号住居址が古く6号住居址が新しい。

(形状) 住居の壁が確認できなかったので不明であるが、西側の一部に壁際にめぐっていたと考えられる礫の列が発見されている。7号住居址が柄鏡形の敷石住居であるので、6号住居址も柄鏡形になる可能性もある。

(規模) 住居の形が不明であるが、敷石および土器が集中的に出土する範囲は約6m×6mである。

(床面) 北側と南側の一部に板状に割れる安山岩を使用した敷石部が発見された。住居内の全面に敷かれていたと思われるが、一部しか確認されなかった。ピットは40基見つかっている。

(施設) 石圓埋壺炉が住居の中央に設置されている。炉の東側と西側の礫はなかったが、北側に長細い礫が、南側に20~30cm大の礫が置かれている。内部から無文鉢形土器(図32-1)と深鉢形土器(図32-3)が出土している。

(遺物) 図32~41-1は鉢形の無文土器である。底部には網代痕が確認できる。3は深鉢形土器で、口縁部と底部が欠損している。「∞」字状文が張り付けられ、その上下に「U」字状の懸垂文が施される。4は堀之内式の潮顔形土器であり、大きい三角形モチーフが用いられている。他は堀之内式がほとんどで、少し中期後半の曾利式土器が出土している。

出土した石器は総計で80点である。その内訳は打製石斧6点、磨石33点、凹石24点、磨・凹石14点、多孔石1点、たたき石1点、石皿1点である。

(時期) 図32-1・3の炉体土器と覆土出土土器から判断すると、堀之内式期であろう。

(備考) 6号住居址の東隣から図60-48の深鉢形土器がつぶれた状態で出土している。

## 7号住居址（図11）

（位置）調査区南端のB-2・C-2グリッドにまたがって位置している。

（重複）重複はしていない。

（形状）柄鏡形をした敷石住居である。柄の部分は南側に張り出している。

（規模）円形の部分は長軸4.3m×短軸3.8mである。柄の部分は長さ1.75m×幅90cmである。

柄の部分より住居内の方へ一段低くなっている、その深さは34cmである。柄の部分の壁は確認できなかった。

（床面）硬化面は確認できなかった。柄の部分には敷石がされているが、6号住居址に使われていたような板状に割れる礫ではなく、扁平な礫の平坦面を利用して作られている。

（施設）炉は確認できなかった。しかし、後述するが、住居内から埋設土器が出土しており、その出土位置が炉と考えてもいいような位置であるので、もしかするとこれが炉になる可能性がある。

（遺物）図42~51 1は堀之内式の無文の朝顔形土器である。9は堀之内式の口縁部と思われ、波状口縁で、口縁部の下に2~3本の沈線を山形状につけて、その下に磨り消し繩文を施している。内面は波頂部に「の」字状文、その横に細長い梢円区画文と1条の沈線文を口縁部に沿って施している。

覆土中からは堀之内式がほとんどだが、それに混じって曾利式が少数出土している。

出土石器は打製石斧6点、横刃形石器1点、磨石5点、凹石11点、磨・凹石7点、多孔石1点、たたき石1点、石錐2点、石皿1点、石製円盤1点の合計36点である。

（時期）埋設土器の堀之内式期と同じかそれより古いと思われる。

（備考）住居内の覆土中に埋設土器が出土している。柄の部分の内側端から約90cm離れたところに、口縁部の一部と底部が打ち割られ、正位の状態で置かれていた。土器は堀之内式で、頸部にくびれを持つ深鉢形土器である。口縁部に1条の沈線が巡らされ、胴部には縦位に2本の沈線で4単位に区画され、その中に三角形モチーフ等を沈線で描いている。

## 8号住居址（図13）

（位置）調査区南端のA-2・B-2グリッドにまたがって位置している。

（重複）北側で6号住居址とわずかに重複している。また、100号土坑と接している。

（形状）不整な梢円形を呈している。

（規模）長軸5.0m×短軸4.45mである。壁高は34cmである。

（床面）硬化面は確認できなかった。住居の東側に人頭大より小さな礫が多量に出土している。しかし、特に敷き詰められている様子ではなく、流れ込んできているようである。

（施設）炉と考えられるような施設はない。埋窓も確認できなかった。

（遺物）図52・53 中期末から後期前半の土器が出土している。39は中期末の深鉢で口縁部の

3cm下に1条の横位隆帯を付けている。胴部の一部に縄文が確認された。

石器は打製石斧1点のみ出土した。

(時期) 図53-39の土器から中期末～後期初頭と考えられる。

### 1号堅穴遺構(図14)

(位置) 調査区中央や北寄りのD-6・E-6グリッドに位置する。

(重複) 3号土坑を切っている。

(形状) 平面形は円形である。落ち込みは、始めはなだらかであるが、途中で急に落ち込んでいく。

(規模) 長軸2.7m×短軸2.3mである。深さは1.3mである。

(遺物) 覆土上層から縄文土器が出土しているが、覆土中層からは50cm人の躰を始め大きな躰が放り込まれたように発見された。

(時期) 不明。

(備考) 約1.3mほど掘り下げたら水が湧いてきて、それ以上掘り進めなかった。遺構の形態・水の湧き出しを考えると井戸であった可能性が高い。

### 2号堅穴遺構(図14)

(位置) 調査区中央や北寄りのD-5・D-6グリッドに位置する。

(重複) 4号・6号土坑を切っている。

(形状) 平面形は梢円形を呈する。東壁は急に立ち上がるが、西壁はなだらかに立ち上がる。

(規模) 長軸3.4m×短軸2.8mである。深さは18cmである。

(遺物) 縄文土器数点と中世の土器が出土している。

(時期) 中世の遺構と思われる。

(備考) 東壁の中央に10~30cm大の躰で作られた石組が付設されている。一見するとカマドのようにも見えるが、躰が焼けている様子はなく床面に焼土も確認できないので、カマドと断定できない。手前には70cm大の扁平な躰が出土している。

### 3号堅穴遺構(図15)

(位置) 調査区中央や南寄りのC-4グリッドに位置する。

(重複) なし。

(形状) 北半分を調査区に切られているため不明である。

(規模) 調査区内では長さ1.56m×幅66cmである。深さは40cmである。

(遺物) 磨・凹石2点が出土している。

(時期) 不明。

(備考) 3号堅穴遺構の底面付近に砂が堆積していた。調査区のすぐ西側に水路が通っているので、3号堅穴遺構は旧水路の跡と考えられ、現在の水路が以前は調査区内にまで入

り込んでいたと思われる。

**土坑・ピット** 土坑101基、ピット921基発見されたが、紙面の都合上上なものだけ報告する。

### 1号土坑（図15）

（位置）調査区北寄りのF-7グリッドに位置する。（形状）円丸の長方形である。（規模）長軸2.4m×短軸1.35m、深さは10cmである。（遺物）図54 繩文土器片が少数出土しているが覆土中からであり、流れ込みと考えられる。（時期）不明。（備考）底部に径が10cm前後的小ピットが30個ほどあった。また、中央に炭化物が少しだけ出土している。

### 3号土坑（図14）

（位置）D-6グリッドに位置する。（形状）不整な梢円形を呈する。（規模）長軸1.66m×短軸1.26mである。深さは20cmである。（遺物）図54 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期の可能性がある。（備考）1号堅穴・4号土坑に切られている。

### 4号土坑（図14）

（位置）D-6グリッドに位置する。（形状）不整な凹形をしている。（規模）長軸1.34m×短軸1.3mである。深さは54cmである。（遺物）図54 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期の可能性あり。（備考）3・6号土坑を切っている。

### 6号土坑（図14）

（位置）D-6グリッドに位置する。（形状）円形であったと思われる。（規模）長軸93cm×短軸63cmである。深さは42cmである。（遺物）特になし。（時期）不明。（備考）2号堅穴・4号土坑に切られている。

### 7号土坑（図15）

（位置）D-5グリッドに位置する。（形状）不整な梢円形をしている。（規模）長軸1.48m×短軸1.00mである。深さは20cmである。（遺物）土器は出土していないが、5～20cm大の礫が土坑中央に密集して出土している。（時期）不明。（備考）東側でピットと接している。

### 8号土坑（図15）

（位置）C-5・D-5グリッドに位置する。（形状）不整な梢円形を呈する。（規模）長軸1.98m×短軸1.4mである。深さは22cmである。（遺物）図54 繩文土器が少数出土している。（時期）繩文時代の可能性あり。（備考）西側でピットと接している。

### 9号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 不定形である。(規模) 長軸2.35m×短軸1.82mである。深さは31cmである。(遺物) 土器は出土していないが、人頭大から拳大の礫が多数出土している。(時期) 不明。(備考) 12・14・16・18号土坑に切られている。

#### 10号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 楊円形である。(規模) 長軸1.18m×短軸0.76mである。深さは15cmである。(遺物) 土器は出土していないが、拳大の礫が多数出土している。(時期) 不明。(備考) 11号土坑に切られていて、12号土坑と接している。

#### 11号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 楊円形。(規模) 長軸0.8m×短軸0.53m×深さ19cmである。(遺物) 図54。繩文土器数点。(時期) 不明。(備考) 10号土坑を切っている。

#### 12号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 不整な楊円形を呈する。(規模) 長軸1.02m×短軸0.66mである。深さは22cmである。(遺物) 磚数点。(時期) 不明。(備考) 9・14号土坑を切り、10号土坑と接している。

#### 14号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 不整な凹形をしている。(規模) 長軸0.38m×短軸0.24mである。深さは12cmである。(遺物) 磚1点出土。(時期) 不明。(備考) 9号土坑を切り、12号土坑に切られている。

#### 15号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 円形である。(規模) 長軸0.55m×短軸0.52mである。深さは8cmである。(遺物) 磚2点。(時期) 不明。

#### 16号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 円形をしている。(規模) 長軸0.56m×短軸0.46mである。深さは30cmである。(遺物) 磚数点。(時期) 不明。(備考) 9号土坑を切っている。

#### 17号土坑（図15）

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 円形である。(規模) 長軸0.5m×短軸0.49mである。深さは11cmである。(遺物) 特になし。(時期) 不明。

#### 18号土坑（図15）

(位置) D - 5 グリッドに位置する。(形状) 楕円形である。(規模) 長軸0.43m × 短軸0.3 m × 深さ17cmである。(遺物) 特になし。(時期) 不明。(備考) 9号土坑を切っている。

#### 19号土坑（図15）

(位置) C - 4 グリッドに位置する。(形状) 楕円形をしている。(規模) 長軸1.08m × 短軸0.72m である。深さは14cmである。(遺物) 磨3点。(時期) 不明。

#### 20号土坑（図16）

(位置) C - 4 グリッドに位置する。(形状) 不整な椭円形である。(規模) 長軸1.08m × 短軸0.84m である。深さは26cmである。(遺物) 磨数点。(時期) 不明。

#### 21号土坑（図16）

(位置) C - 4 グリッドに位置する。(形状) 凹形である。(規模) 長軸0.61m × 短軸0.54m である。深さは24cmである。(遺物) 磨3点。(時期) 不明。

#### 22号土坑（図16）

(位置) C - 4 グリッドに位置する。(形状) 不整な椭円形を呈している。(規模) 長軸2.31m × 短軸1.28m である。深さは23cmである。(遺物) 磨が数点出土している。(時期) 不明。

#### 23号土坑（図15）

(位置) D - 4 · D - 5 グリッドに位置する。(形状) 円形を呈している。(規模) 長軸0.44m × 短軸0.41m である。深さは8cmである。(遺物) 磨1点。(時期) 不明。

#### 24号土坑（図15）

(位置) D - 4 · D - 5 グリッドに位置する。(形状) 楕円形である。(規模) 長軸0.69m × 短軸0.47m である。深さは17cmである。(遺物) 磨1点。(時期) 不明。

#### 25号土坑（図15）

(位置) D - 5 グリッドに位置する。(形状) 不整な円形と思われる。(規模) 長軸0.61m × 短軸0.42m × 深さ20cm。(遺物) 磨1点。(時期) 不明。(備考) 他の土坑に切られている。

#### 26号土坑（図15）

(位置) D - 5 グリッドに位置する。(形状) 円形である。(規模) 長軸0.6m × 短軸0.56m である。深さは55cmである。(遺物) 磨数点。(時期) 不明。(備考) 他の土坑を切っている。

#### 27号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 不整な楕円形を呈している。(規模) 長軸0.77m × 短軸0.58mである。深さは14cmである。(遺物) 磨が数点出土している。(時期) 不明。

### 37号土坑（図16）

(位置) E - 6 グリッドに位置する。(形状) 不定形である。(規模) 長軸1.02m × 短軸0.74mである。深さは55cmである。(遺物) 図54。縄文土器数点出土している。(時期) 縄文時代後期堀之内式期と思われる。

### 38号土坑（図16）

(位置) E - 6 グリッドに位置する。(形状) 不定形である。(規模) 長軸1.4m × 短軸0.91mである。深さは68cmである。(遺物) 図55。縄文土器が少數と図77-7の磨製石斧が出土している。(時期) 縄文後期堀之内式期と思われる。

### 61号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 不整な楕円形を呈している。(規模) 長軸1.05m × 短軸0.7mである。深さは30cmである。(遺物) 図55。縄文土器が少數出土している。大縄と小縄が少數出土している。(時期) 不明。

### 62号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 円形を呈している。(規模) 長軸0.56m × 短軸0.52m × 深さ20cmである。(遺物) 磨2点。(時期) 不明。(備考) ピットを切っている。

### 63号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 円形である。(規模) 長軸0.76m × 短軸0.72mである。深さは13cmである。(遺物) 量大の研が少數出土している。(時期) 不明。

### 64号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 不整な円形をしている。(規模) 長軸0.61m × 短軸0.55mである。深さは12cmである。(遺物) 研1点。(時期) 不明。

### 66号土坑（図16）

(位置) D - 5 グリッドに位置する。(形状) 楕円形をしている。(規模) 長軸0.95m × 短軸0.6mである。深さは16cmである。(遺物) 研数点。(時期) 不明。

### 68号土坑（図16）

(位置) E - 5 グリッドに位置する。(形状) 不整な椭円形である。(規模) 長軸1.45m × 短軸

0.84mである。深さは57cmである。(遺物) 大礫と小礫が多数出土している。(時期) 不明。

### 86号土坑(図17)

(位置) E-4・E-5グリッドに位置する。(形状) 不定形である。(規模) 長軸3.32m×短軸1.72mである。深さは30cmである。(遺物) 磨が少数出土している。(時期) 不明。

### 87号土坑(図17)

(位置) D-3・D-4グリッドに位置する。(形状) 不整な円形を呈している。ピットが3基ある。(規模) 長軸1.22m×短軸1.21mである。深さは29cmである。(遺物) 大礫と小礫が数点出土している。(時期) 不明。(備考) 他の土坑と接している。

### 88号土坑(図17)

(位置) D-4グリッドに位置する。(形状) 不定形である。(規模) 長軸2.35m×短軸1.55mである。深さは44cmである。(遺物) 磨が2点出土している。(時期) 不明。

### 89号土坑(図17)

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 不整な梢円形である。(規模) 長軸1.54m×短軸0.88mである。深さは16cmである。(遺物) 拳人の磨が数点出土している。(時期) 不明。

### 95号土坑(図17)

(位置) D-5グリッドに位置する。(形状) 円形の土坑と不定形な土坑が重なっている。(規模) 全体の規模は長軸2.14m×短軸1.09m、深さは44cmである。円形の土坑の規模は長軸1.07m×短軸0.98m、深さは44cmである。(遺物) 円形の土坑の上層で拳大の磨が密集しており、下部でも土坑中央に扁平な磨を置きその周りを磨で固めてあった。覆土中に炭化物の粒が多量に含まれていた。土器は出土していない。(時期) 不明。

### 100号土坑(図13)

(位置) B-2グリッドに位置する。(形状) 不整な円形を呈している。(規模) 長軸0.8m×短軸0.72mである。深さは42cmである。(遺物) 図52-1が出土している。口縁部の下に1条の横位隆帯を付け、他は無文である。(時期) 繩文中期末～後期初頭と考えられる。

### 101号土坑(図18)

(位置) B-1グリッドに位置する。(形状) 円形である。(規模) 長軸0.71m×短軸0.62mである。深さは35cmである。(遺物) 土坑内ではないが、土坑の上部および周辺から繩文後期壠之内式の無文深鉢(図61-101)が出土している。(時期) 繩文後期壠之内式期と思われる。

### ピット8（図18）

（位置）F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸43cm×短軸35cm×深さ20cm（遺物）

図56 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期壙之内式期と思われる。

### ピット9（図18）

（位置）F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸37cm×短軸33cm×深さ26cm（遺物）

図56 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期壙之内式期と思われる。

### ピット10（図18）

（位置）F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸37cm×短軸34cm×深さ23cm（遺物）

図56 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期壙之内式期と思われる。

### ピット11（図18）

（位置）F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸33cm×短軸32cm×深さ21cm（遺物）

図56 繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期壙之内式期と思われる。

### ピット13（図18）

（位置）F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸22cm×短軸21cm×深さ18cm（遺物）

特になし。（時期）不明。

### ピット198（図18）

（位置）F-5・F-6グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸53cm×短軸39cm×深さ15

cm（遺物）繩文後期壙之内式が数点出土している。（時期）繩文後期壙之内式期と思われる。

### F-5 G a 〈遺物集中地点〉（図18）

（位置）D-5グリッドに位置する。（規模）約50cm×50cmの範囲で遺物が数点まとめて出土し、その下からピットが8基確認できた。（遺物）壙之内式の土器口縁部片（図72-3）や蛇紋岩製の玉末製品（図77-8）、石錘（図78-11）、磨・凹石（図89-6）、凹石（図89-8）がまとめて出土した。その下にピットが8基ほど確認されたが、これらの遺物と関係があるか不明である。遺物の出土状況を見ると、壙之内式土器の口縁部片は磨・凹石に立てかけられており、あたかも土坑に副葬されていたかのようであった。確認できなかつたが、土坑があった可能性もある。（時期）繩文後期壙之内式期である。

### F-5 G b 〈遺物集中地点〉（図18）

（位置）D-5グリッドに位置する。（規模）土器片と石が50cm×30cmの範囲でまとめて出土した。（遺物）壙之内式の無文土器が2点出土している。その下には土坑やピットは確認できな

かったが、北側約80cmの所にF-5 G aがあり、疊の出土状況が密集した様になっているので、遺構と認定した。(時期) 繩文後期堀之内式期である。

### 1号掘立柱建物跡(図19)

(位置) C-3・C-4グリッドに位置する。(規模) 2間×3間の長方形をしている。長さは長軸方向が5.51mで、短軸方向が4.24mを測る。ピットは全部で10基確認でき、各ピットの大きさは次の通りである。(長軸cm×短軸cm×深さcm)

ピット1	50×47×21	ピット2	46×43×14	ピット3	55×47×17
ピット4	50×46×26	ピット5	63×48×28	ピット6	60×55×20
ピット7	43×41×22	ピット8	41×38×16	ピット9	48×32×20
ピット10	52×50×20				

(遺物) 図56 繩文後期堀之内式が数点出土している。(時期) 時期決定できるような遺物が出土していないので断定できないが、近くから平安時代の住居跡が発見されており、かつ、遺構の軸がほぼ同じであるので、平安時代のものと考えられる。

### 1号集石遺構(図20)

(位置) B-2・B-3グリッドに位置する。6号住居址の上に作られていた。(規模) 3.1m×2.5mの範囲で疊が密集していた。(遺物) 繩文土器が多数出土している。(時期) 繩文土器が多く混じっているが、集石の出土位置が明らかに高く、繩文時代のものではない。

### 2号集石遺構(図21)

(位置) E-4・F-4グリッドに位置する。(規模) 6.5m×2.0mの範囲で疊がかたまって出土した。(遺物) 繩文土器が少数出土している。(時期) 1号集石と同じく、他の繩文遺構とは出土位置が違うので、繩文時代のものではない。

### 1号列石(図22)

(位置) E-4・E-5グリッドに位置する。(規模) 大疊が14個、小疊が数十個で構成されている。疊は北から東へ北東側に膨らみながら弧を描くように並んでおり、弧の半径は約10mである。円形には並んでいなかった。疊のほとんどが彈石安山岩である。大疊の下部には浅い土坑が掘られていた。おそらく、墓坑が並んだものと思われる。(遺物) 中央にあるI-J間の大疊の下から図57-1号列石-1が出土している。注口土器の把手であり、堀之内II式である。(時期) 図57-1や列石の周辺から出土する土器から堀之内II式期と考えられる。(備考) ほぼ同時期と考えられる6・7号住居址とは約35m北に離れている。すぐ北には3号住居址があるが、3号住居址の方が時期は古く、同時に存在はしていない。また、地山には拳大前後の疊は数多く含まれているが、列石を構成するような大疊は含まれていないので、おそらく近くの河原から運んできたものと思われる。

## 2. 遺物

### 遺構外出土土器（図59～75）

今回の発掘調査で、縄文時代の土器が多数出土している。そのほとんどが後期の壙之内式であり、中期末の土器も少なからず出土している。それ以外は中期前葉から中葉の土器が数点出土するぐらいであり、遺跡の主的な時期は中期末から後期前半であり、主に後期壙之内式である。縄文時代の遺物は調査区の南半分で出土量が多く、遺構もそのような傾向である。

図59-B2-1・5は壙之内Ⅱ式の浅鉢形土器である。図60-48は縄文中期末の深鉢形土器である。おそらく口縁部3cm下に1条の隆帯を付ける土器であると考えられる。胴部には櫛状の工具で縦に懸垂文を施している。図60-66はミニチュア土器である。口縁部に横位の沈線を引き、胴部に複雑な沈線文を施している。図61-101は縄文後期の深鉢形土器である。頸部から外に開いて、口縁部で「く」字状に内側に折れ、口唇部外側に1条の沈線を入れている。図65-448は縄文後期壙之内式の深鉢形土器である。

### 土製円盤（図76）

土製円盤は全部で38点出土している。無文のものが多いが、文様のあるものでは縄文のものと沈線文のものがある。中には底部を利用したものもある。

### 石器（図77～94）

今回の調査で出土した石器・石製品は全部で318点である。その内訳は石鏃3点、石錐14点、打製石斧37点、横刃形石器14点、磨製石斧7点、磨石78点、磨・凹石63点、凹石69点、礫石7点、石皿7点、多孔石10点、石棒2点、茶臼1点、石製円盤1点、水晶1点、磁石2点、垂飾（玉）1点、玉未製品（蛇紋岩製）1点である。以下、各器種ごとに概要を述べていく。

### 石鏃（図77-1～3）

石鏃は3点出土している。全て無茎凹基で、黒曜石製である。大きさも2cm弱とほぼ同じである。

### 磨製石斧（図77-4～7・9～11）

磨製石斧は8点出土している。完形は4だけで、他のものは刃部や基部が欠損している。4～7・9は定角式で、10・11は偏平な乳状をしている。

### 石錐（図78）

石錐は14点出土している。長軸方向に切れ込みがある8点（1・3・4・5・7・11・13・14）、短軸方向に切れ込みを持つもの5点（2・6・8・9・10）、長軸と短軸の両方向に切れ込みを持つもの1点（12）がある。切れ込みはほとんどが打ち欠いて作られているが、13・14

はわずかに切れ込みが磨かれている。

北巨摩都内では須玉町上ノ原遺跡（100点以上）、韮崎市新田遺跡（27点）、明野村屋敷添遺跡（27点）に次ぐ出土量の多さである。石錘が10点以上出土する遺跡は以外と少ない。

#### 打製石斧（図79-2・3・5～11・13～15・17、図80-1・2）

打製石斧は37点出土し、そのうち15点図示した。短冊形17点、揆形11点、不明9点である。縄文時代の石器315点における打製石斧の比率は11.7%である。中部高地における中期中葉の圧倒的な出土量と比べるとかなり少ない。中部高地では、中期後半から石器組成における打製石斧の割合が減少していき、後期になると磨石・凹石より割合が少なくなる傾向があり、本遺跡も該期の様相に当てはまる。

#### 横刃形石器（図79-1・4・12・16・21・22、図80-3・4）

横刃形石器は14点出土し、そのうち8点図示した。打製石斧より厚さが薄く、側縁の片側に刃部を作り出している。鎌のような機能を持っていたと考えられる。

#### 磨石、凹石、磨・凹石（図80-5～12、図81～91）

本遺跡から磨石78点、凹石69点、磨・凹石（磨面と凹みをもつもの）63点の合計210点出土した。縄文時代の石器の中で最も出土量が多く、石器組成の主体をなすものであり、その割合は66.6%にもなる。今回はそのうち132点図示した。

磨石、凹石、磨・凹石のうちそれぞれの割合は、磨石37.1%、凹石32.9%、磨・凹石30%となり、わずかに磨石の割合が多いが、ほぼ同じとみてよいだろう。石材は八ヶ岳山麓から産出する輝石安山岩がほとんどであり、在地の石材を利用している。

#### 多孔石（図92・93）

多孔石は10点出土している。拳大から人頭大の大きさの、不定形な自然礫に多くの凹みがあるものである。

#### 石皿（図94-1～3）

石皿は7点出土している。ほとんどが四面を持つ石皿であるが、2は平坦な作業面を持っている。

#### 砥石（図94-4・5）

砥石は2点出土している。どちらも平安時代のものと考えられる。

#### 茶臼（図94-6）

茶臼は1点のみ出土している。茶臼の下臼であり、かろうじて受け皿部につながる部分が残っ

ていたので茶臼と判明した。全体の1/6ぐらいの破片である。

### 石棒（図77-13、図94-7）

石棒は2点出土している。図77-13は小型のものであり頭部は欠損していて不明である。図94-7は大型のもので2号集石の中に混ざっていた。表面は敲打で形を作りだしている。こちらも半分が欠損していて全体の様子は不明である。

### 垂飾（玉）（図77-12）

垂飾が1点出土している。長軸2.5cmの梢円形をした滑石に、中心からやや上方にずれたところに径6mmの孔を空けている。7号住居址から出土し、縄文後期壠之内式期のものであろう。

### 水晶（図77-14）

水晶が3号住居址から1点出土している。胴部断面が六角形をした自然の結晶であり、六角錐の頭が残っている。頭の先端にわずかに摩耗した跡がみられる。道具として使用されていた可能性がある。

八ヶ岳山麓から水晶は産出しないので、水晶の産出する甲府市北部の金峰山周辺や南アルプスの甲斐駒ヶ岳周辺から持ち込まれたものである。山梨県内の縄文時代遺跡において、水晶が出土することは少なからずあるのだが、石礫等の石器石材として持ち込まれるため、水晶破片や石英破片が数点発見されることが多い。しかし、本遺跡からはこの水晶結晶1点だけであり、他の破片が出土していない。想像力をたくましくすれば、石器石材としてではなく水晶の美しさに魅了され、所持するために持ち込まれたと思われる。

### 石製円盤（図77-15）

石製円盤が1点、7号住居址から出土している。周りを打ち欠いて製作している。

この中で、砥石と茶臼以外は縄文時代のものと考えられる。出土土器には中期中葉から後期前半まであるが、中期末と後期壠之内式が主体となるので、石器のほとんどがそのどちらかの時期に帰属すると思われる。組成の中で注目されるのは、磨石・凹石が多く出土することである。縄文時代のものと思われる315点の石器の内、磨石・凹石が占める割合は66.6%にもなる。本遺跡の北約1.5kmにある頭無遺跡からは中期後半の集落が発見されているが、同時期の遺跡と比べると、磨石・凹石が数多く出土している。そのことから、縄文時代中期において集落間に生業差があり、分業が行われていたのではとの指摘もある（末木1987）。

本遺跡の遺構確認層には、磨石・凹石に使えそうな礫が多量に含まれているので、磨石・凹石の材料には事欠かなかったであろう。本遺跡は中期末から後期前半の遺跡であり、時期的に磨石・凹石が多くなる時期ではあるが、縄文時代中期後半から後期前半まで、頭無遺跡を含め、この地域では磨石・凹石を多く出土することが特徴であると言えるだろう。

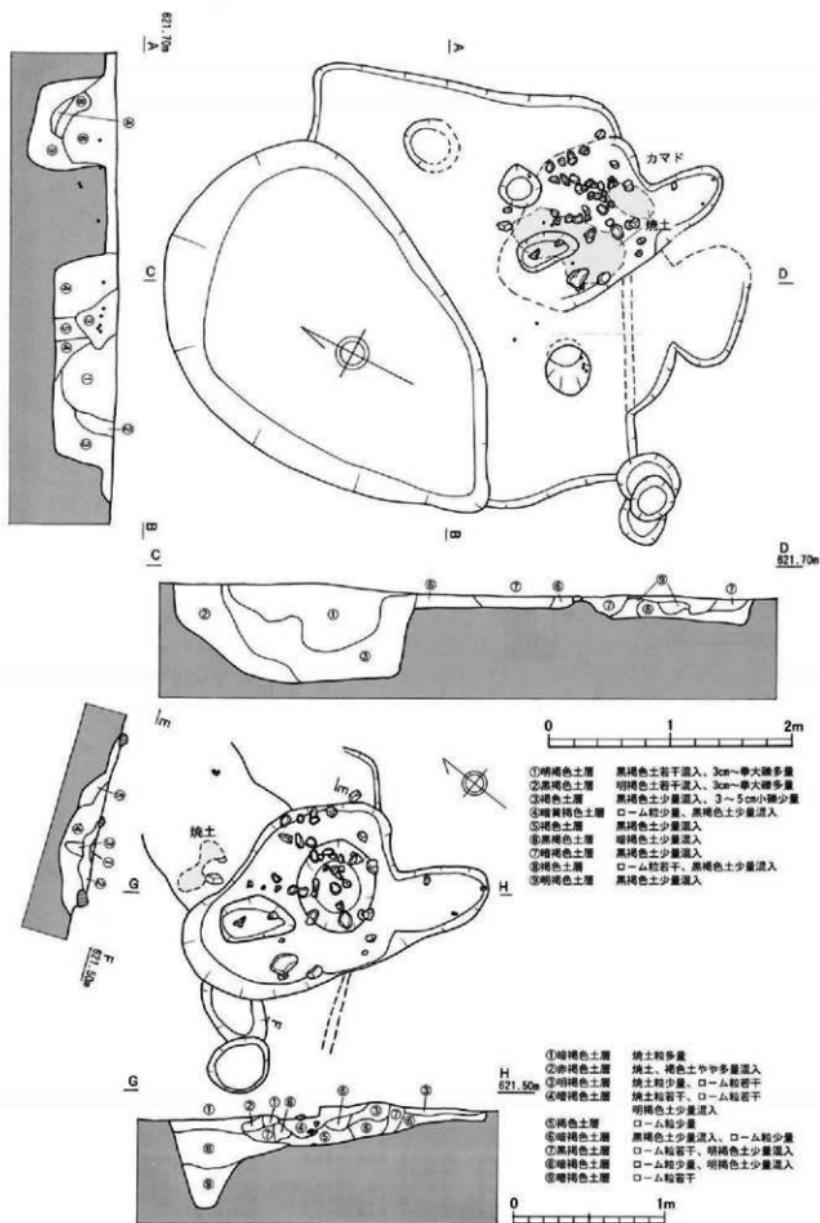


図4 1号住居址・カマド実測図

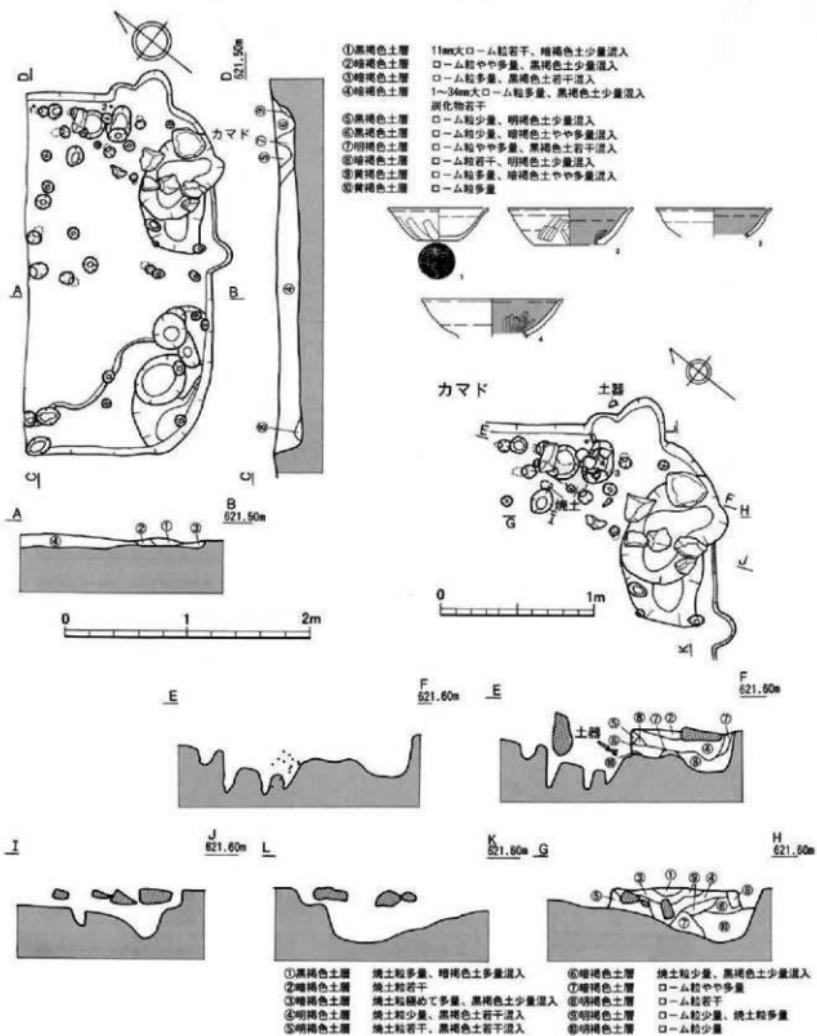


図5 2号住居址・カマド実測図

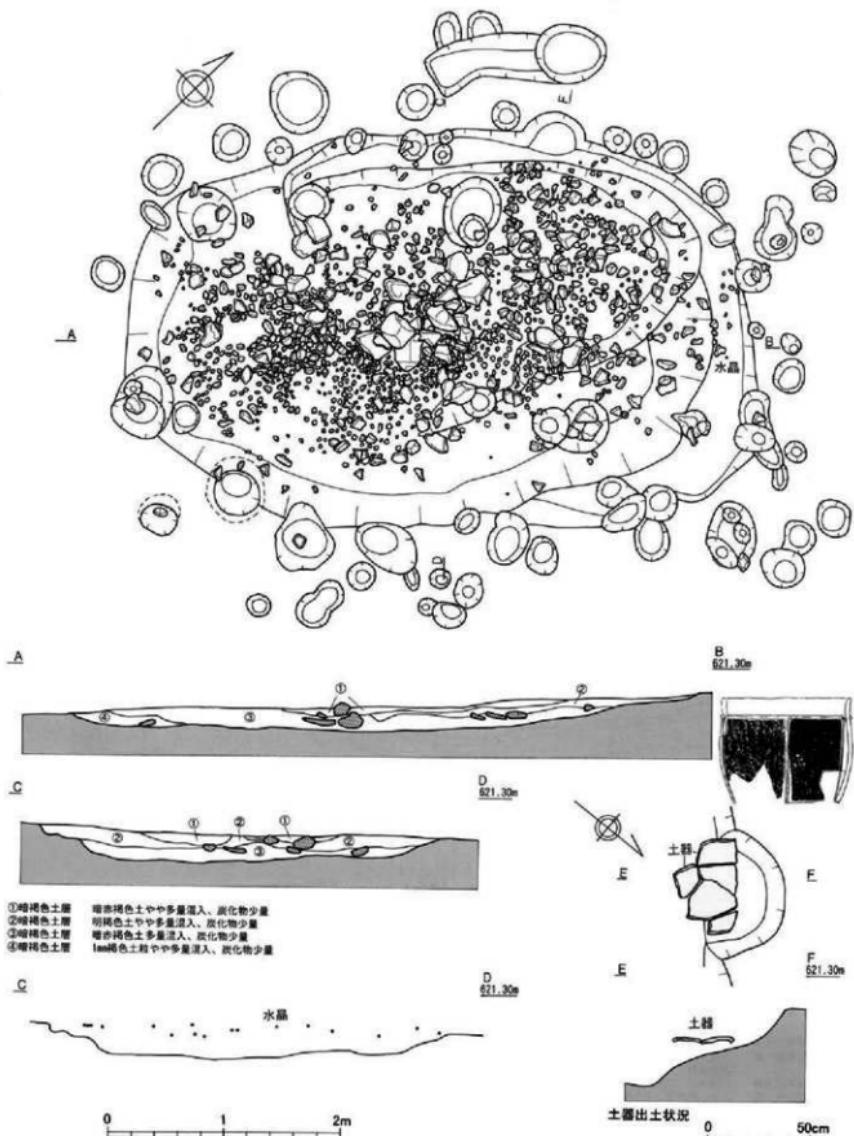
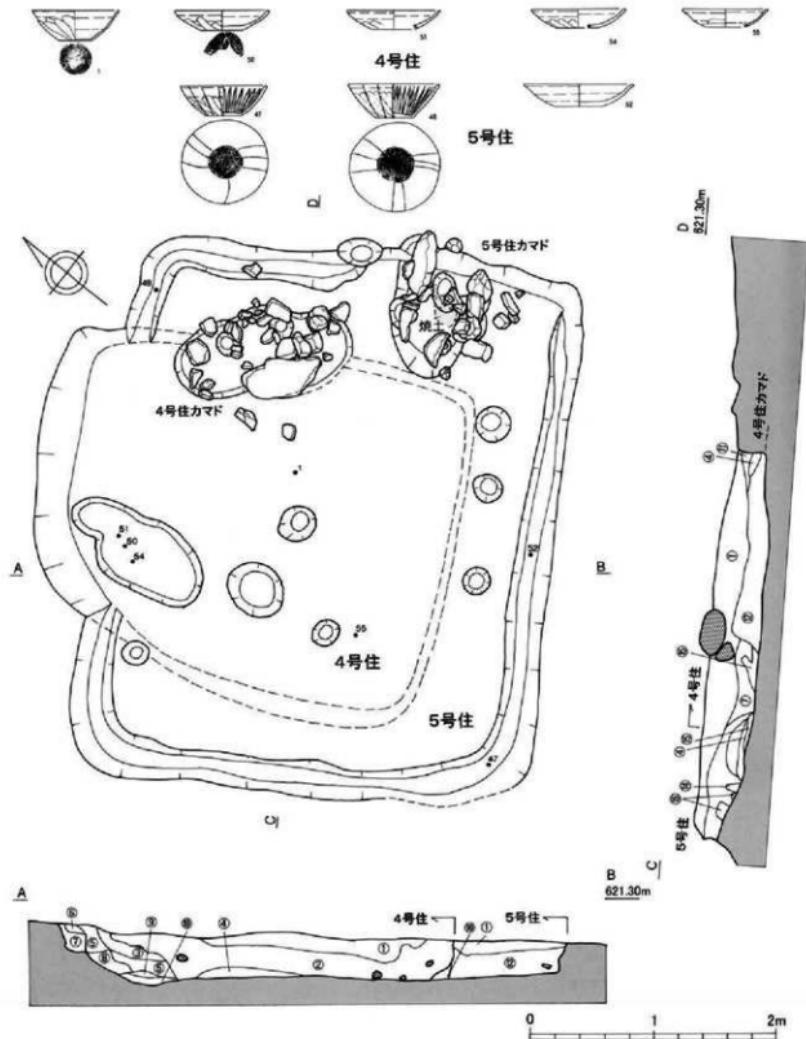


図 6 3号住居址実測図



- ①暗褐色土層  
 ②暗褐色土層  
 ③暗褐色土層  
 ④明褐色土層  
 ⑤暗褐色土層  
 ⑥褐色土層  
 ⑦褐色土層  
 ⑧褐色土層
- 1mm大ローム粒若干  
 5mm大ローム粒少量、黒褐色土少量混入。  
 黄褐色若干  
 1mm大ローム粒やや多量、明褐色土多量混入  
 ローム粒多量、炭化物若干  
 ローム粒多量、明褐色土少量混入、炭化物少量  
 ローム粒少量、炭化物若干  
 5mm大ローム粒やや多量、褐色土多量混入  
 ローム粒やや多量、褐色土やや多量混入

- ⑨暗褐色土層  
 ⑩暗褐色土層  
 ⑪暗褐色土層  
 ⑫暗褐色土層  
 ⑬明褐色土層  
 ⑭黃褐色土層
- ローム粒多量  
 1~5mm大ローム粒少量  
 ローム粒少量  
 5mm大ローム粒少量、炭化物若干  
 1~5mm大ローム粒やや多量、炭化物やや多量  
 褐色土少量混入  
 1~5mm大ローム粒、炭化物少量  
 ローム粒やや多量、暗褐色土少量混入

図7 4・5号住居址実測図

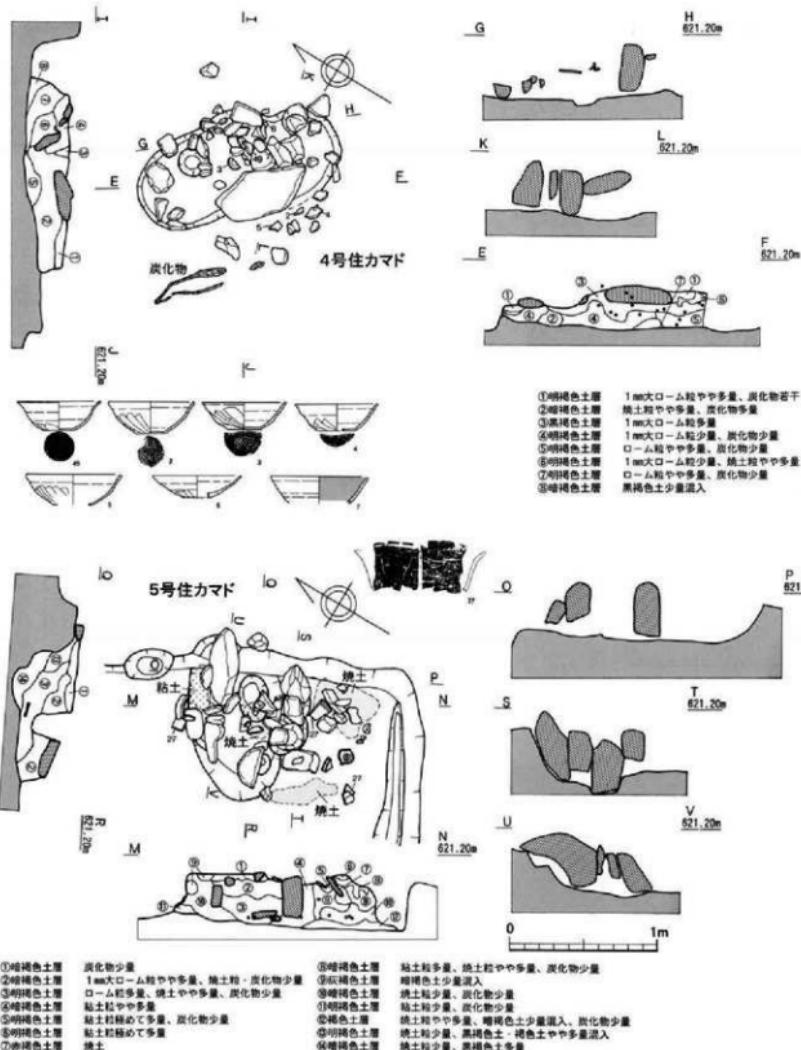


図8 4・5号住居址カマド実測図

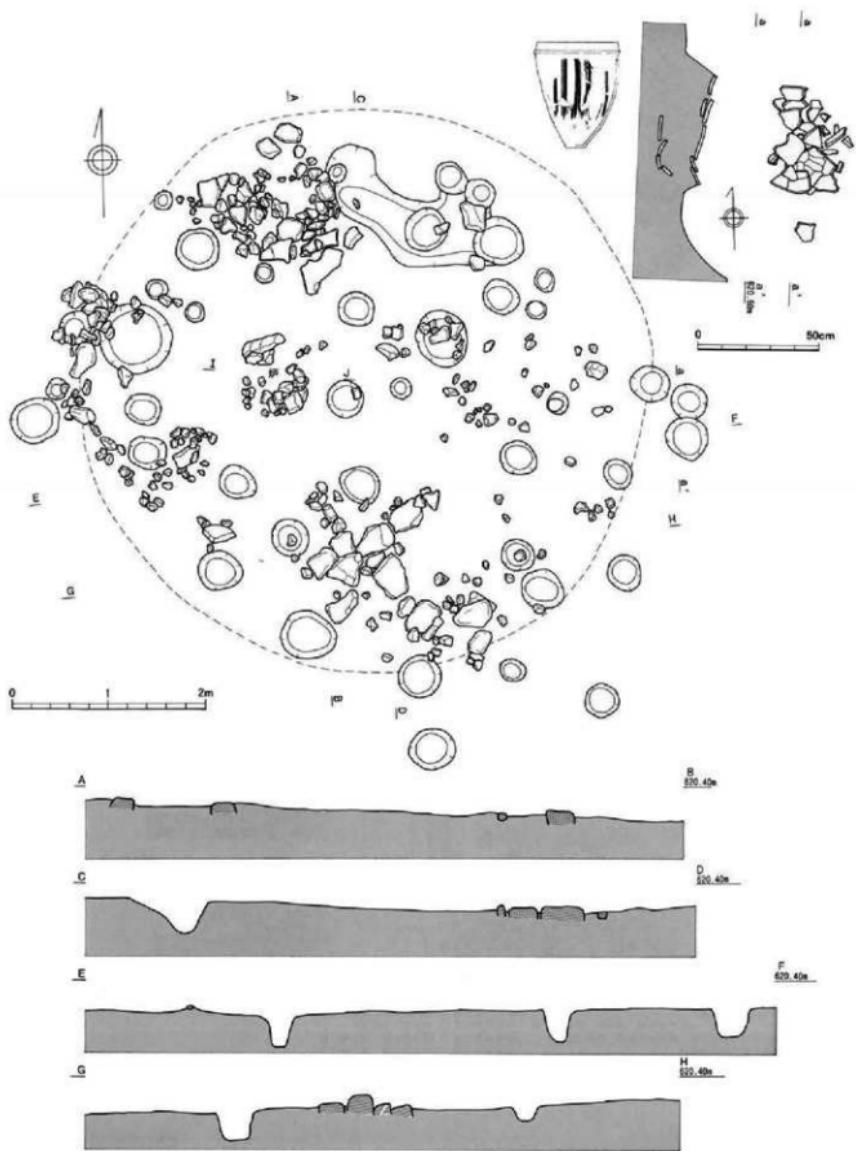


图9 6号住居址実測図

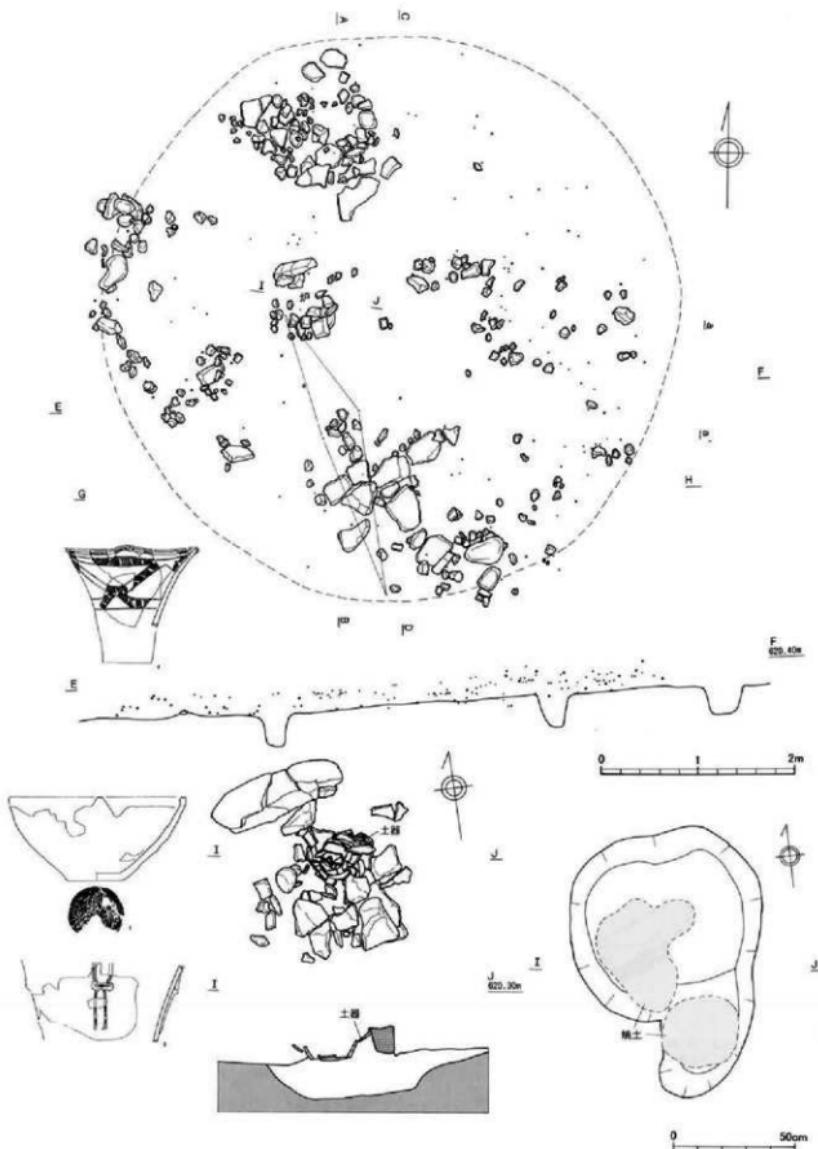


图10 6号住居址土器分布图

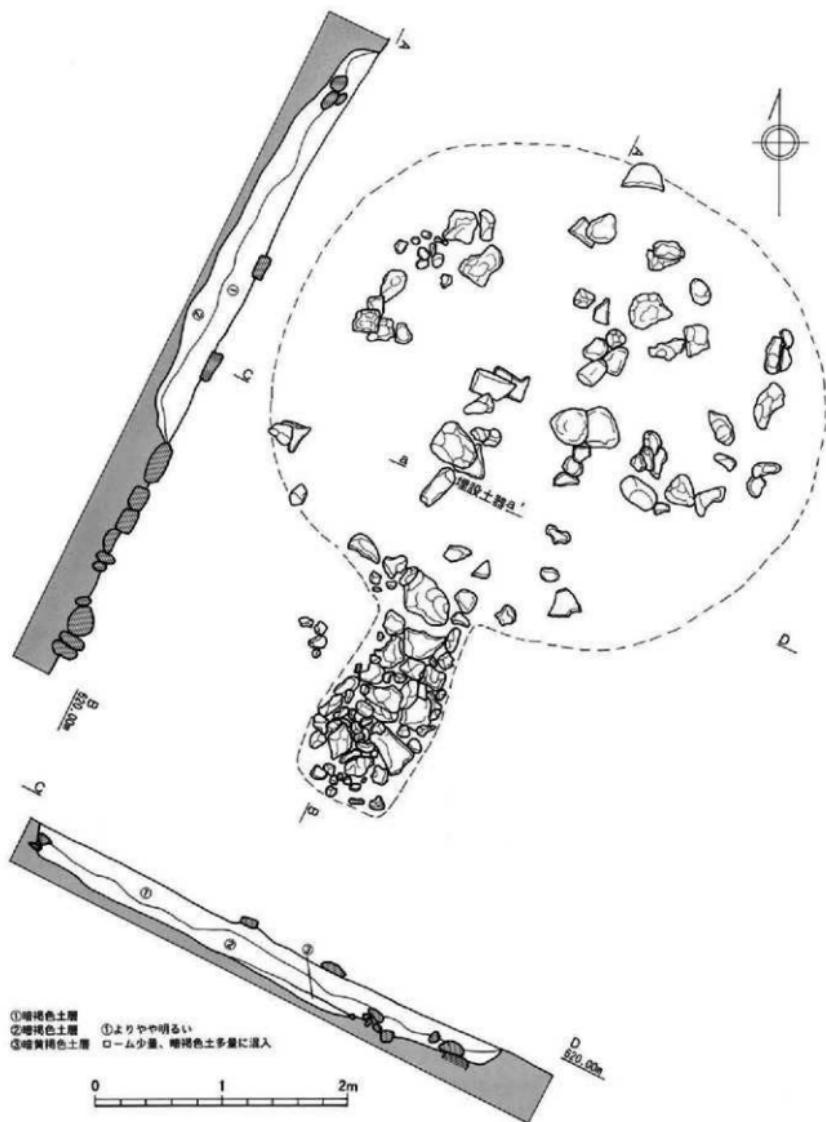


図11 7号住居址実測図

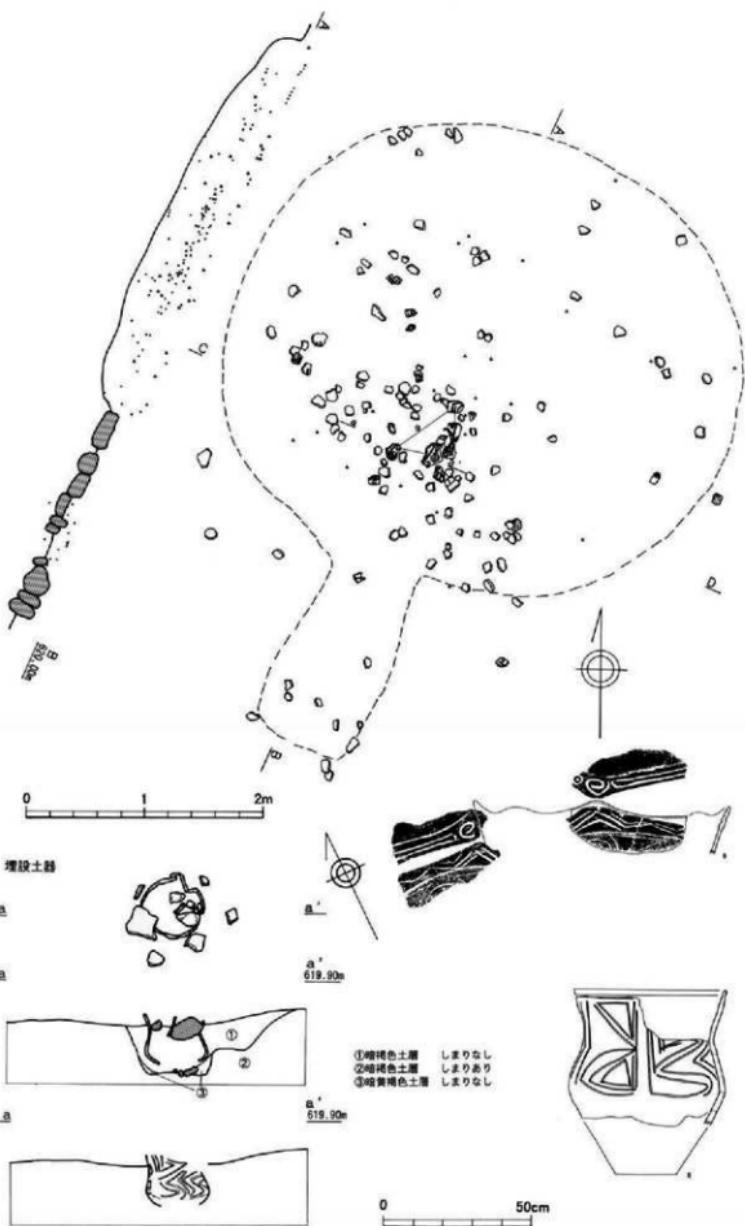


図12 7号住居址土器分布図

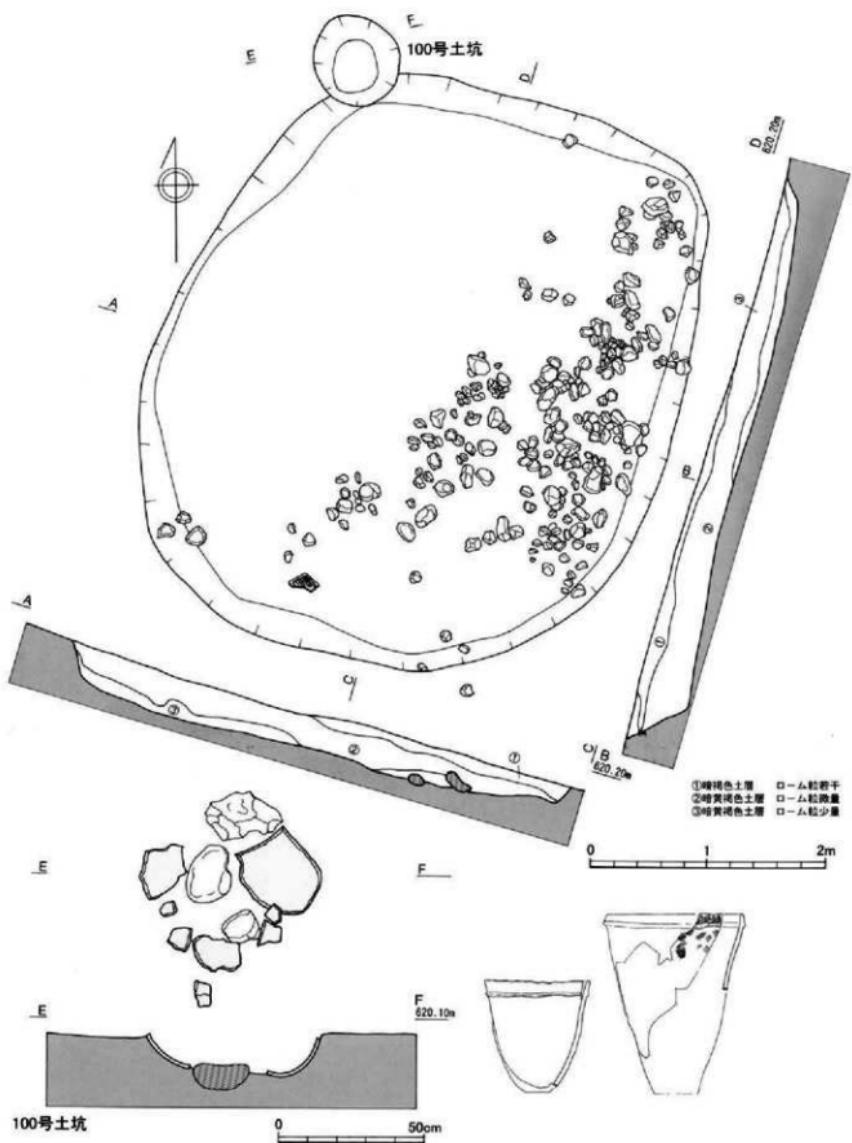


图13 8号住居址实测图

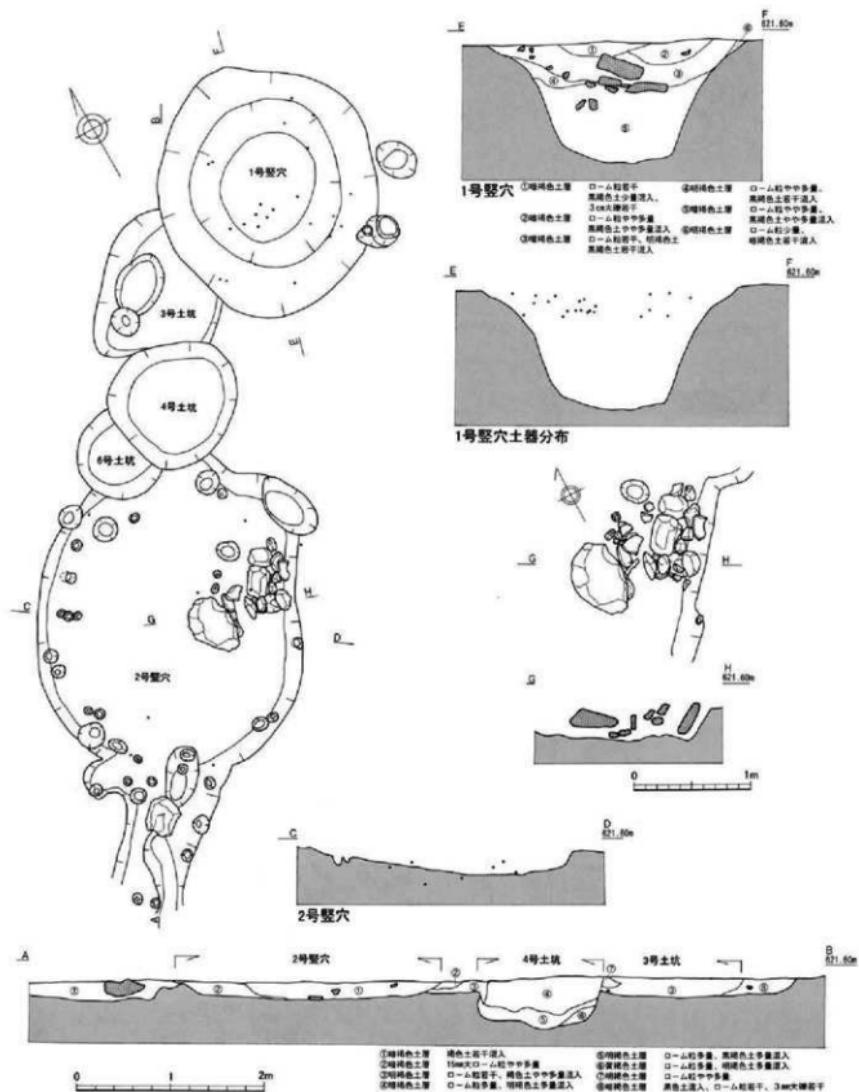


図14 1・2号整穴遺構・土坑実測図

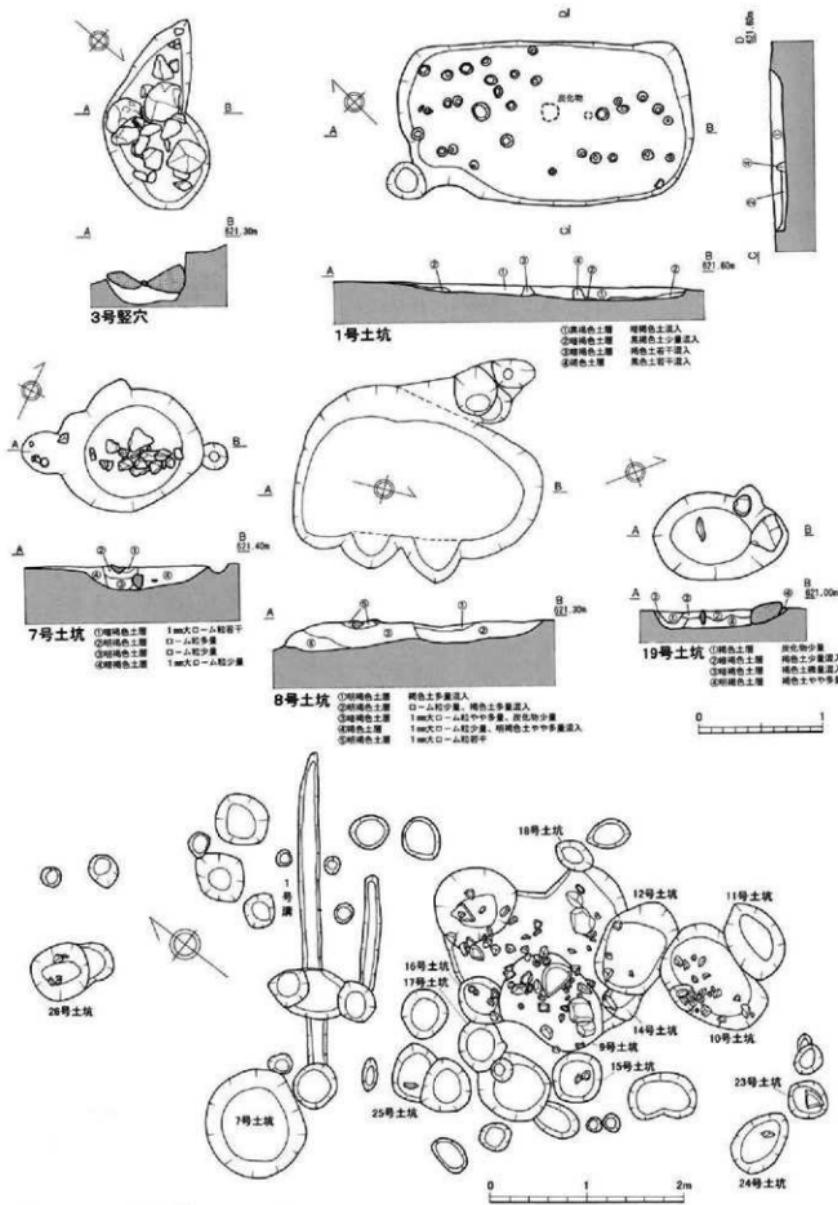


図15 3号竖穴造構・土坑実測図

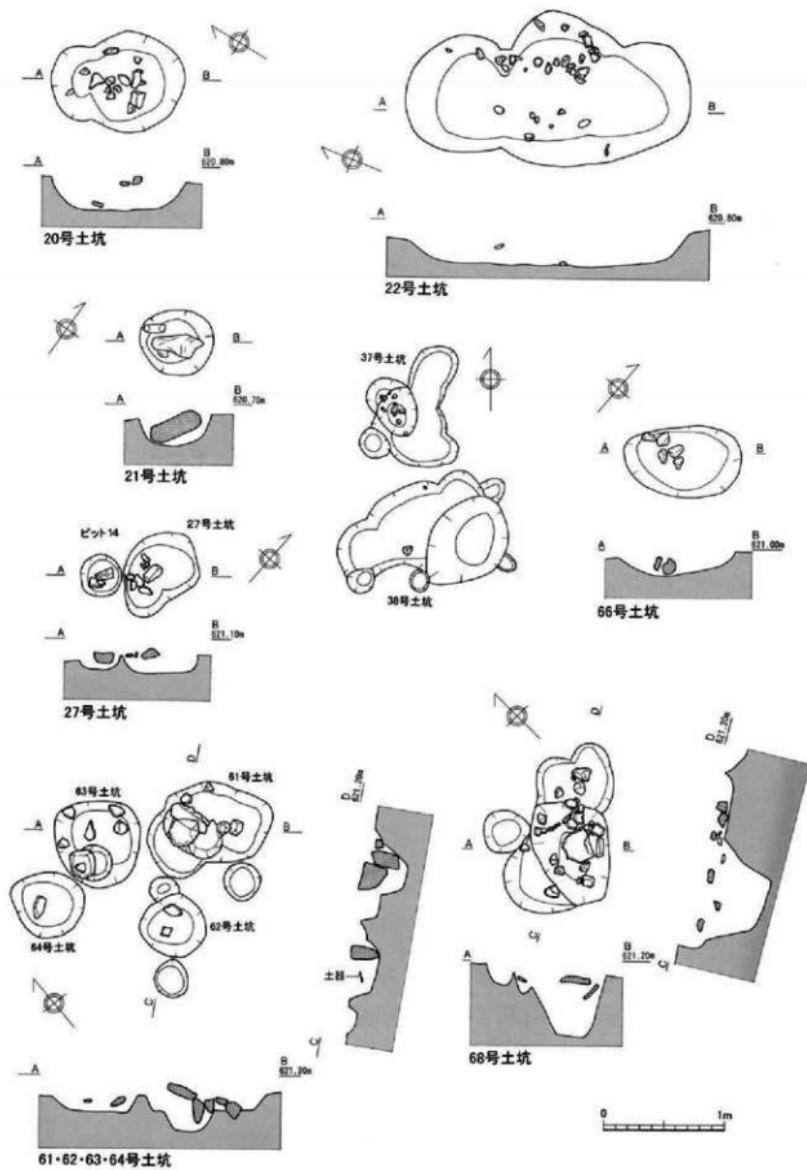


图16 土坑实测图

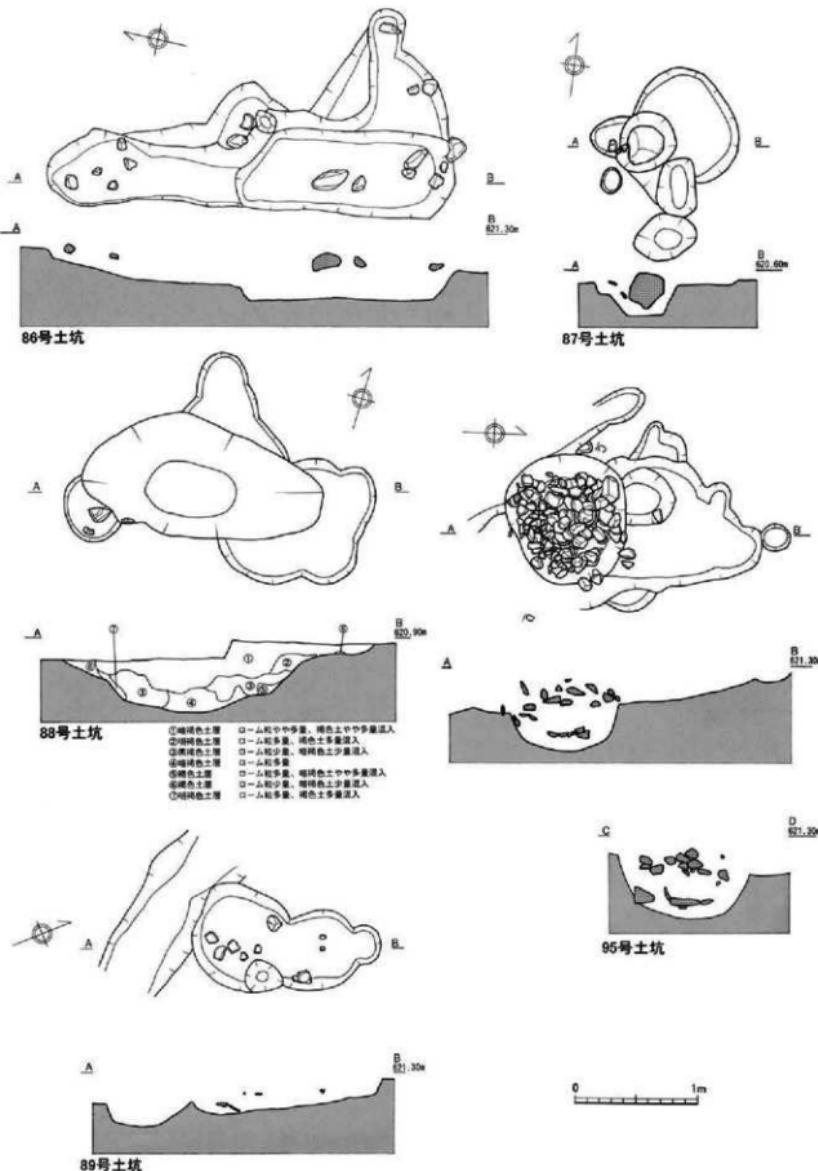


図17 土坑実測図

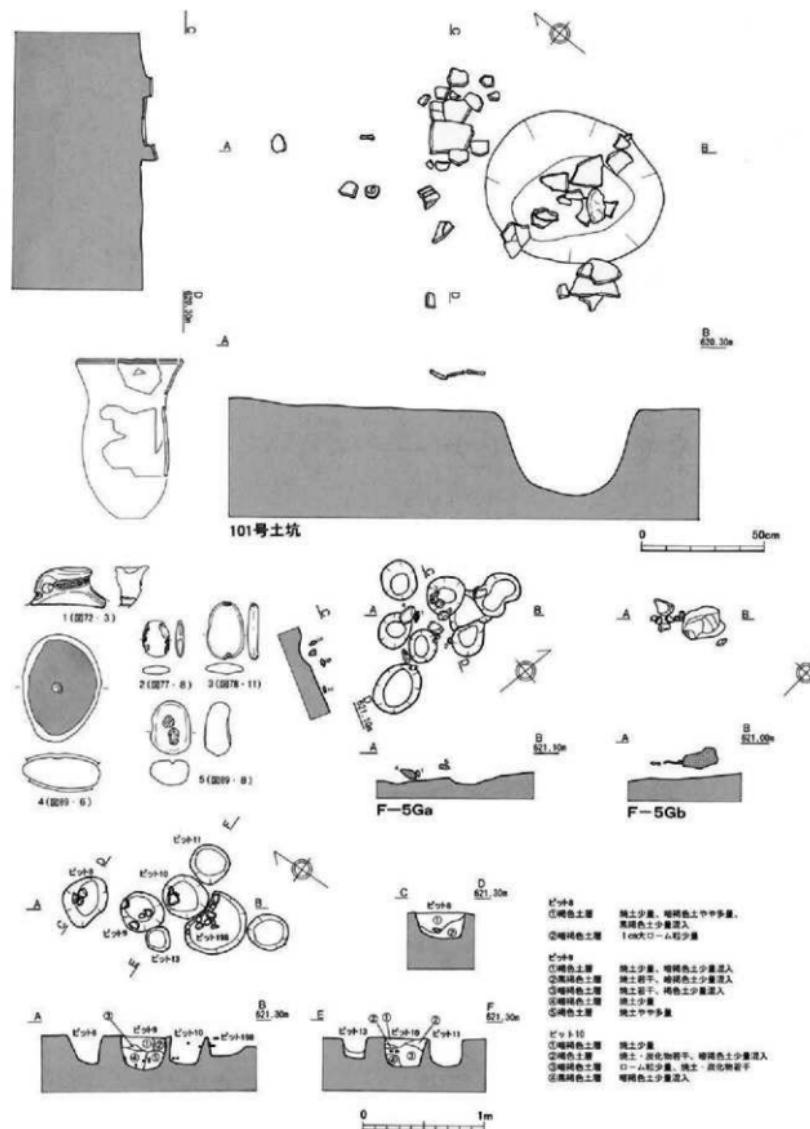


図18 土坑・ピット実測図

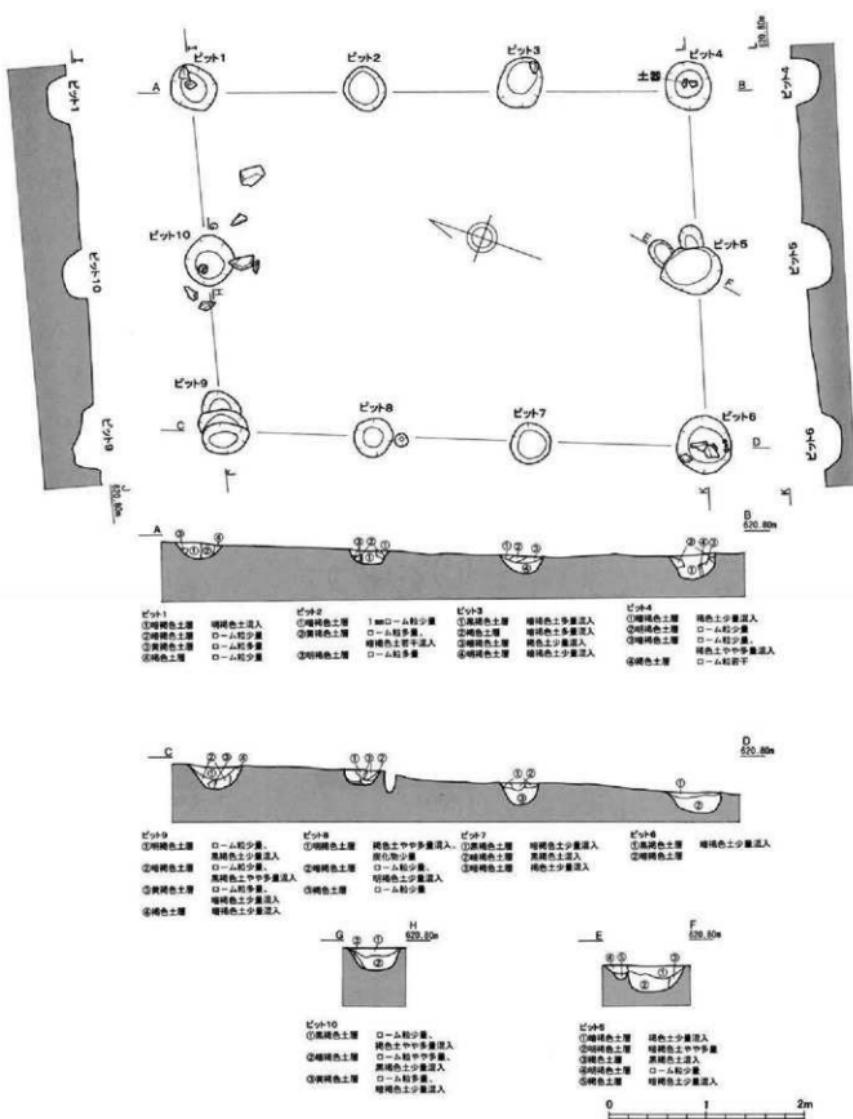


図19 1号掘立柱実測図・ピット土層図

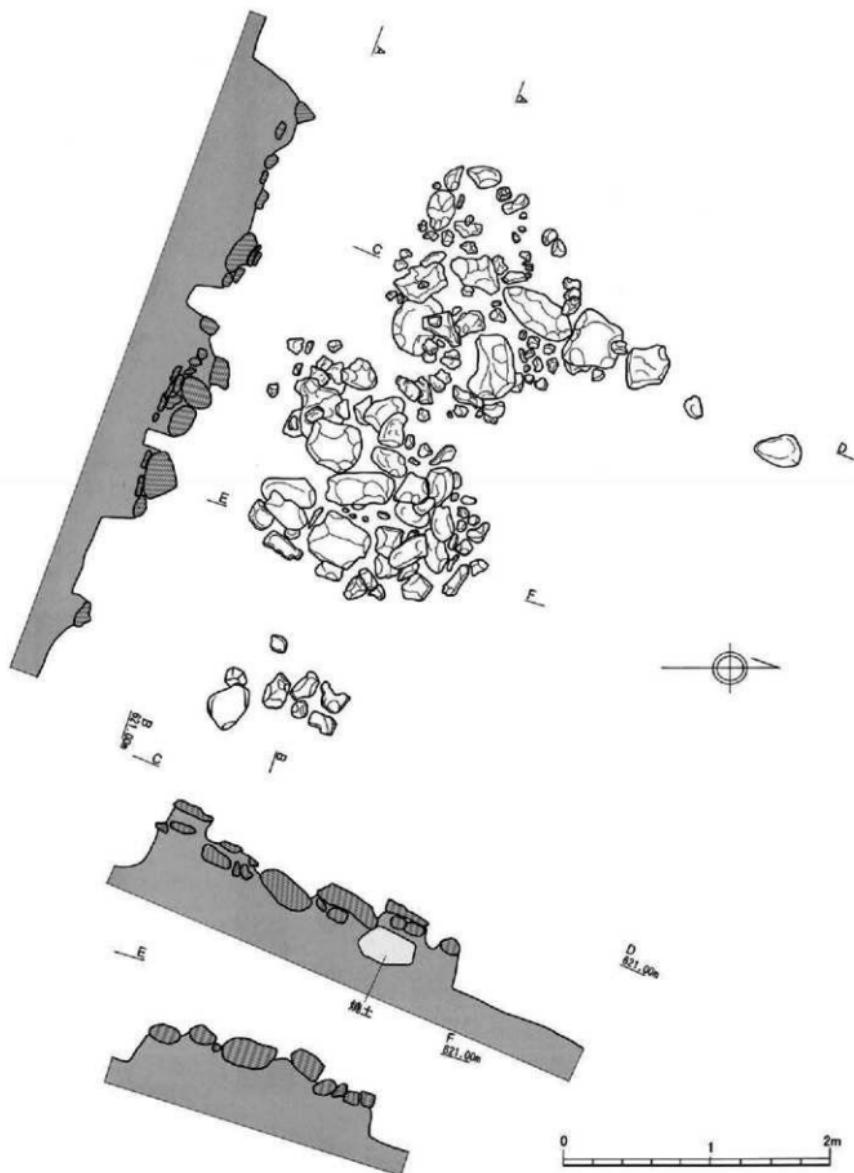


図20 1号集石遺構

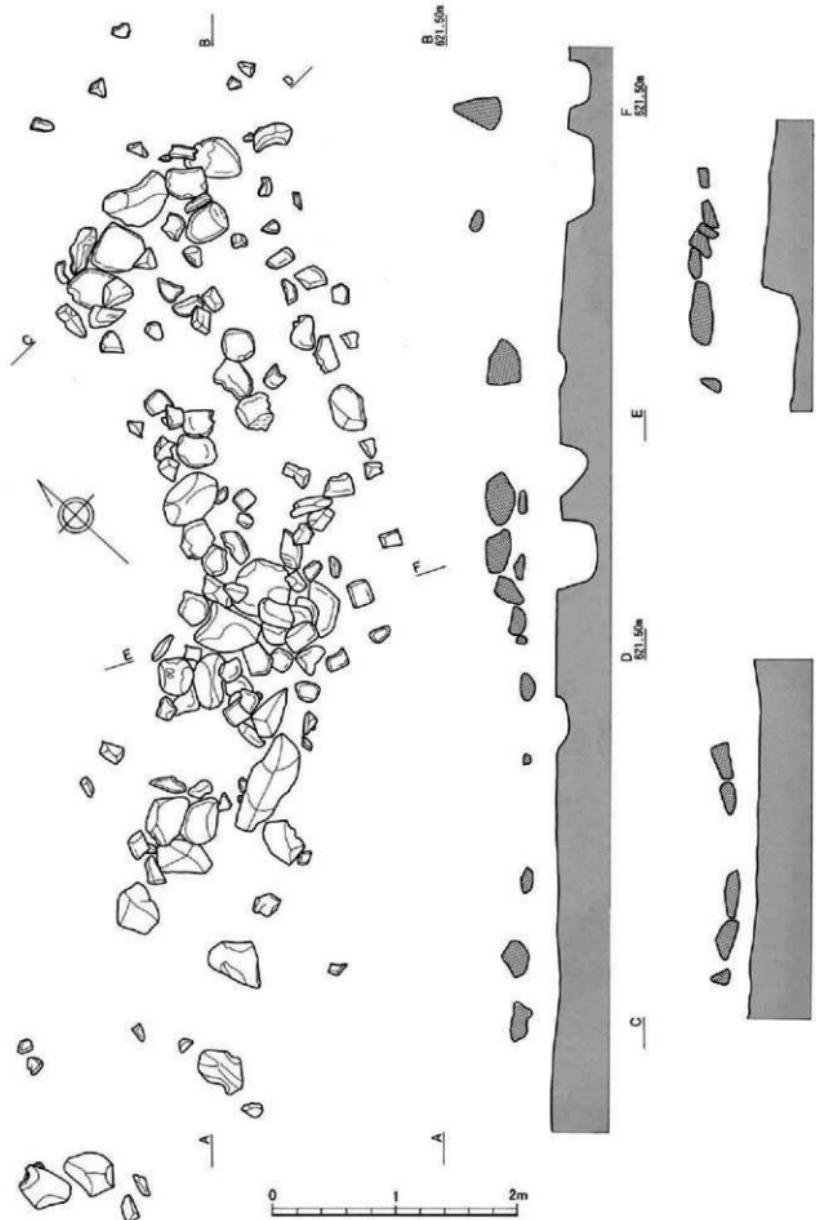


図21 2号集石遺構

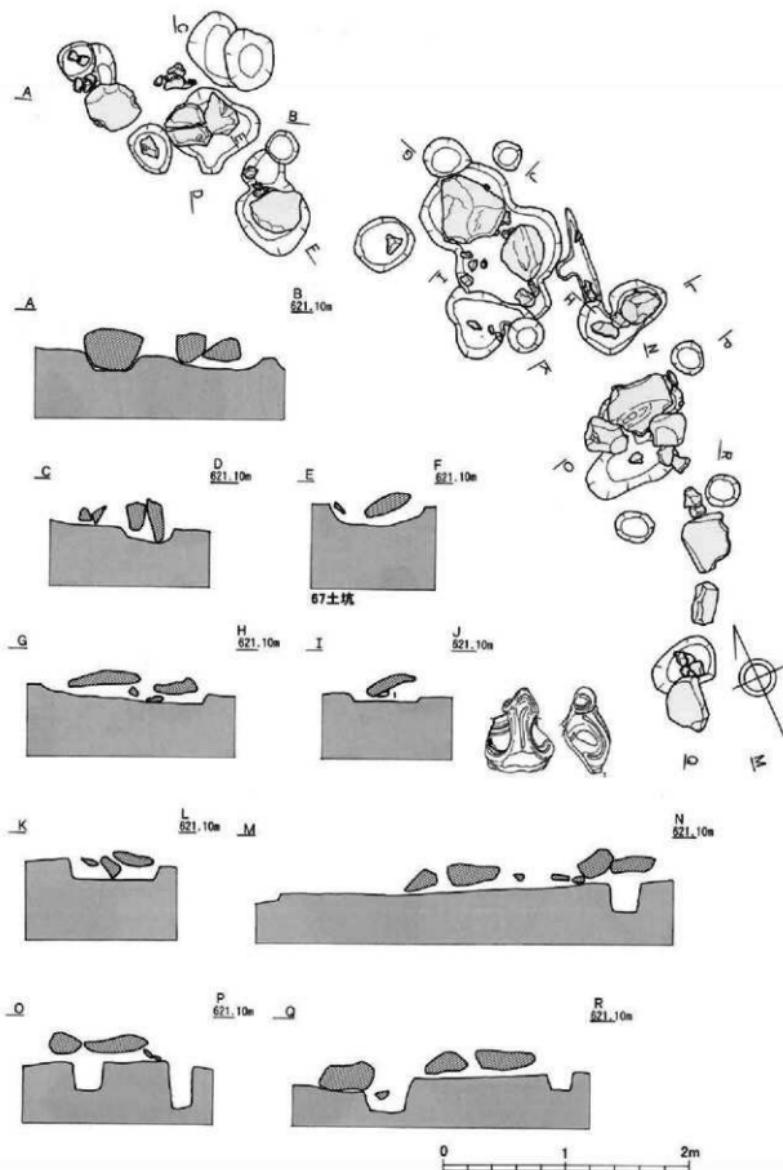


図22 1号列石実測図



图23 1号住居址出土遗物

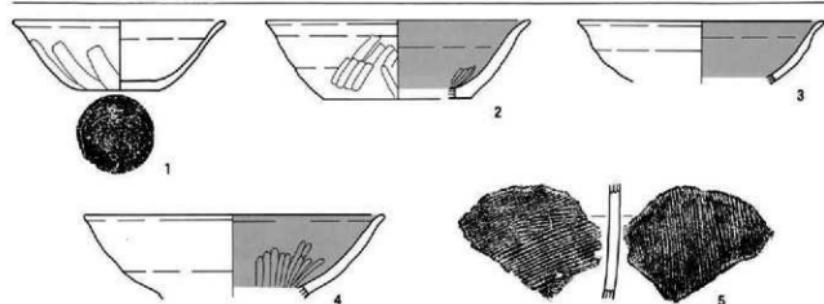


图24 2号住居址出土遗物(1)

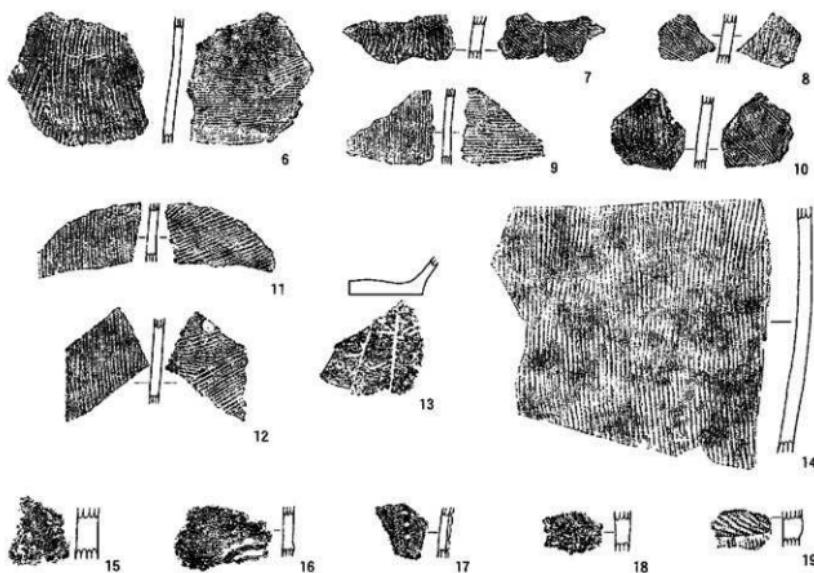


图25 2号住居址出土遗物(2)

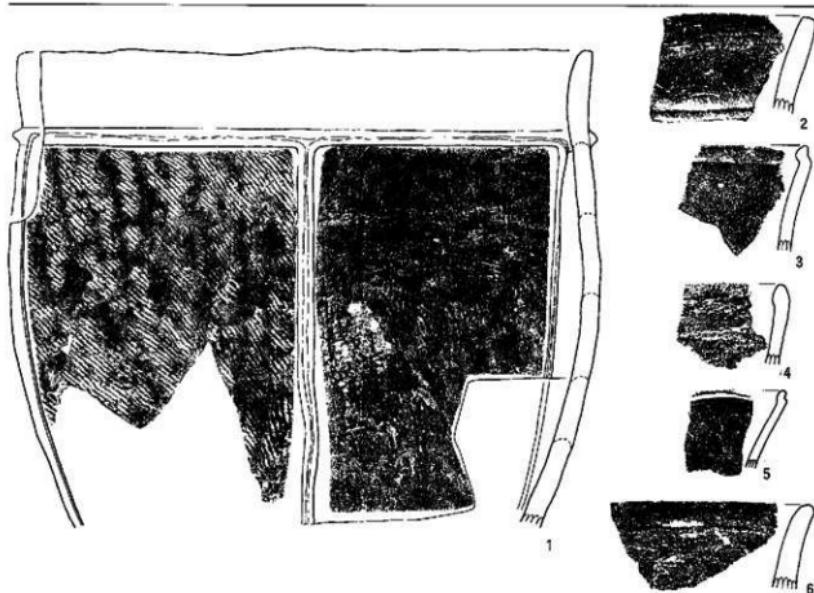


图26 3号住居址出土遗物(1)

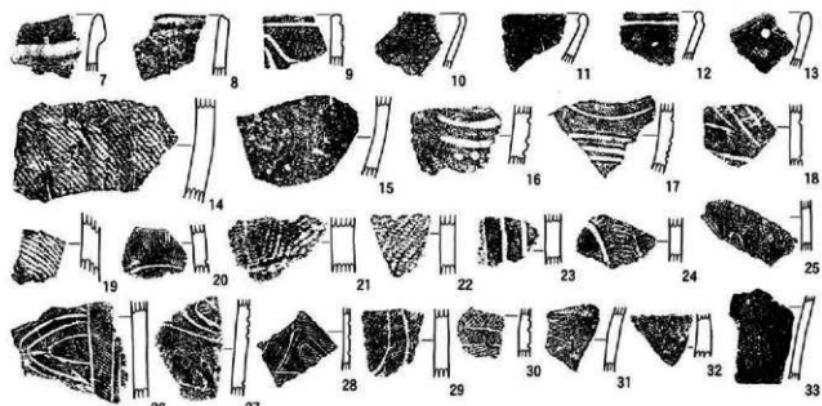


图27 3号住居址出土遗物(2)

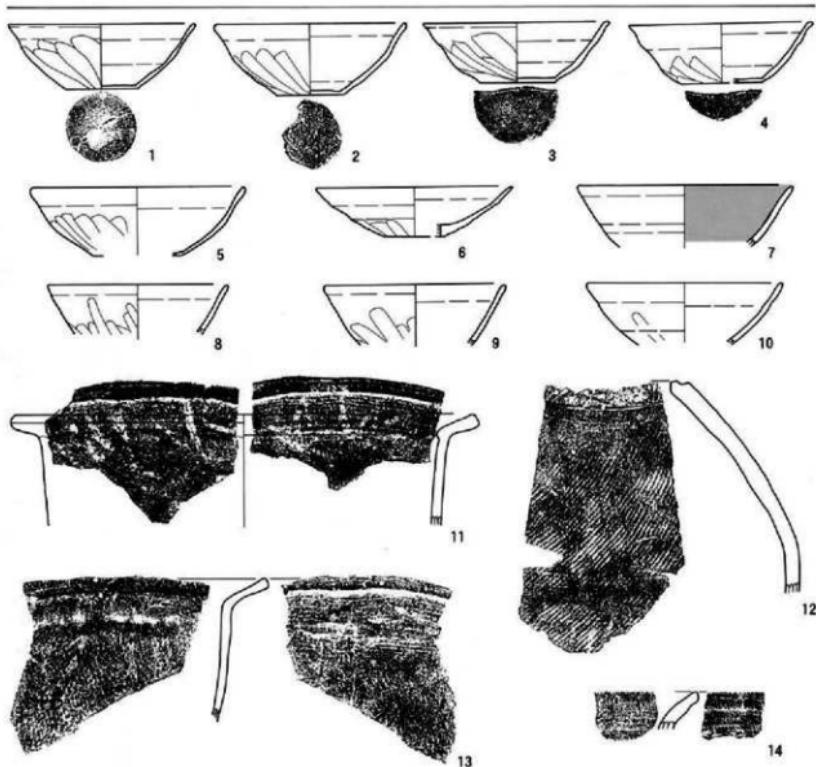
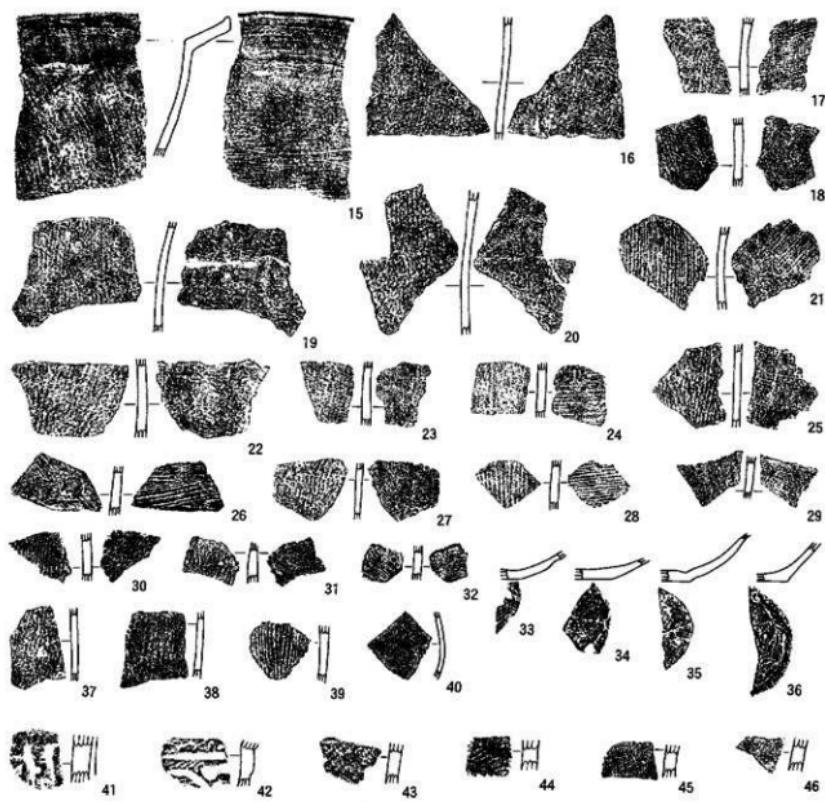


图28 4号住居址出土遗物(1)



カマド

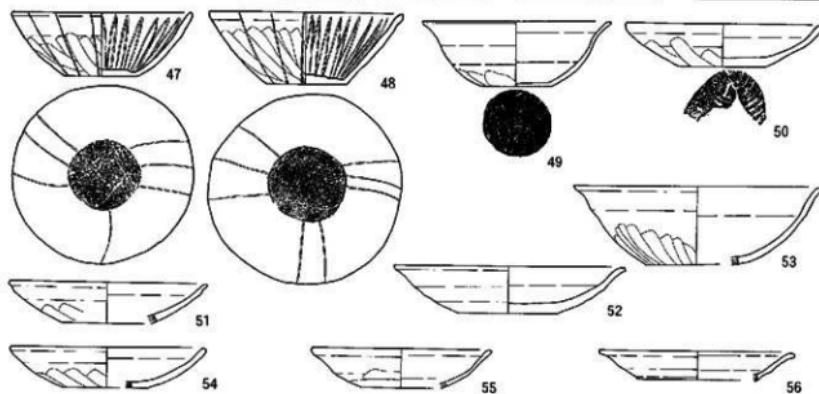


图29 4号住居址出土遗物(2)

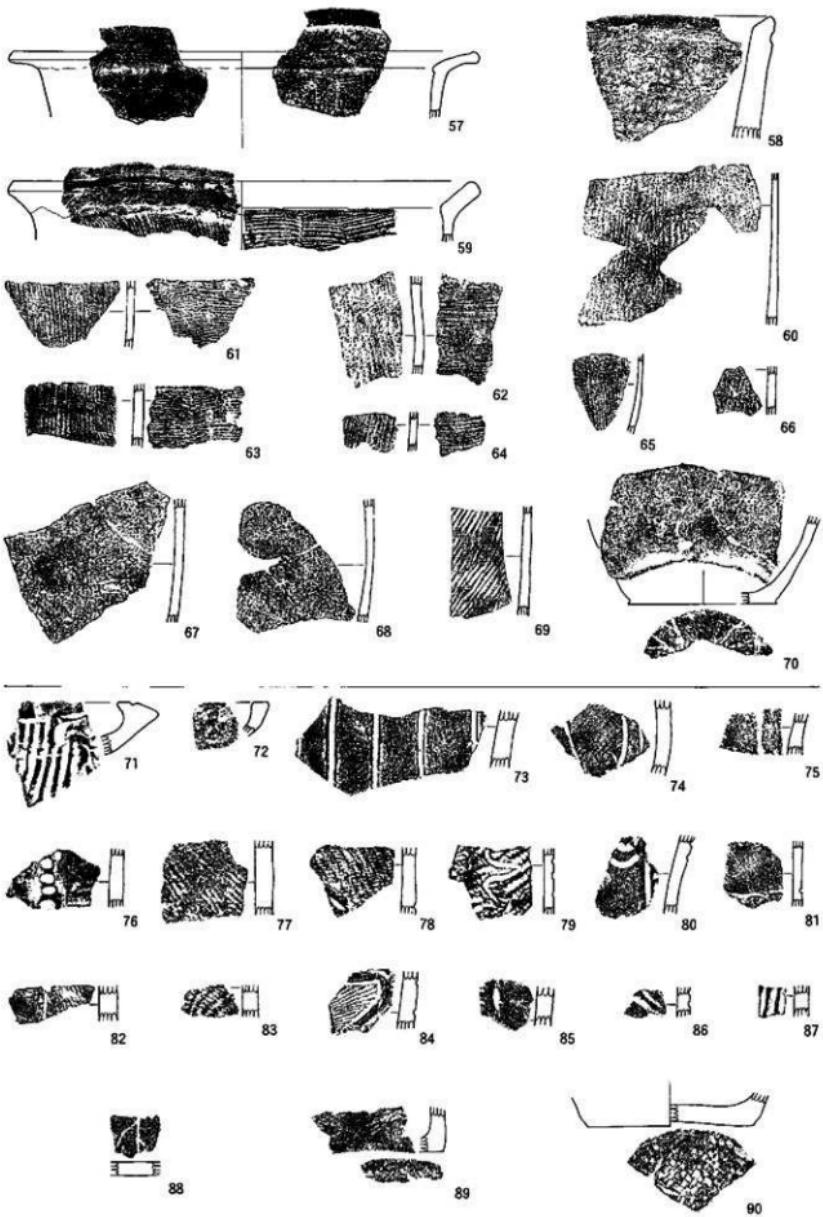
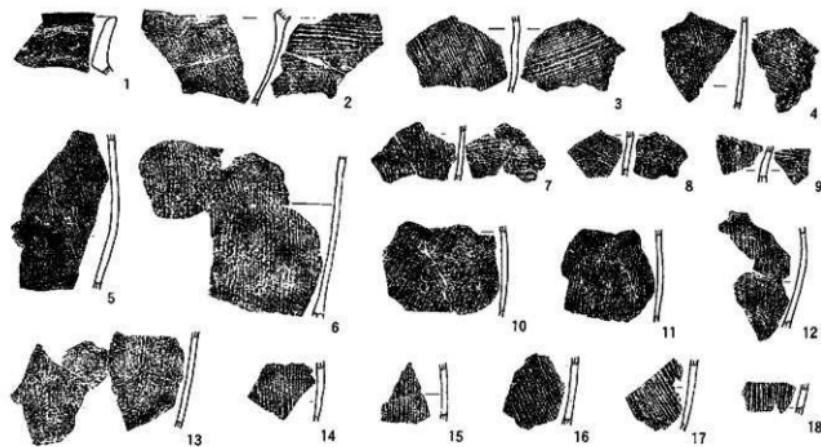


图30 4号住居址出土遗物(3)



カマド

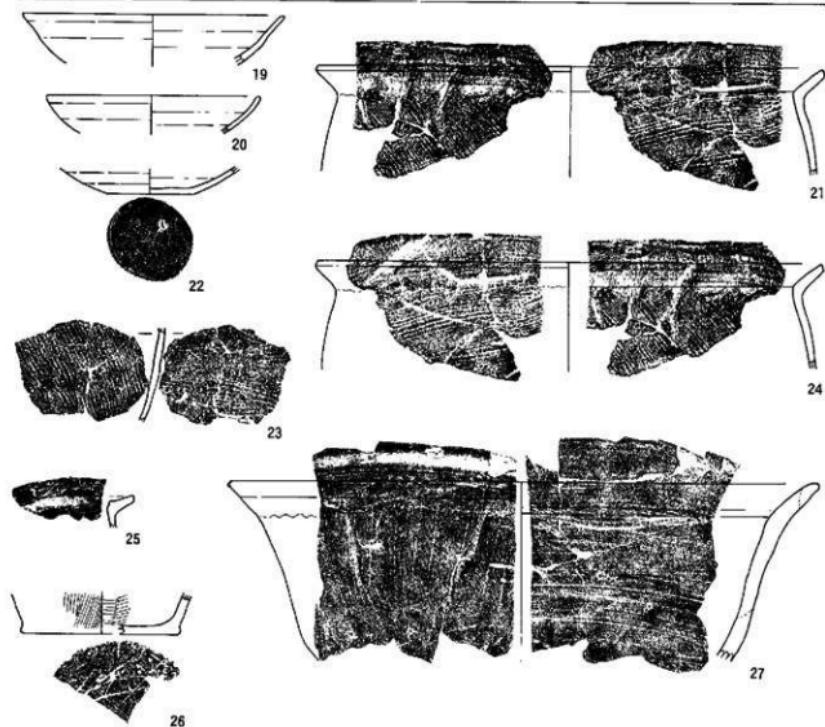


図31 5号住居址出土遺物

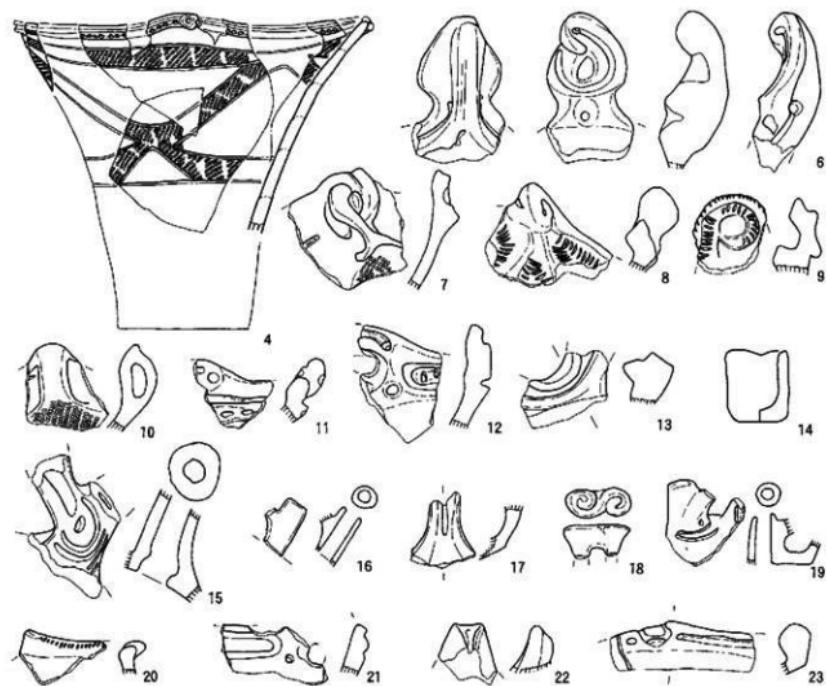
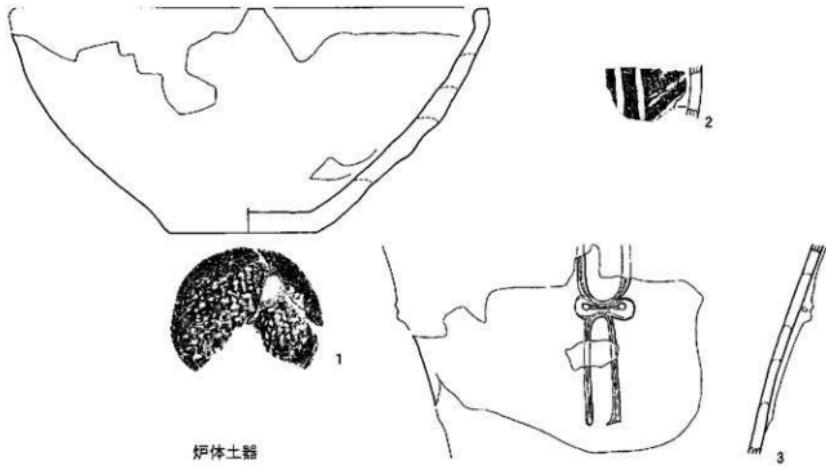


图32 6号住居址出土遗物(1)

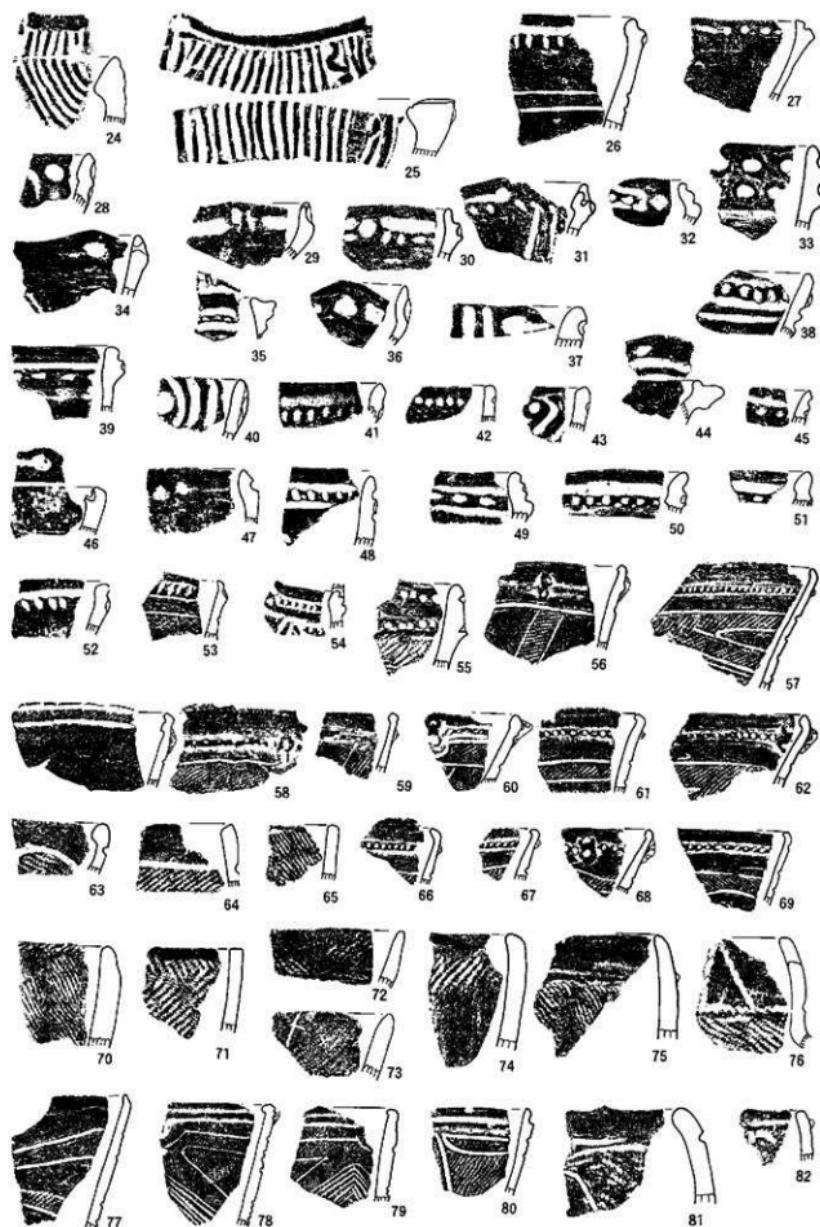


図33 6号住居址出土遺物(2)

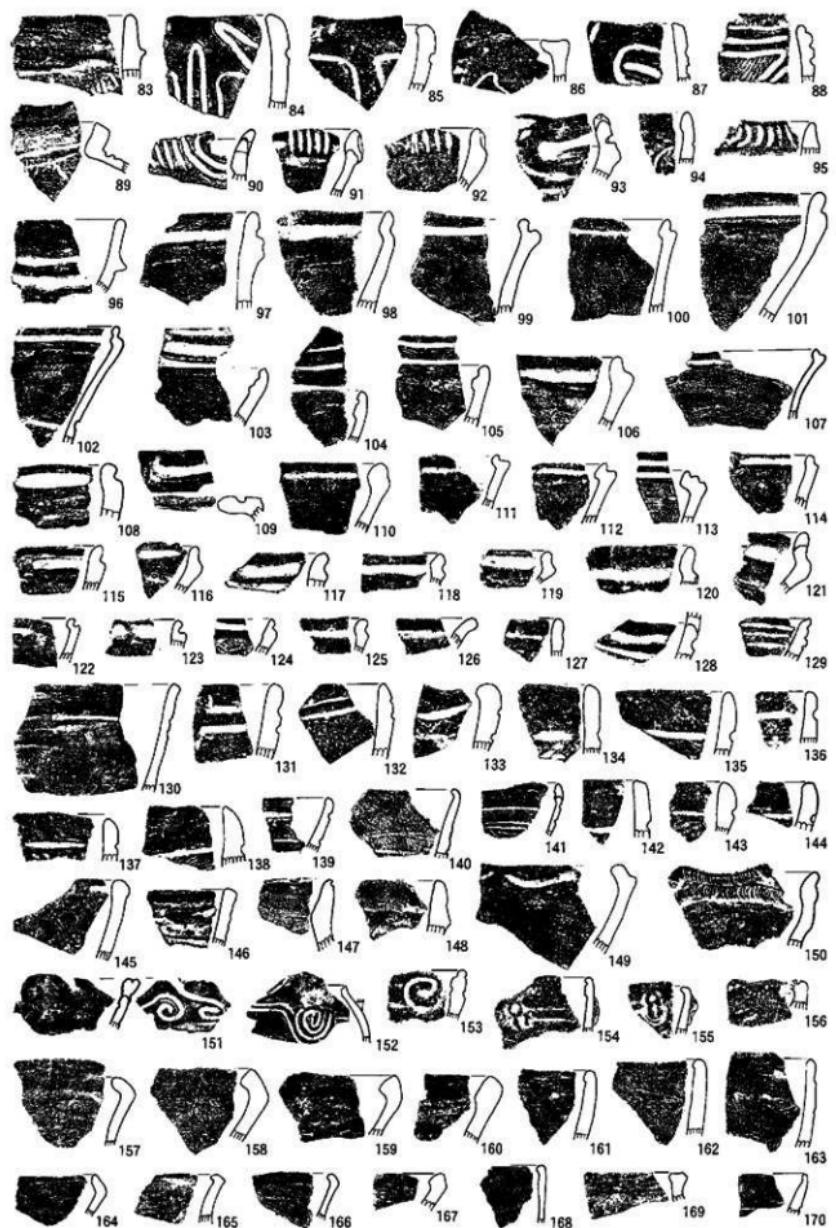


图34 6号住居址出土遗物(3)

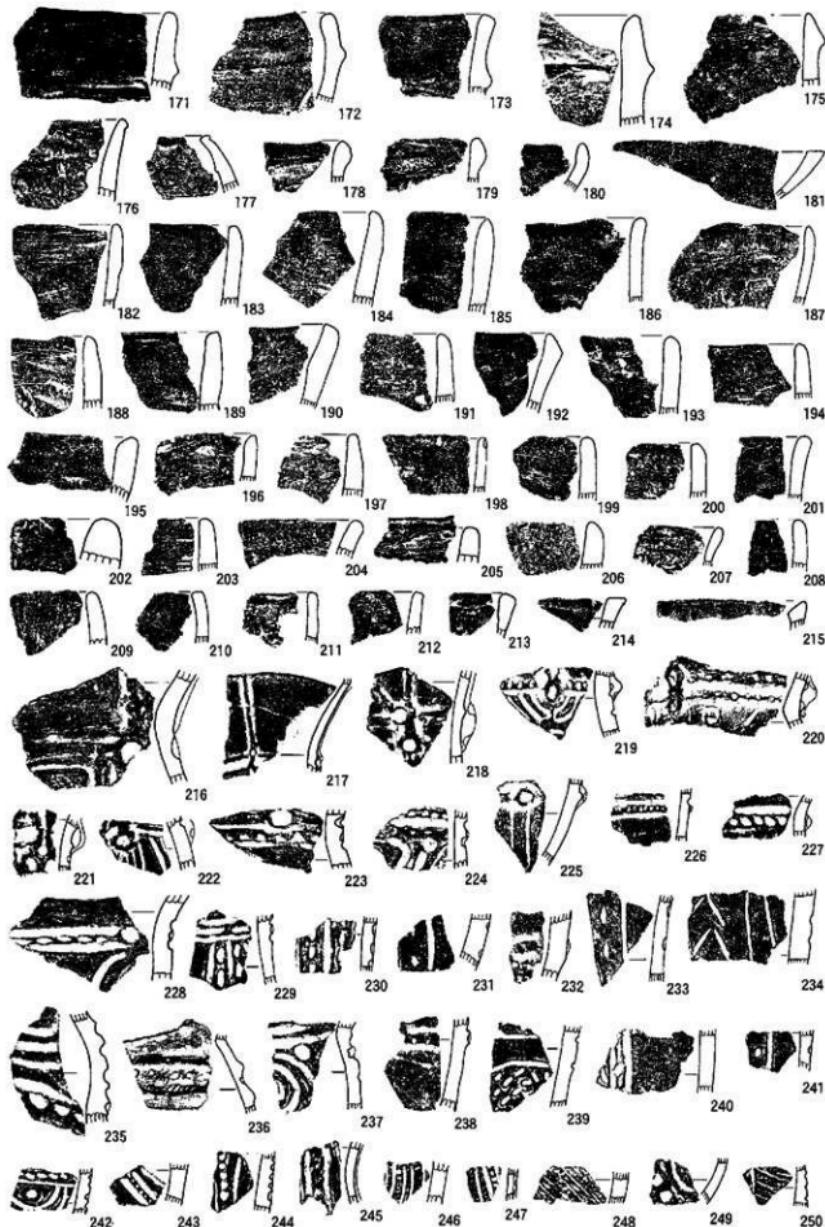


図35 6号住居址出土遺物(4)

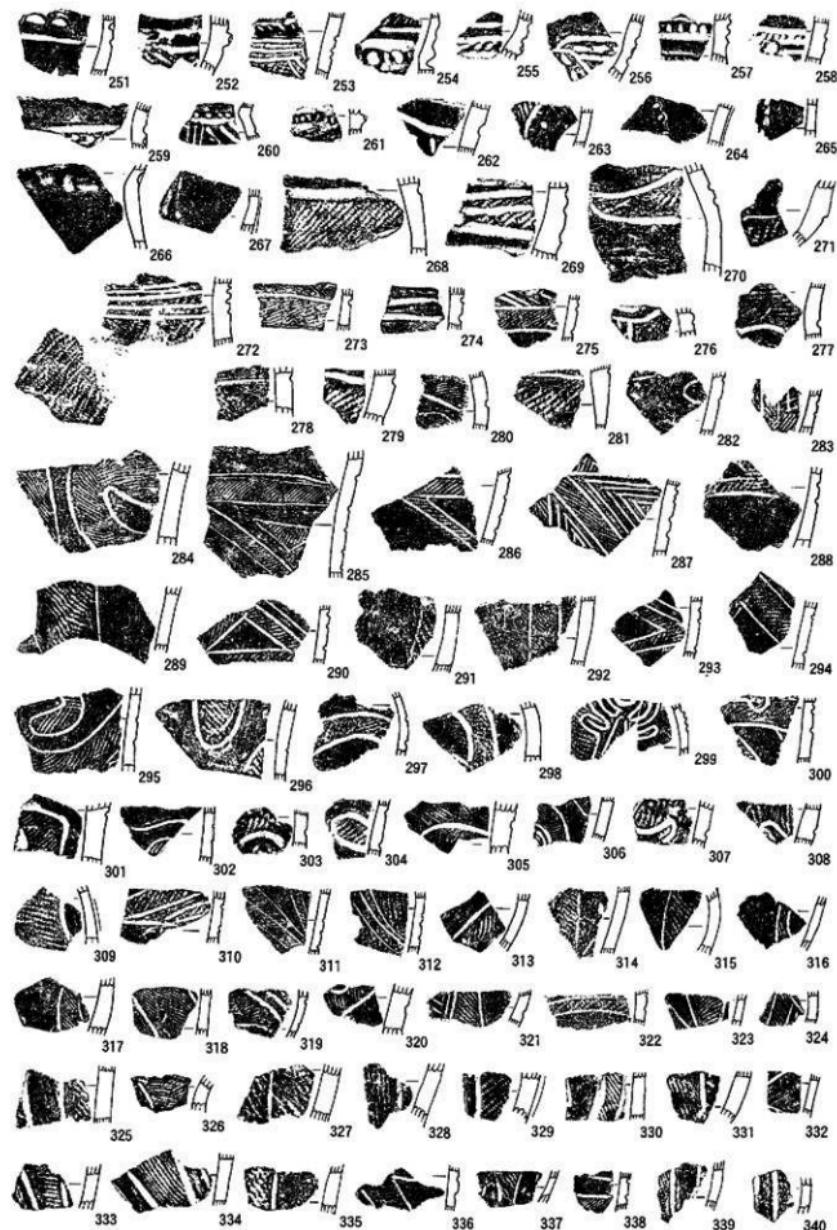


图36 6号住居址出土遗物(5)

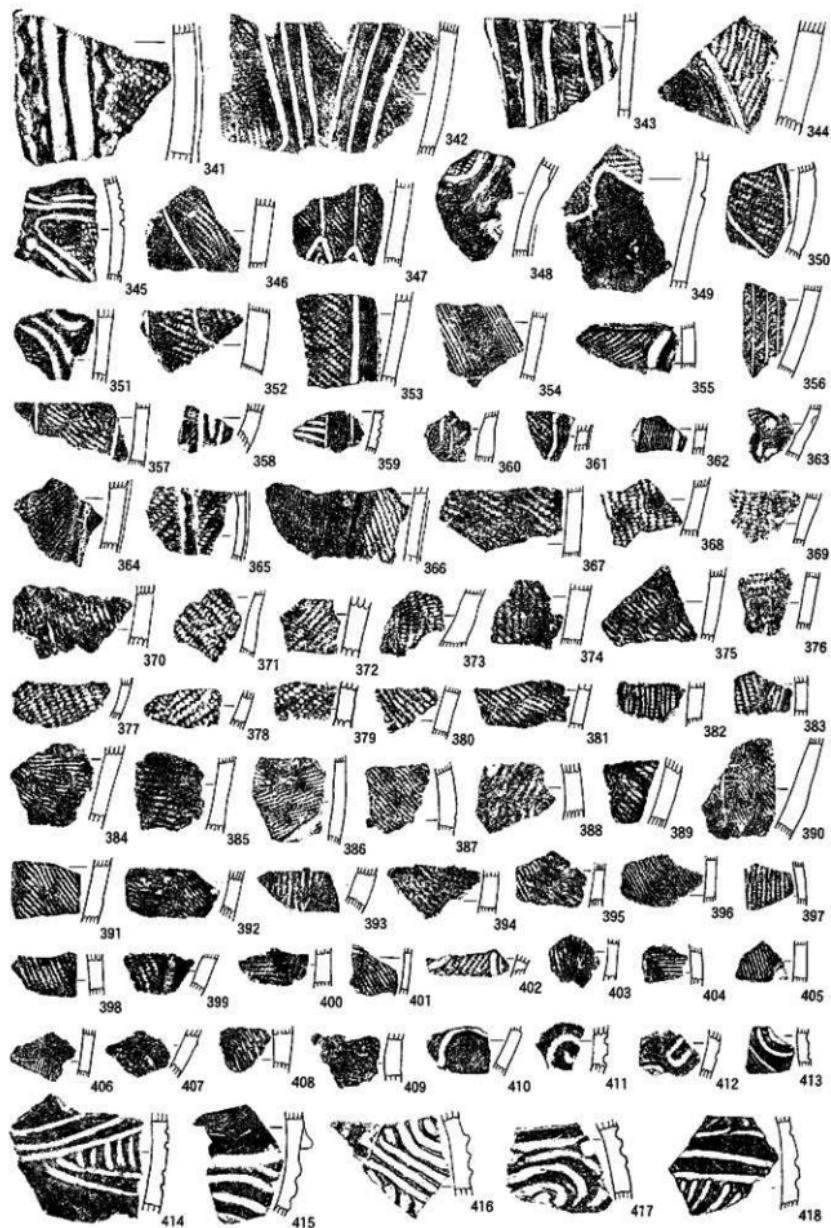


图37 6号住居址出土遗物(6)

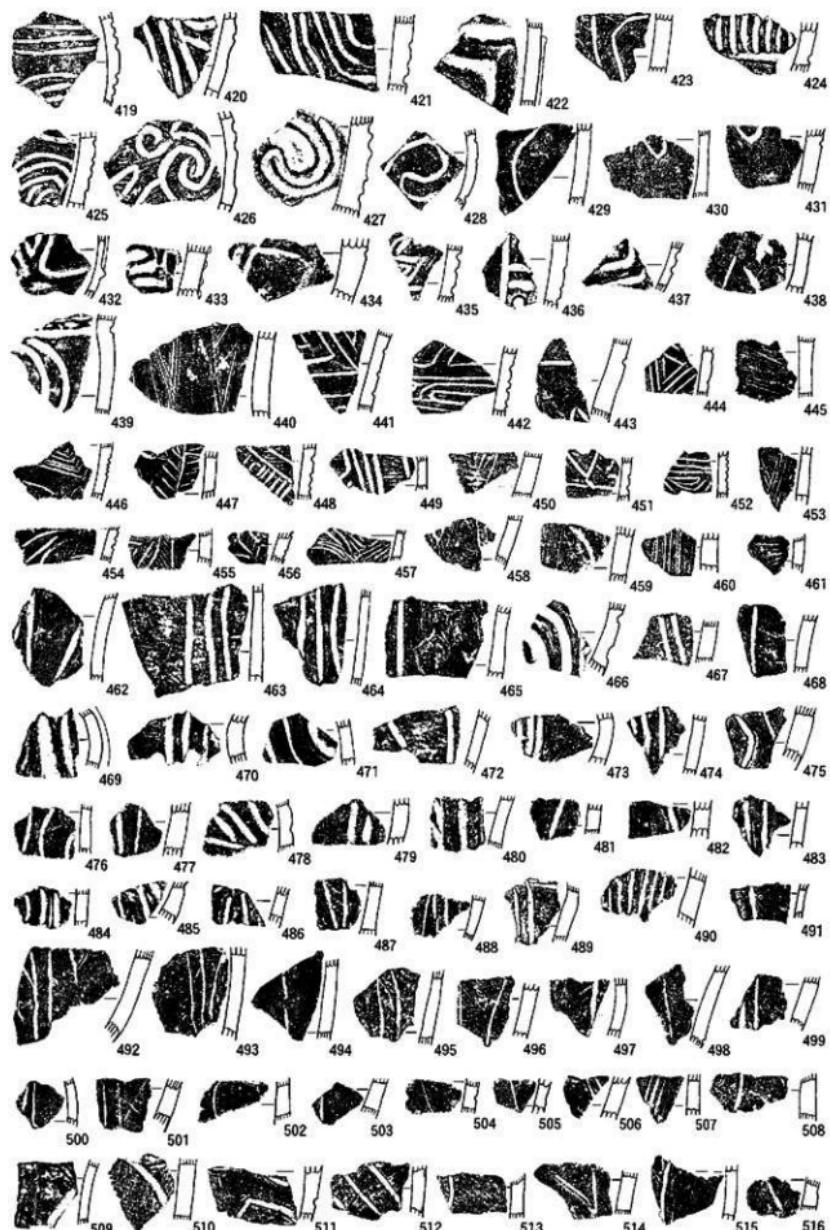


图38 6号住居址出土遗物(7)



図39 6号住居址出土遺物(8)

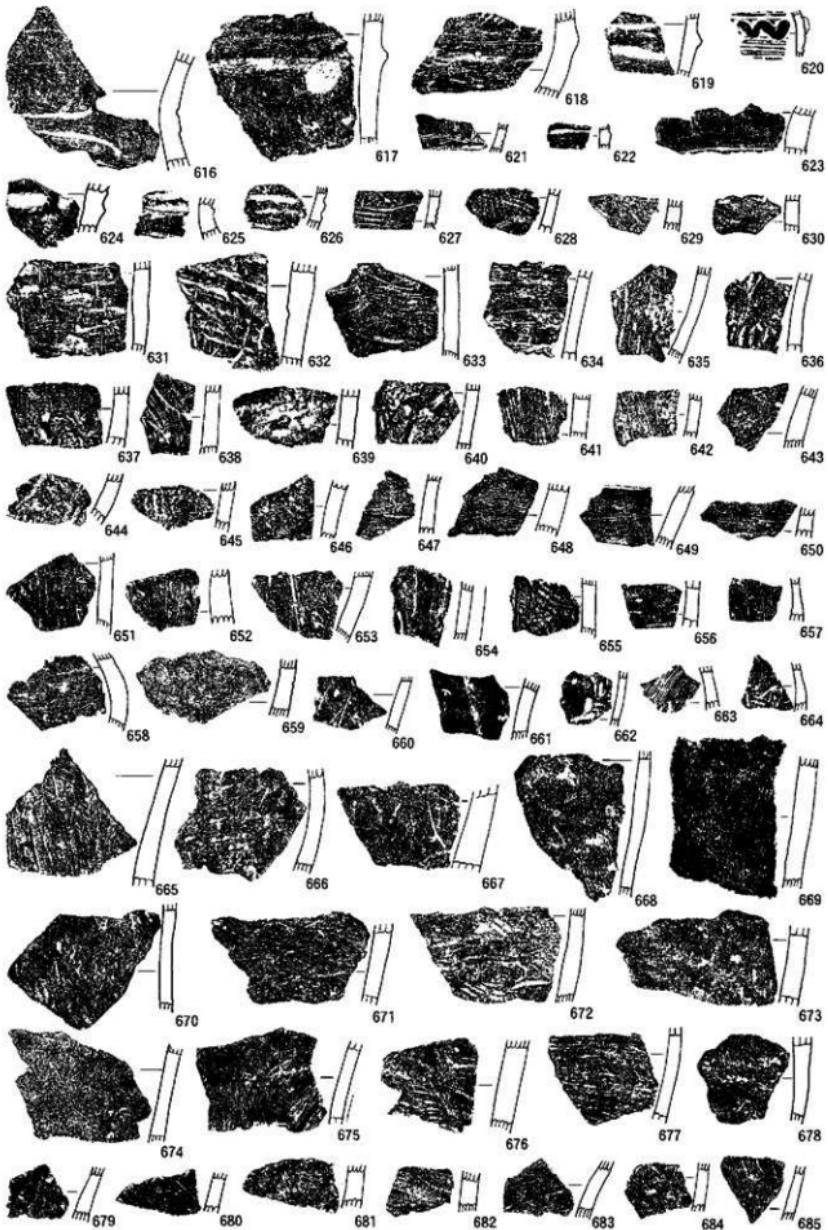


图40 6号住居址出土遗物(9)

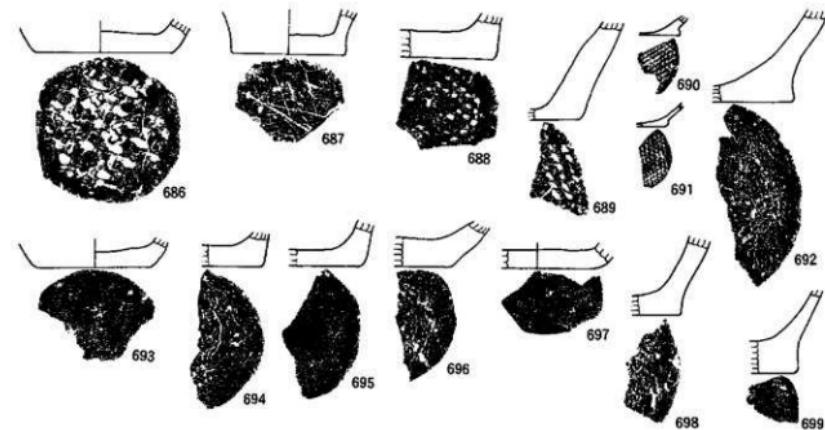


図41 6号住居址出土遺物(1)

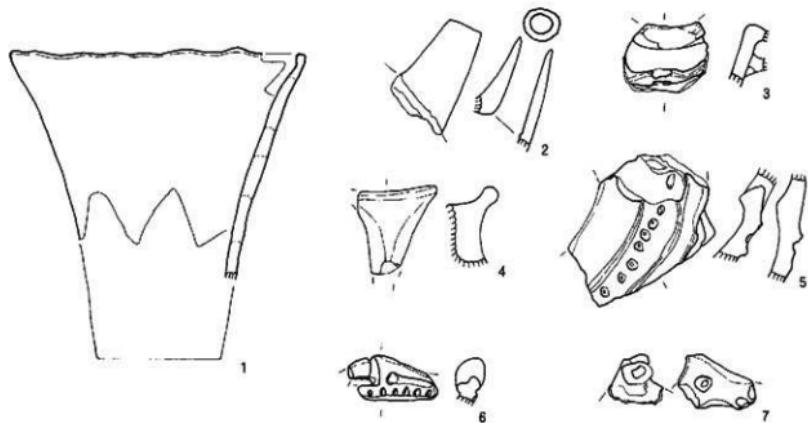


図42 7号住居址出土遺物(1)

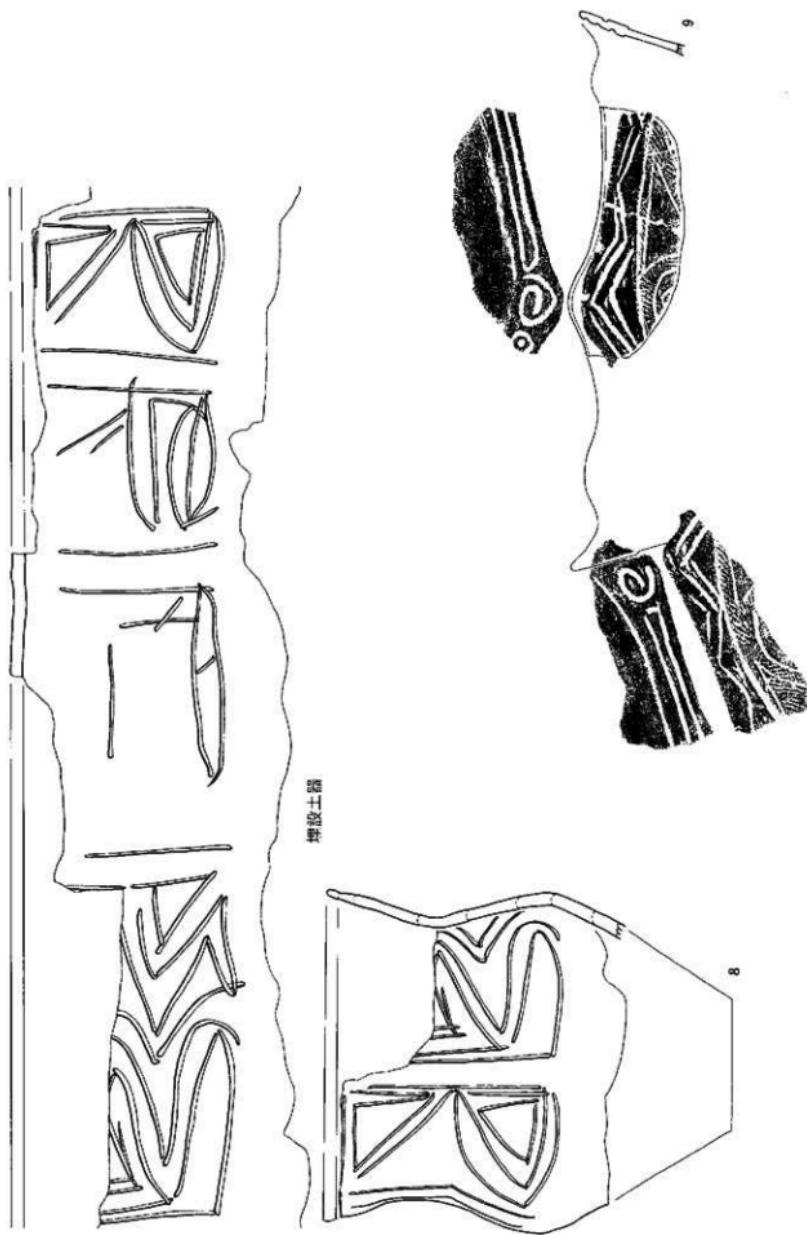


图43 7号住居址出土遗物(2)



図44 7号住居址出土遺物(3)

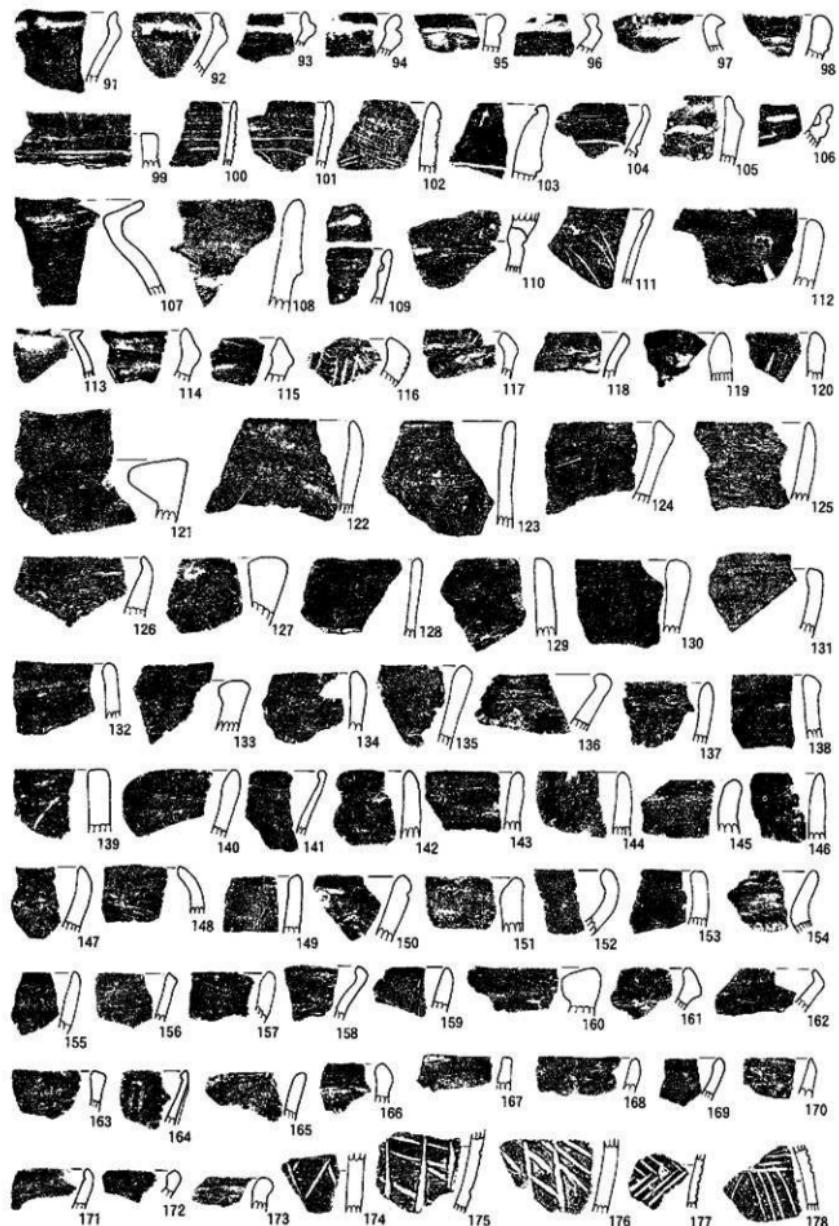


图45 7号住居址出土遺物(4)



图46 7号住居址出土遗物(5)

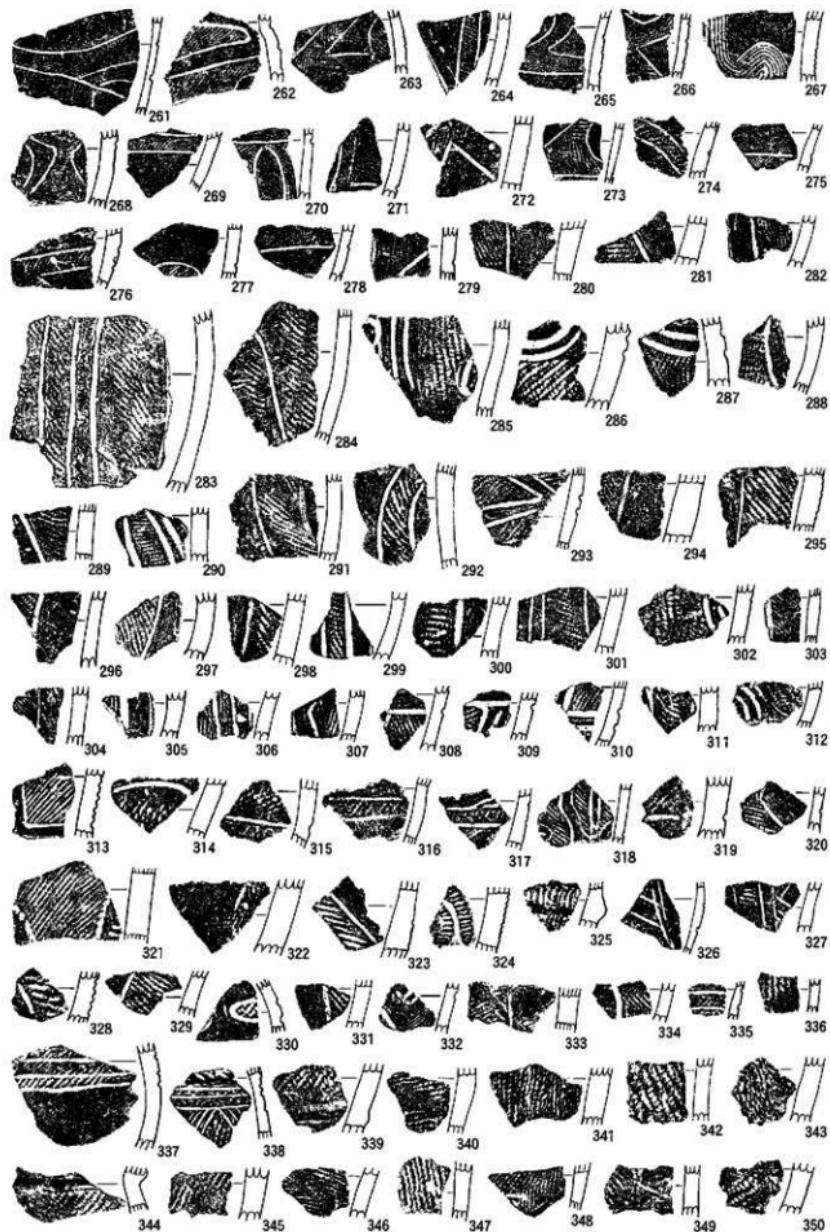


图47 7号住居址出土遗物(6)

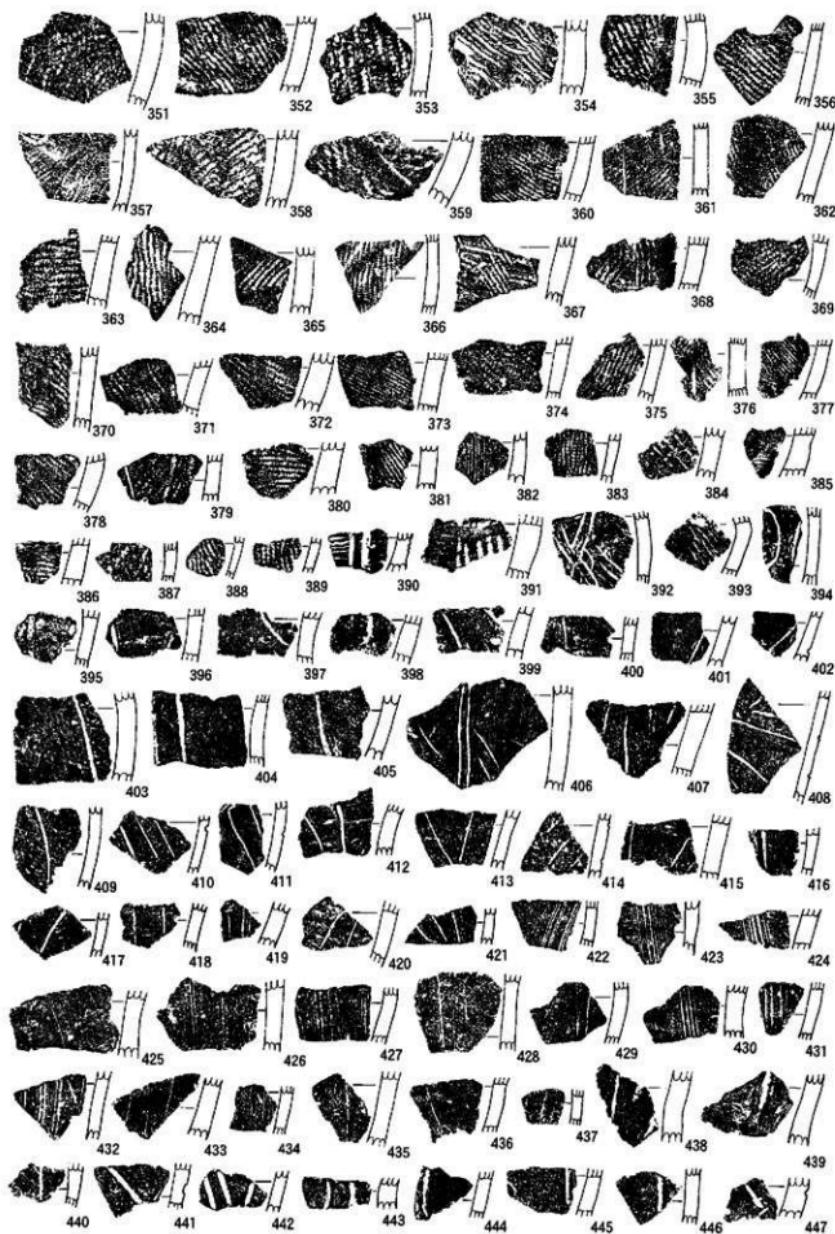


圖48 7號住居址出土遺物(7)

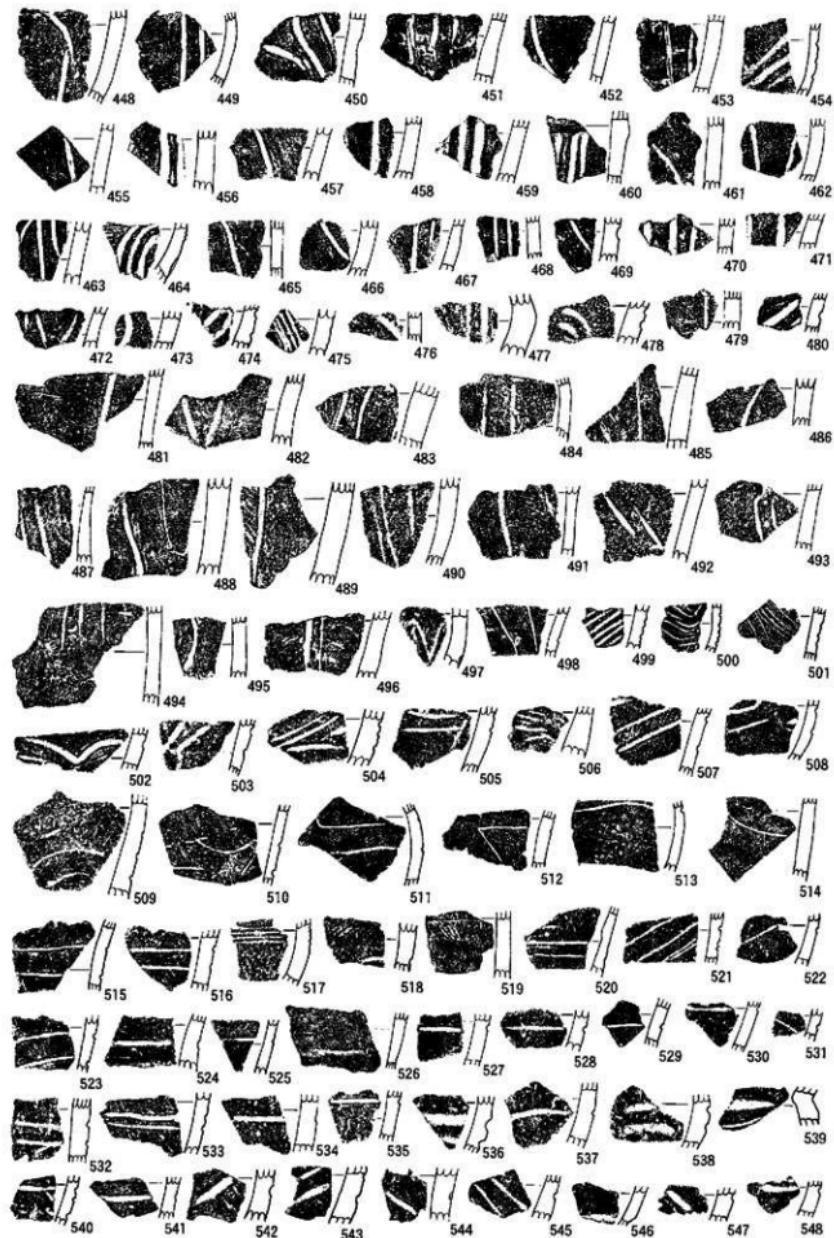


图49 7号住居址出土遗物(8)

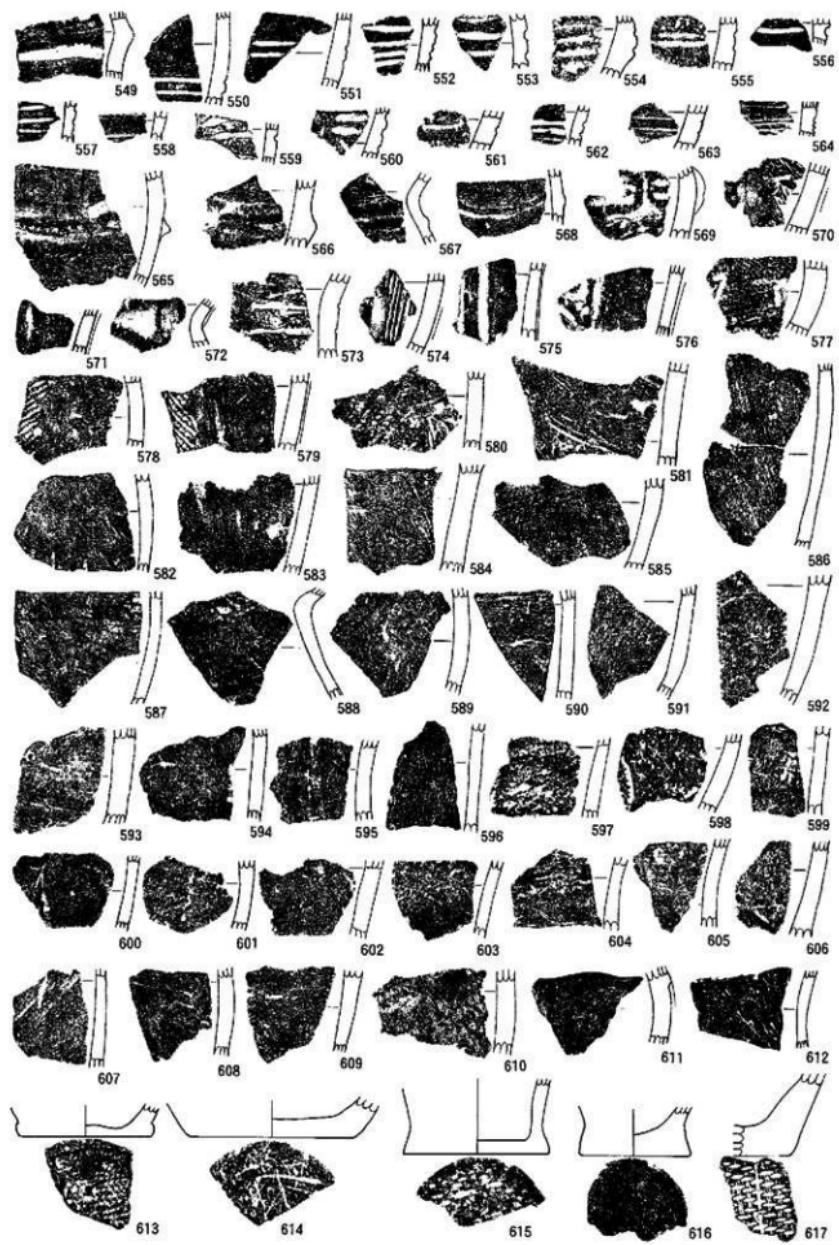


図50 7号住居址出土遺物(9)

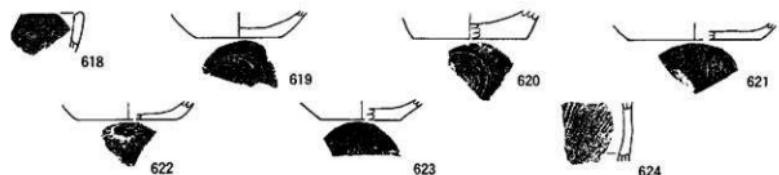


图51 7号住居址出土遗物(1)

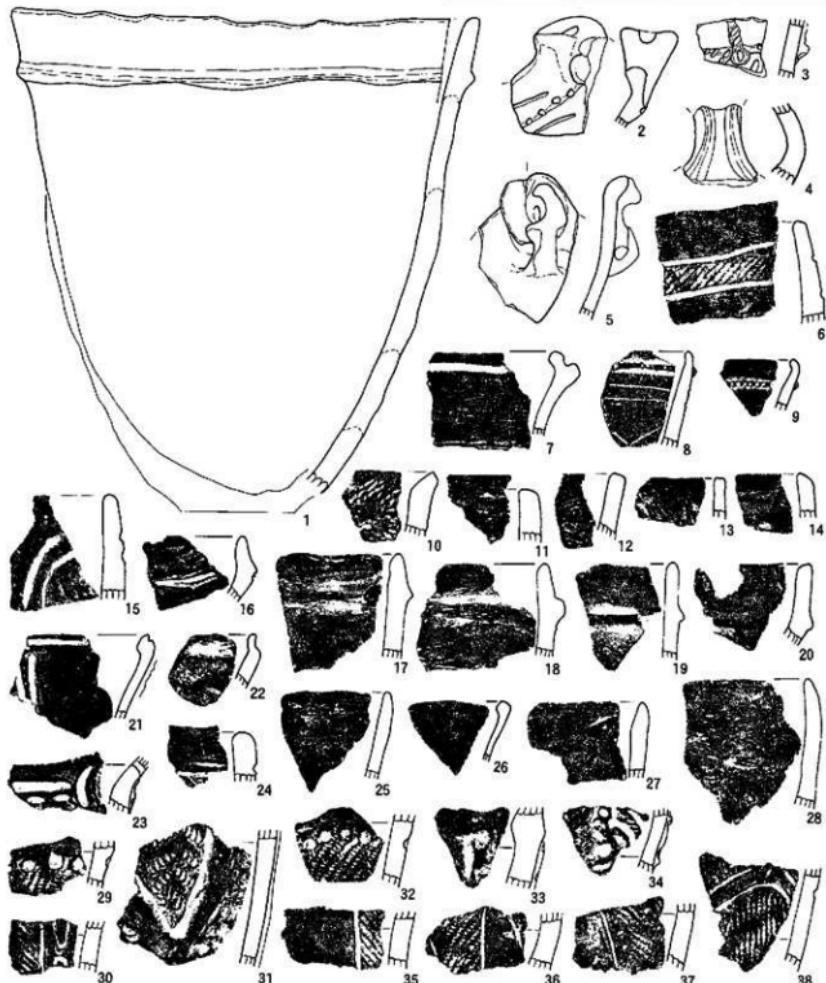
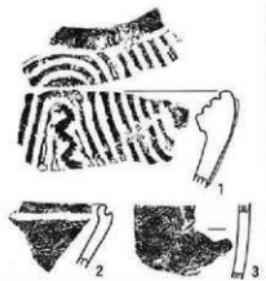


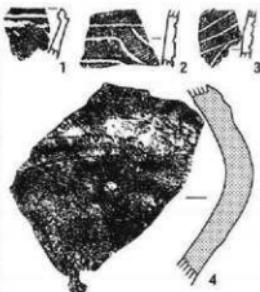
图52 8号住居址出土遗物(1)



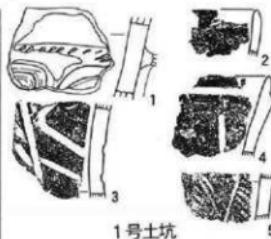
图53 8号住居址出土遗物(2)



1号竖穴



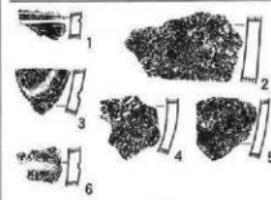
2号竖穴



1号土坑



3号土坑



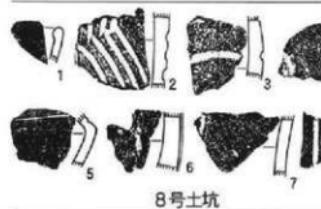
2号土坑



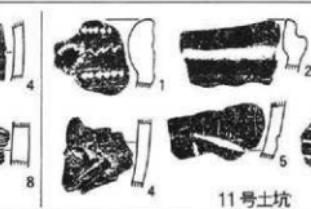
4号土坑



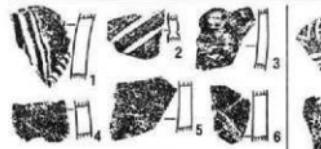
5号土坑



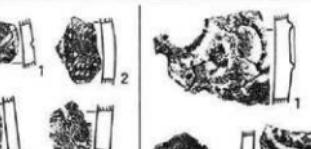
8号土坑



11号土坑



28号土坑



33号土坑



37号土坑

图54 出土遗物(1)

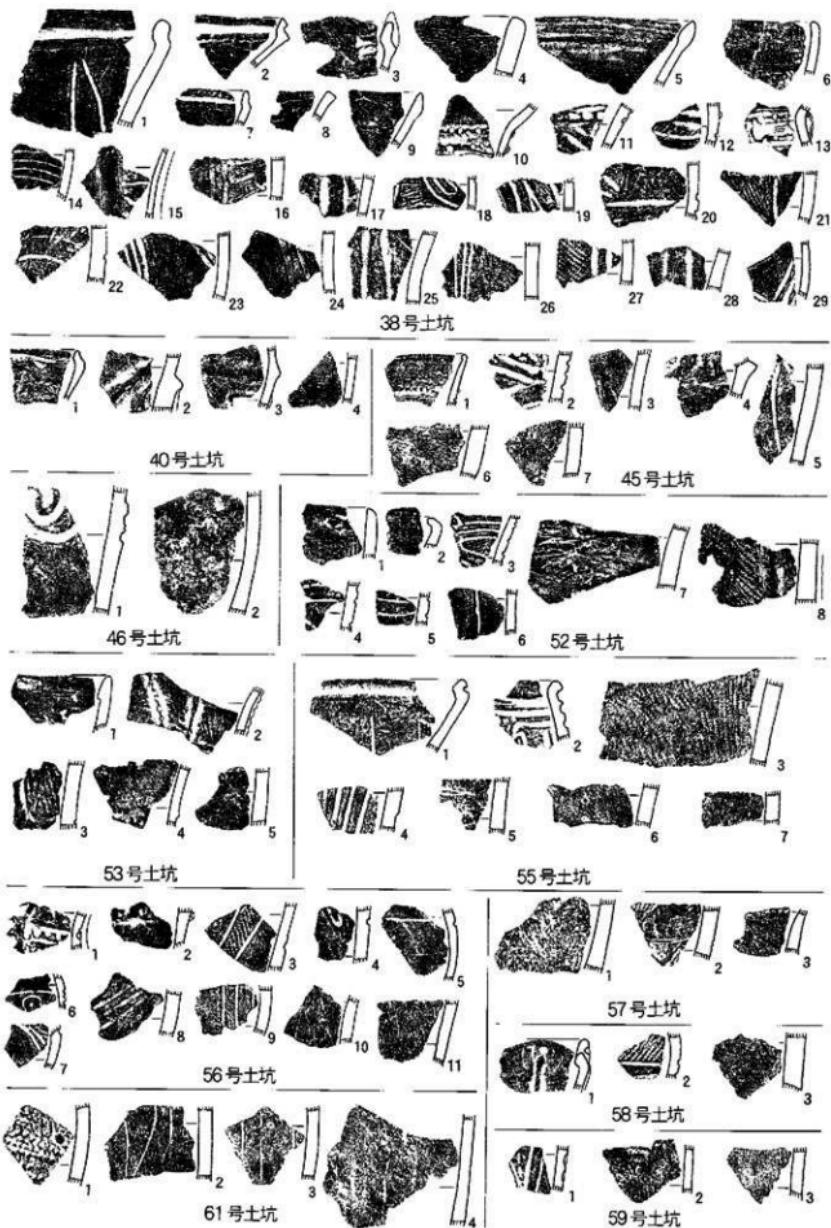


图55 出土遗物(2)



図56 出土遺物(3)

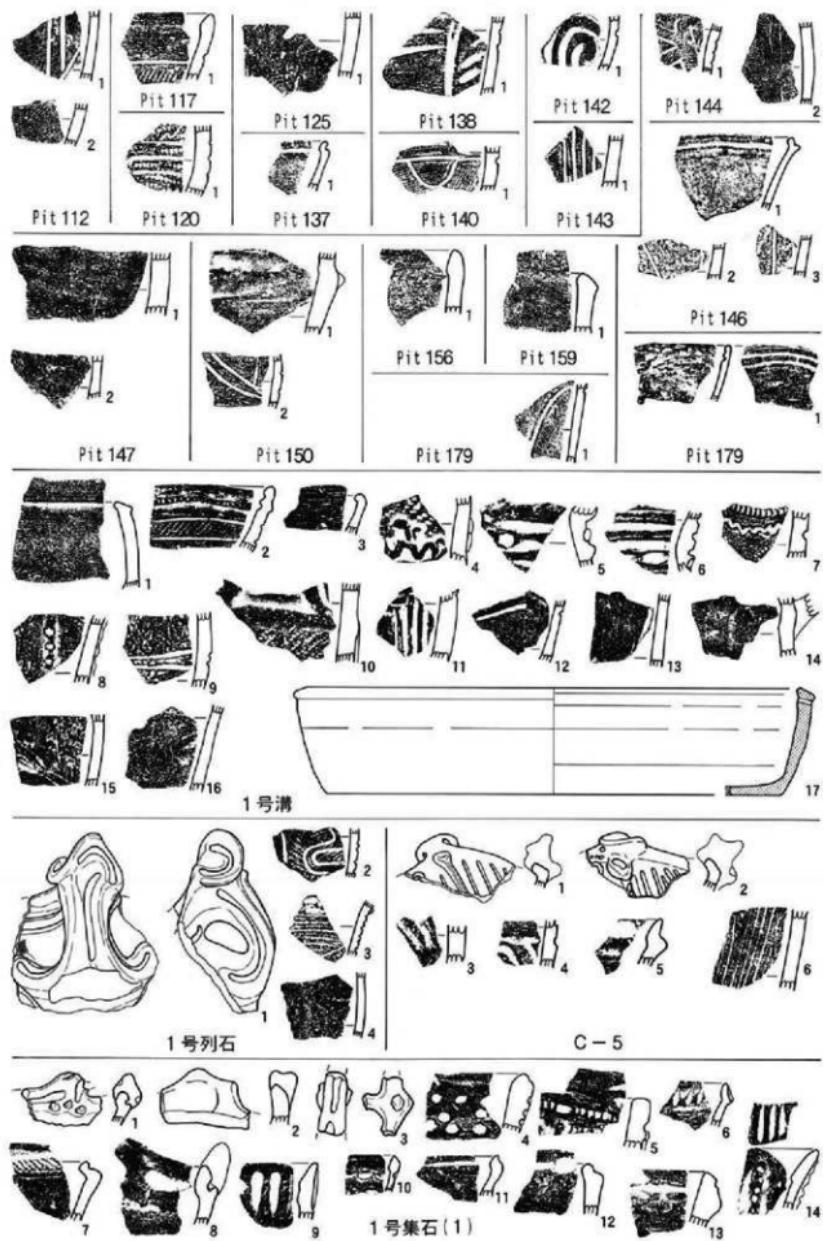
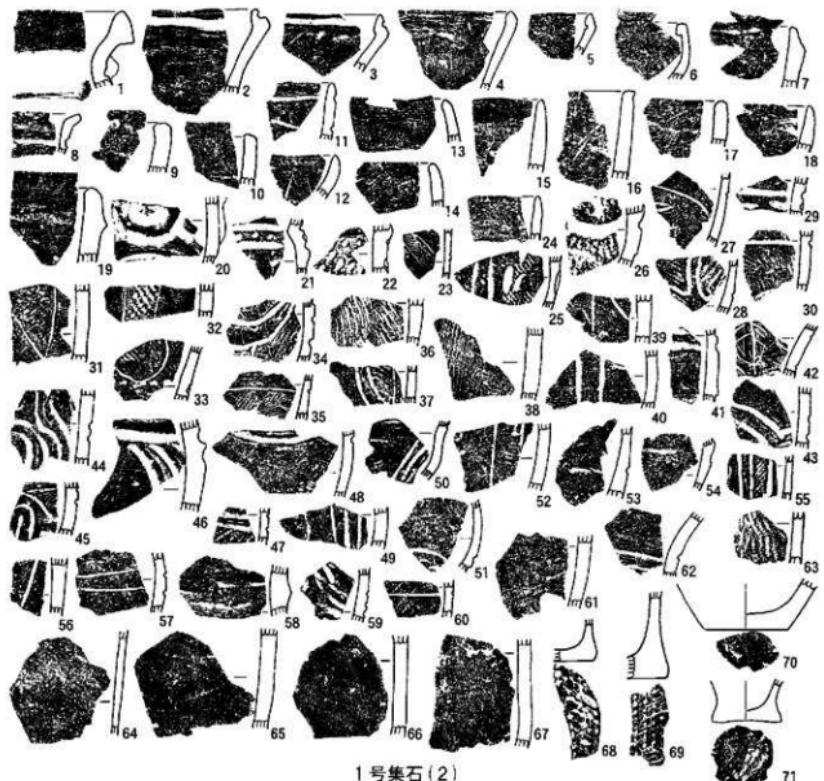
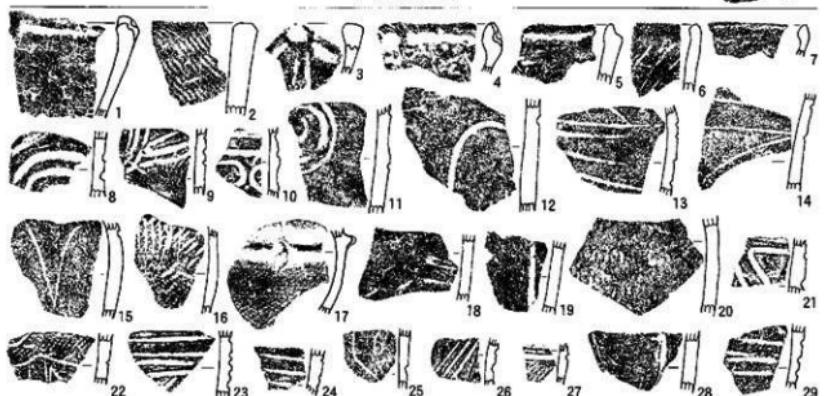


图57 出土遗物(4)



1号集石(2)



2号集石

図58 出土遺物(5)

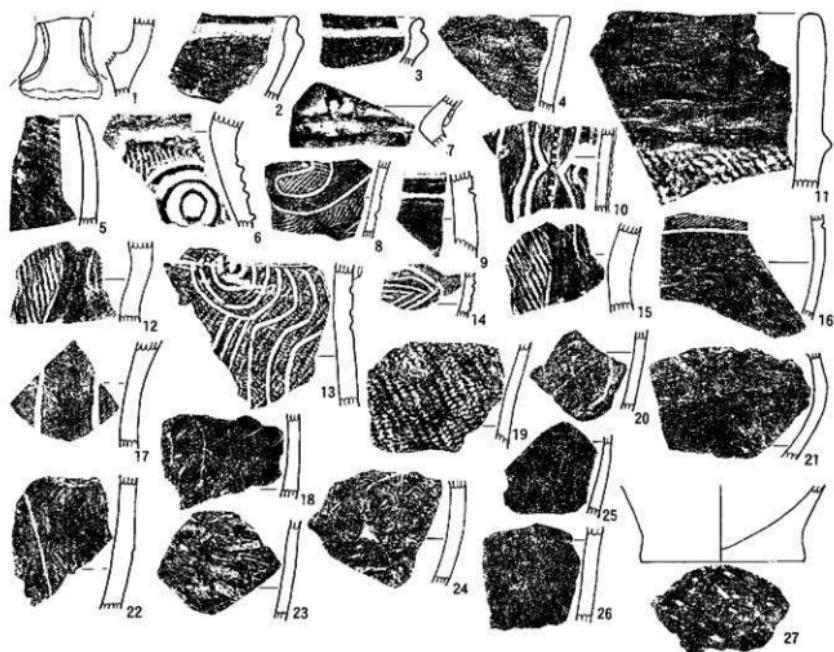


図59 出土遺物(6)

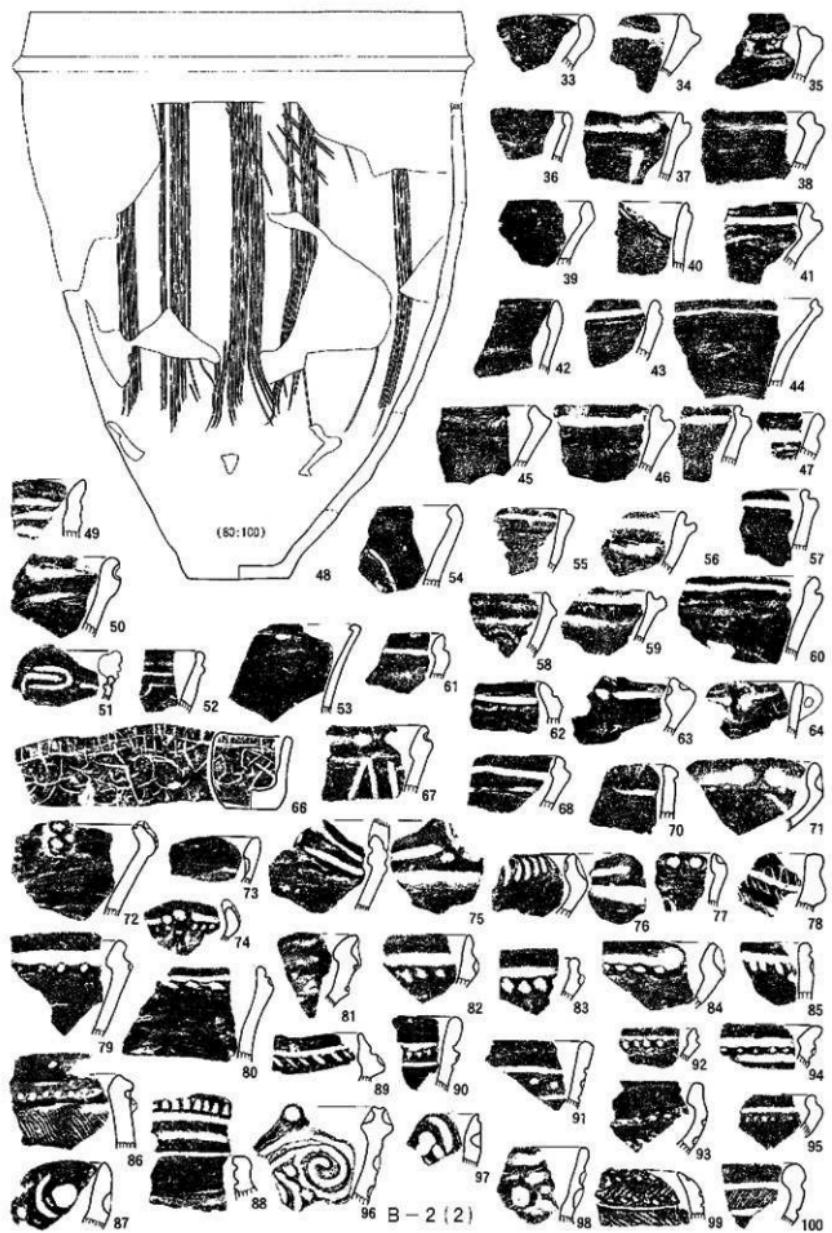


図60 出土遺物(7)

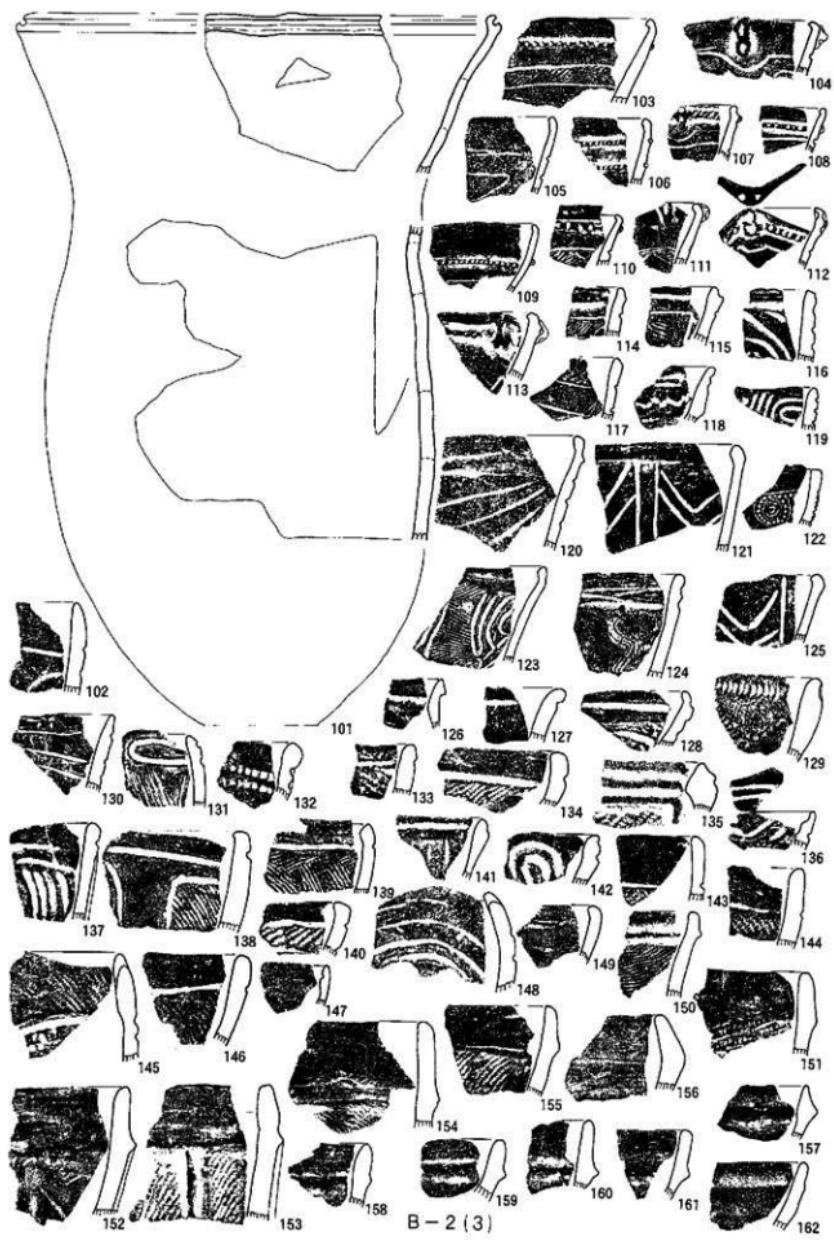


図61 出土遺物(8)

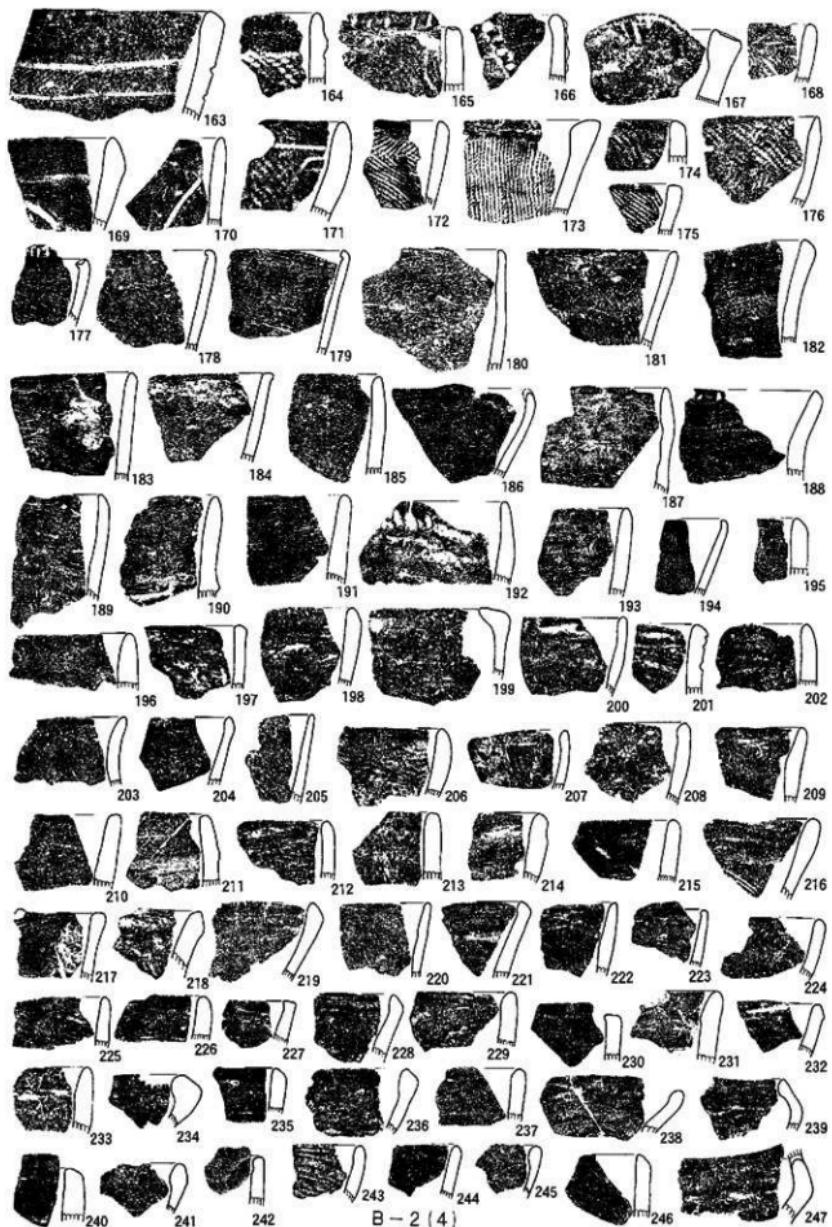


図62 出土遺物(9)



图63 出土遗物⑩

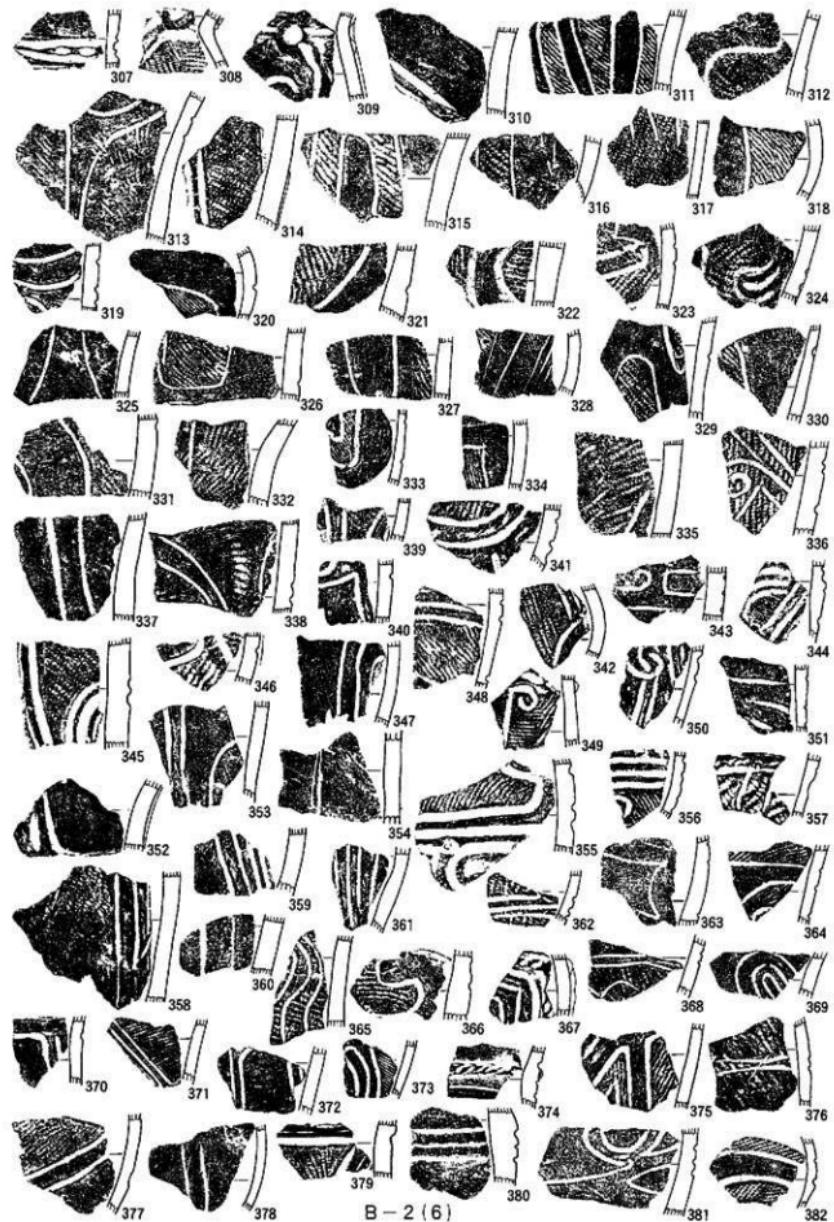


図64 出土遺物(II)

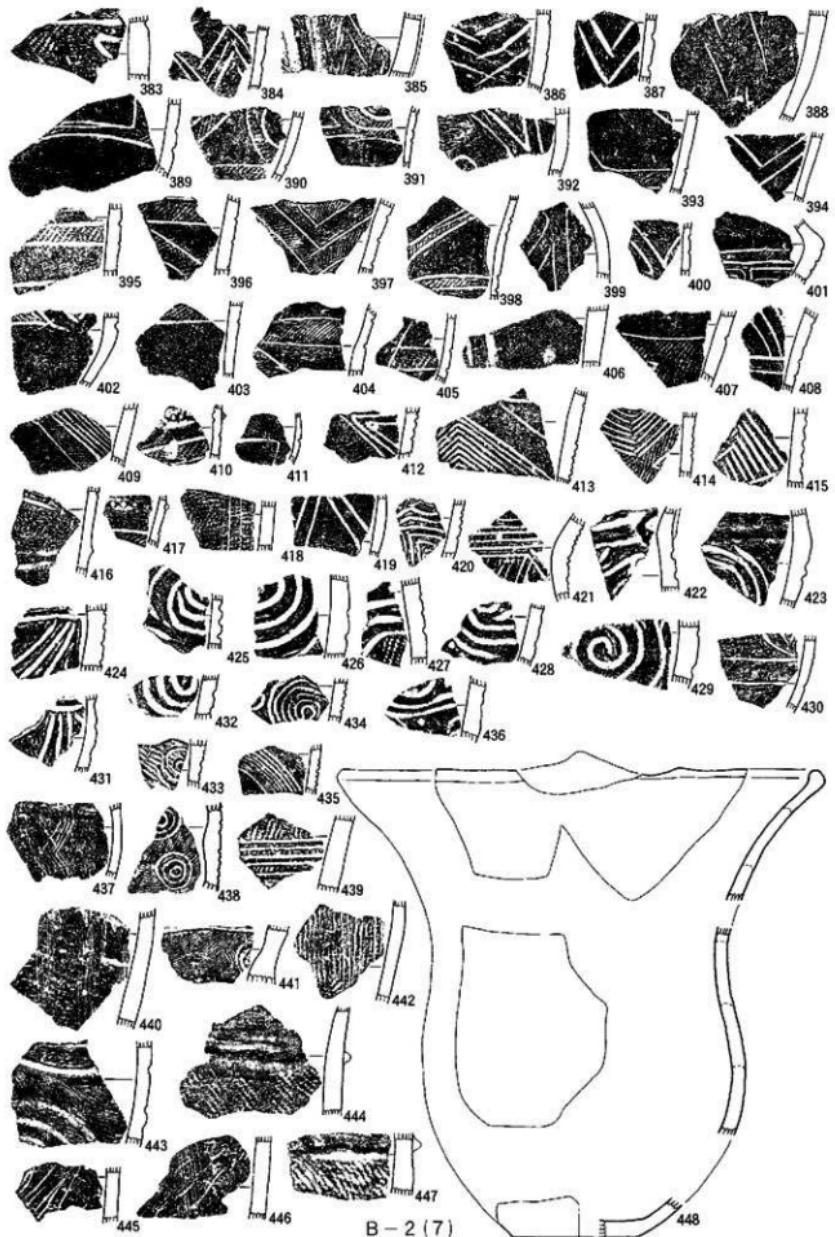
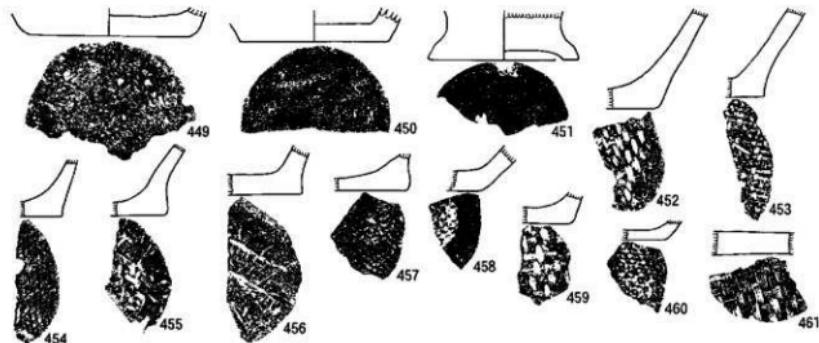
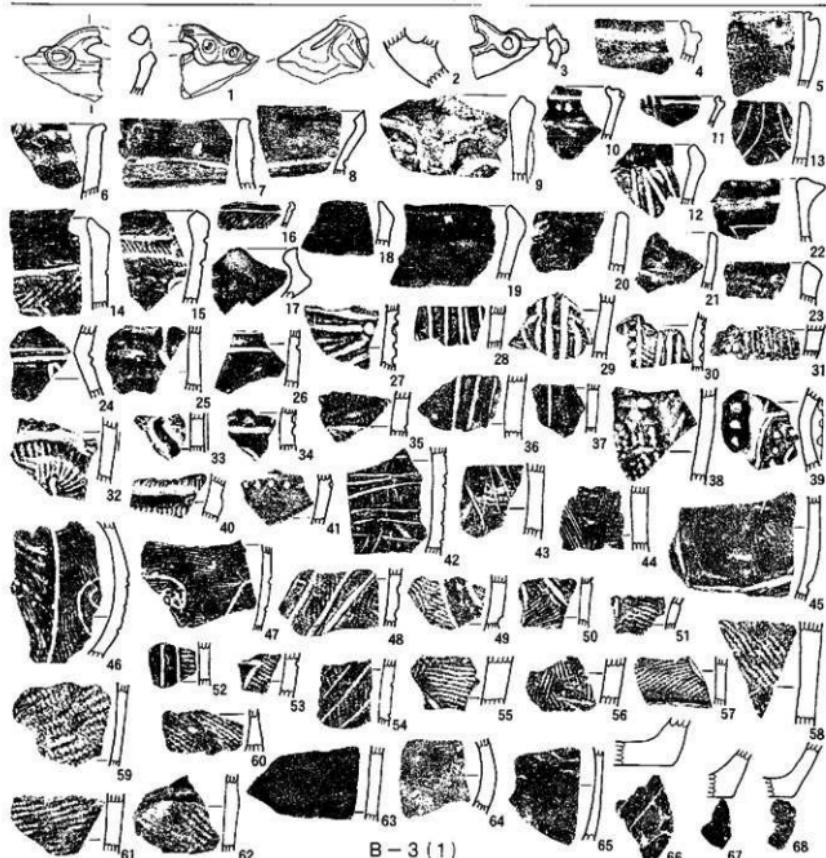


図65 出土遺物(12)

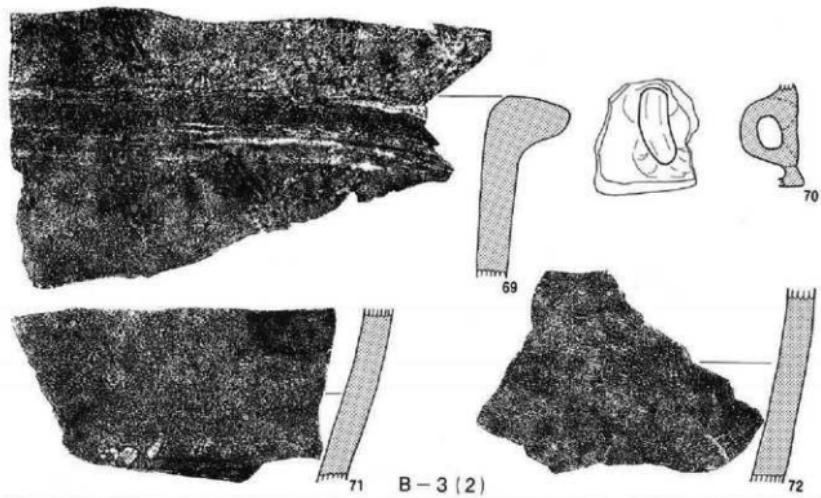


B - 2 (8)

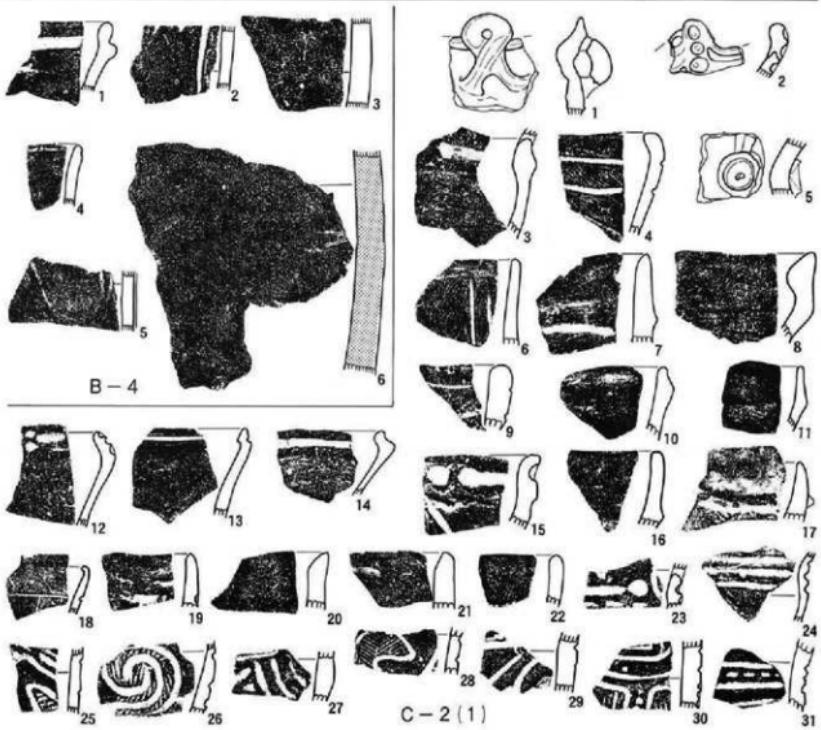


B - 3 (1)

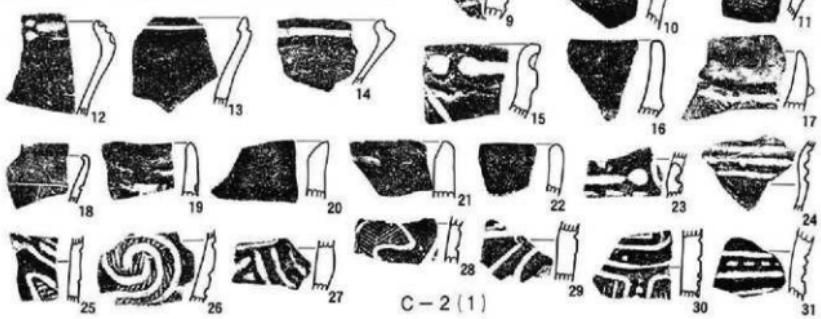
図66 出土遺物[13]



B - 3 (2)

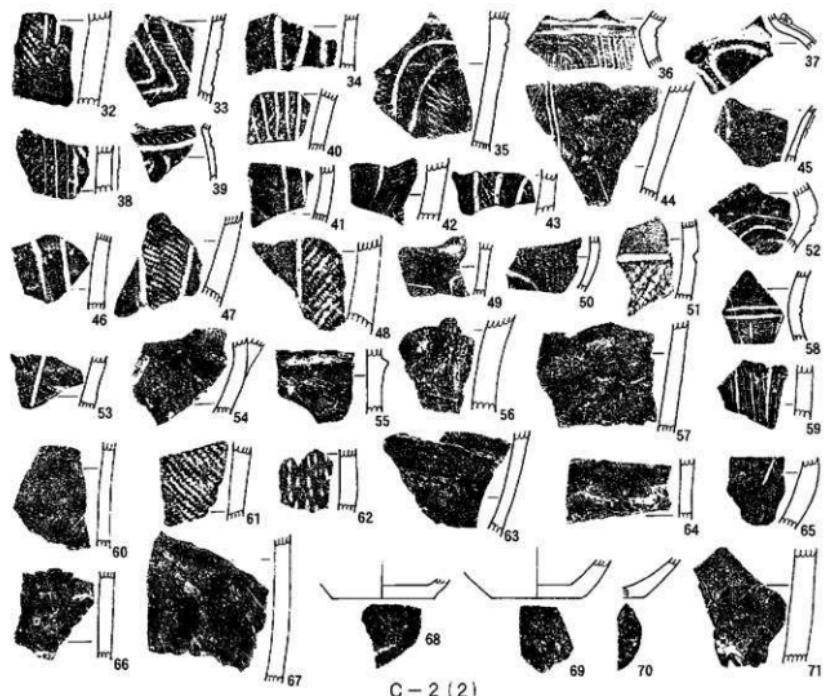


B - 4

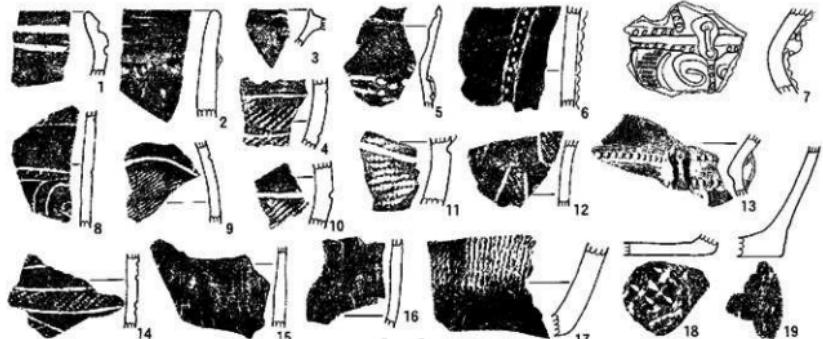


C - 2 (1)

図67 出土遺物(14)



C - 2 (2)

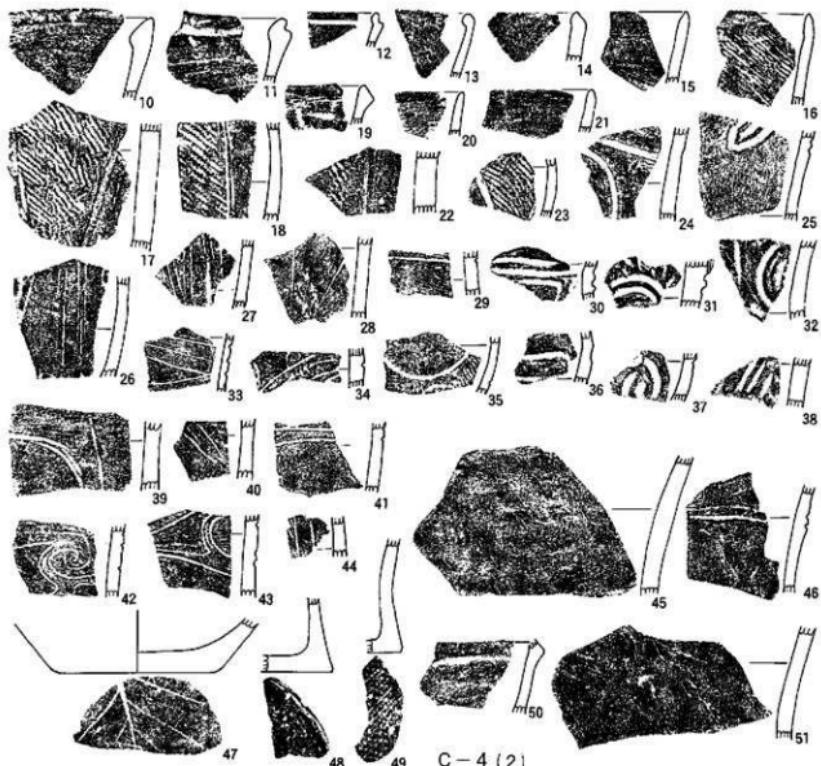


C - 3

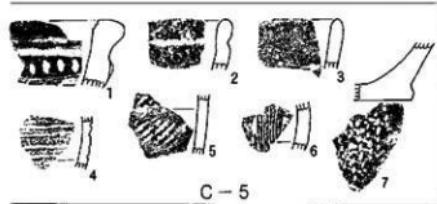


C - 4 (1)

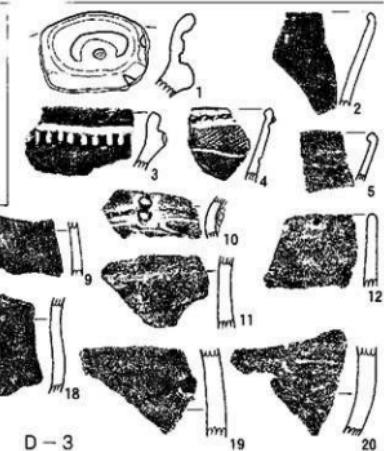
図68 出土遺物(1)



C - 4 (2)



C - 5



D - 3

图69 出土遗物(1)

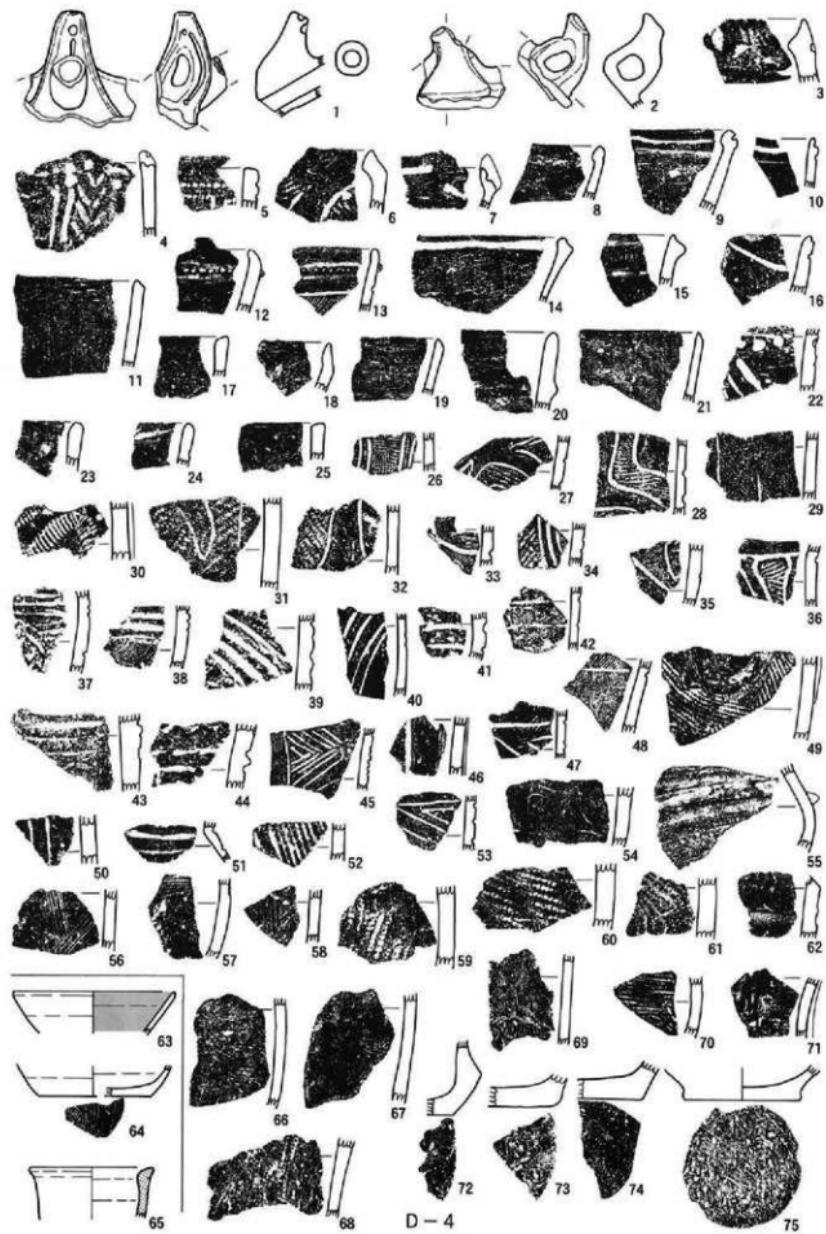


図70 出土遺物(17)

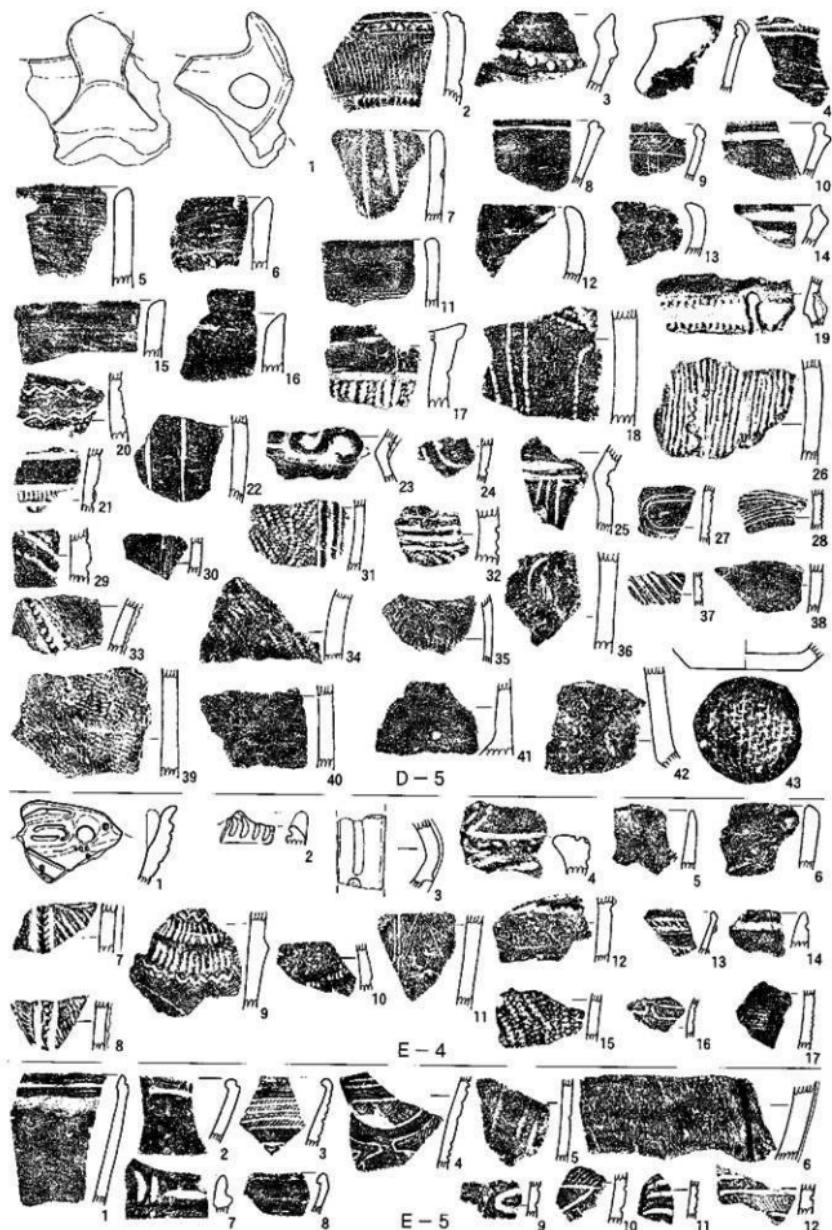


図71 出土遺物(18)

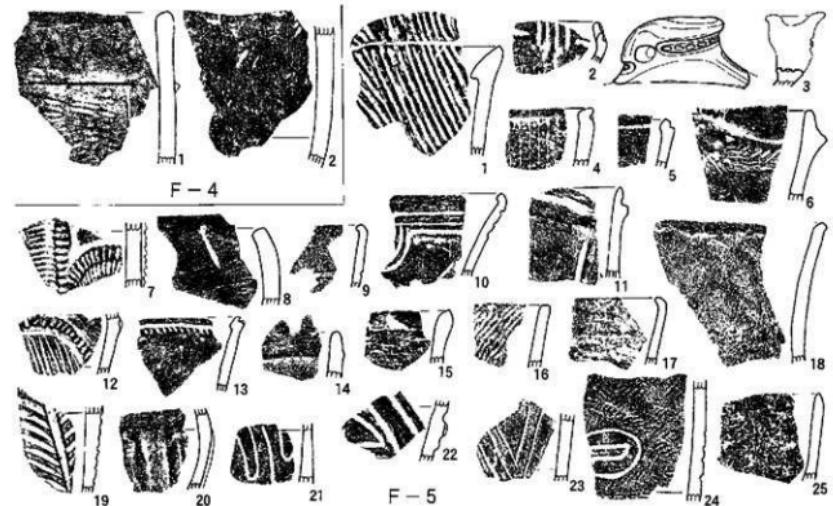
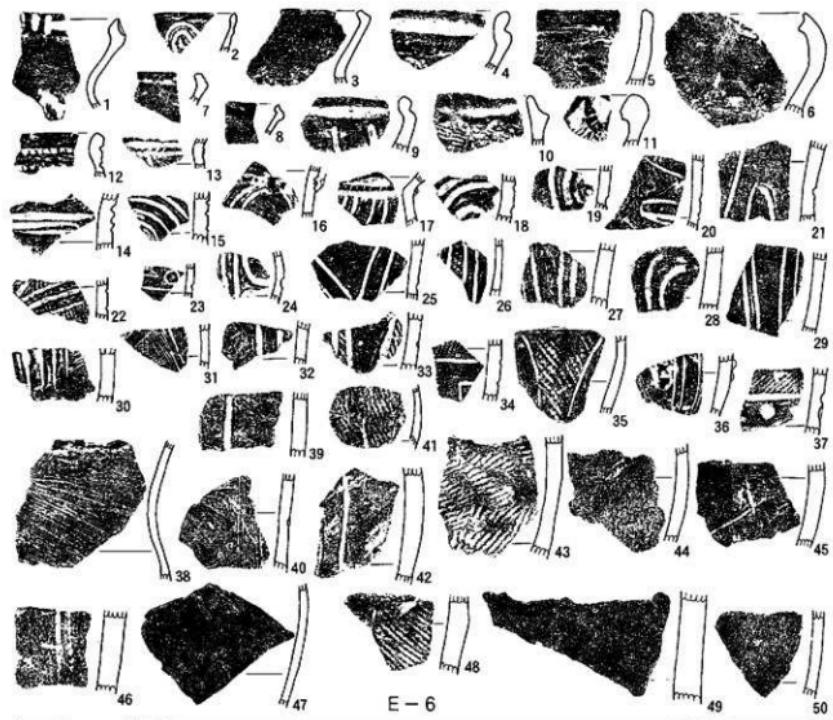


图72 出土遗物19

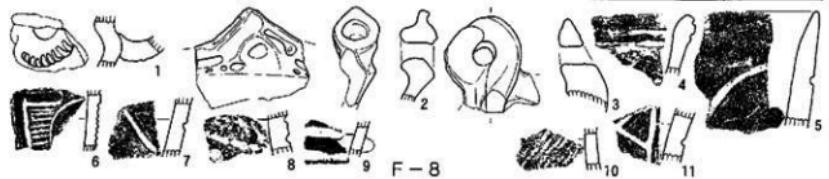
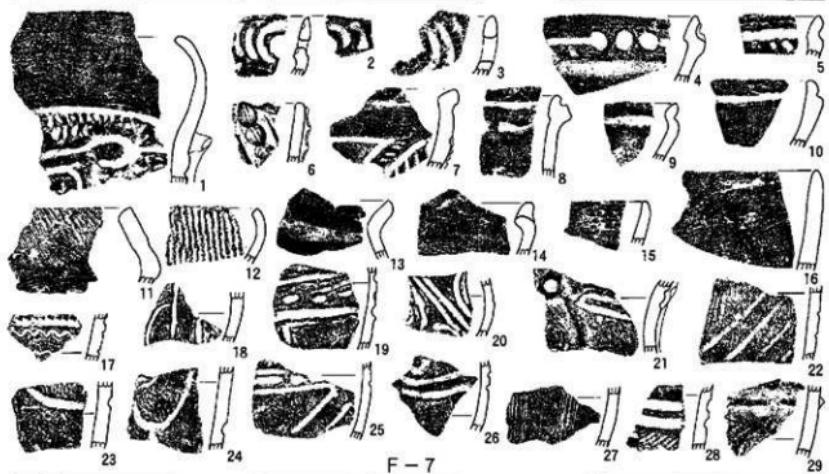
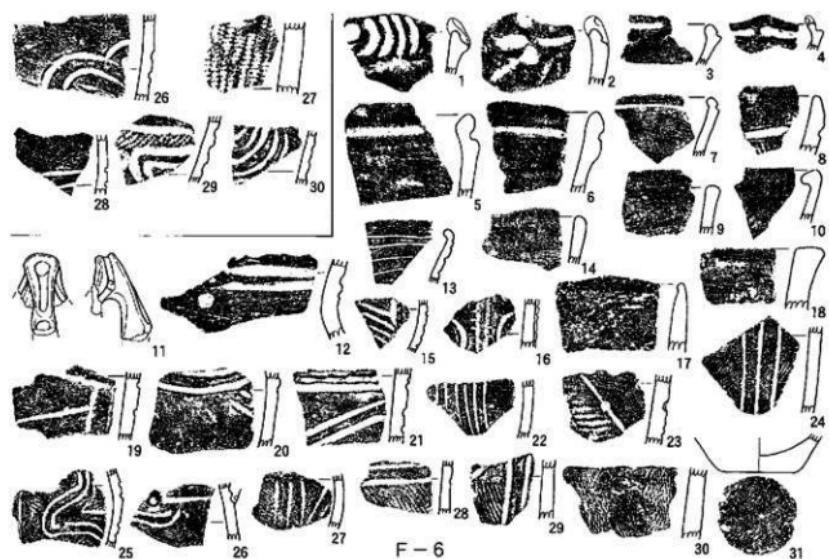


图73 出土遗物⑩

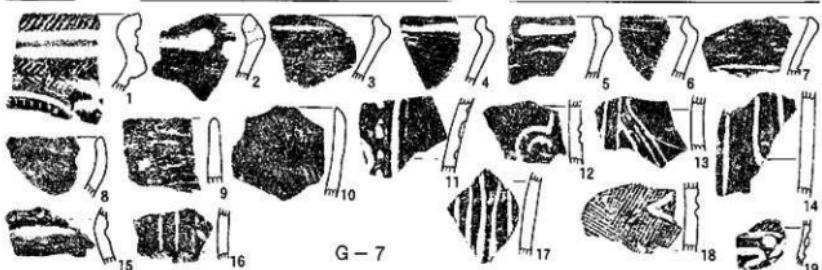
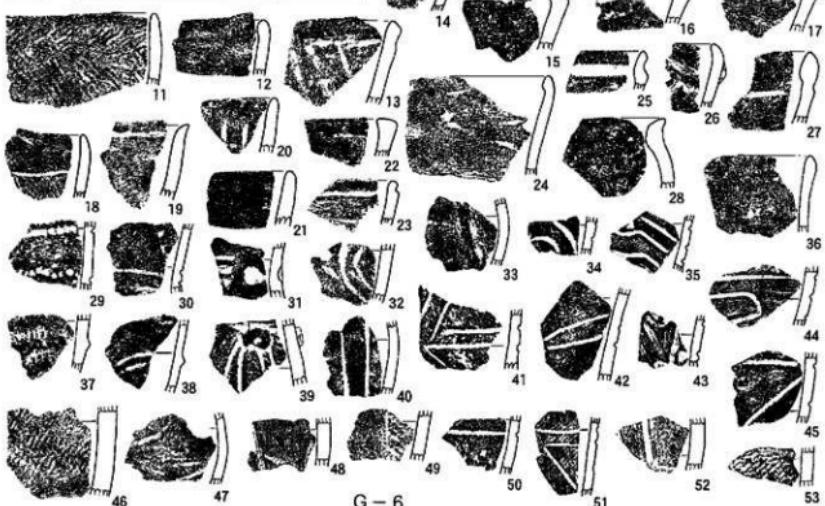
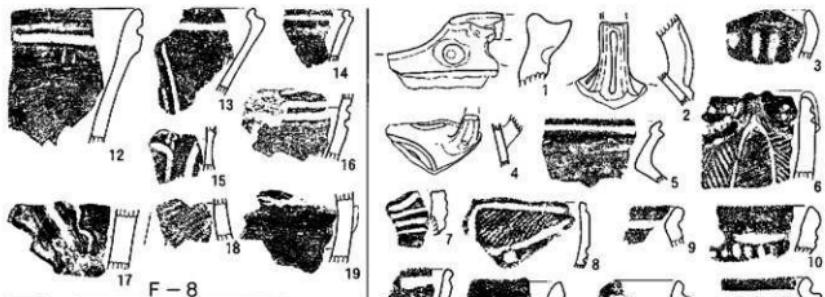


图74 出土遗物(2)

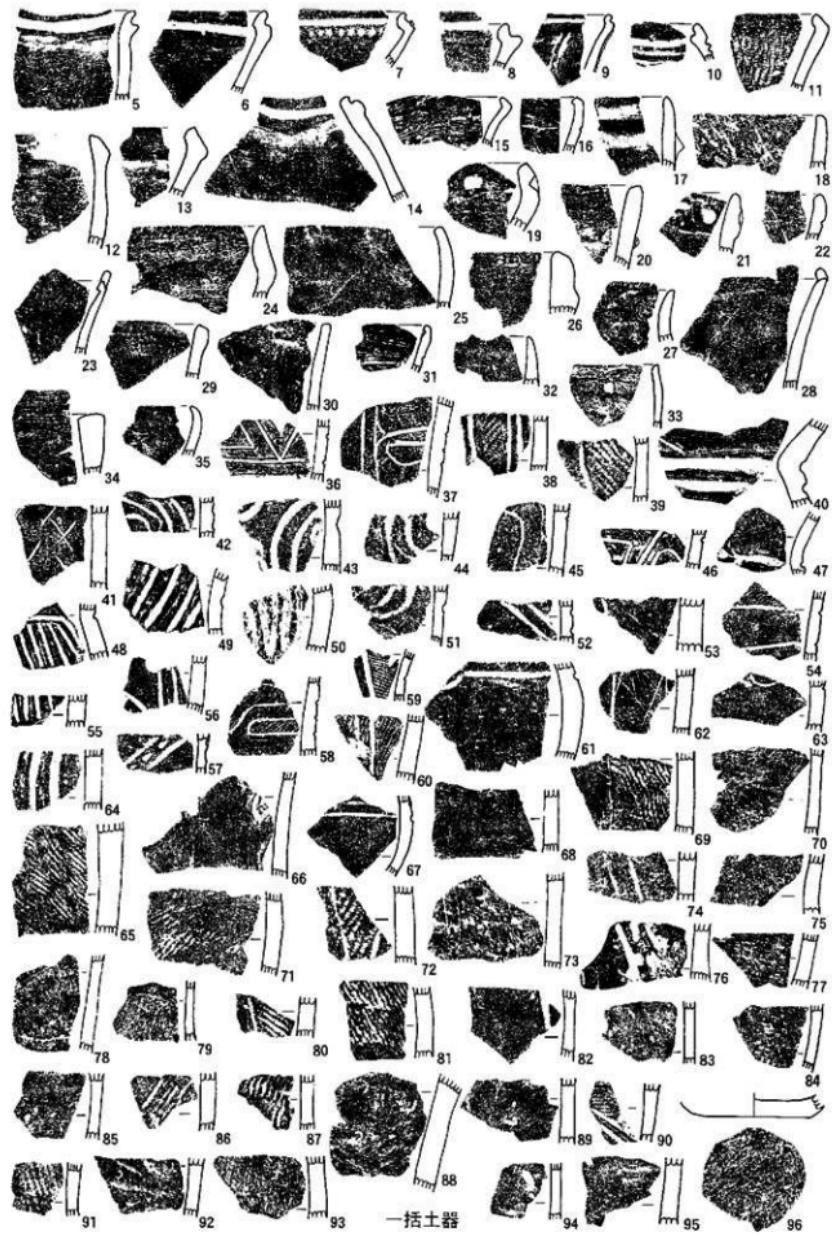


図75 出土遺物(2)

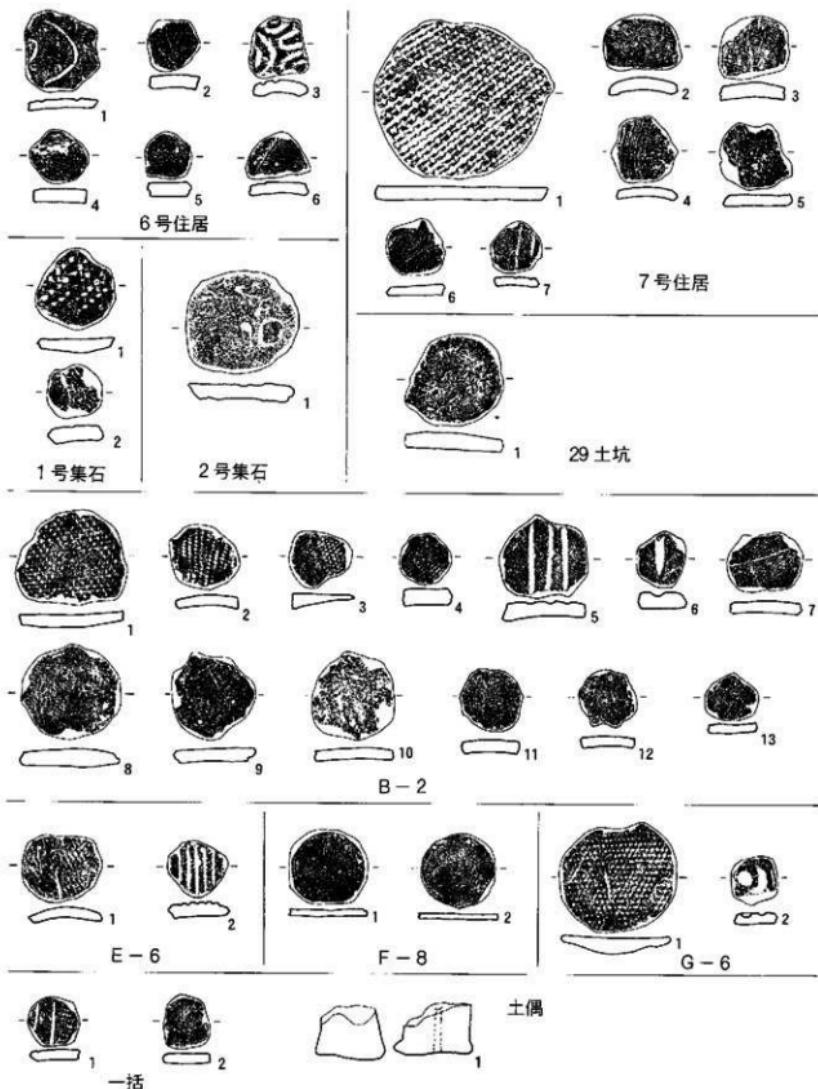
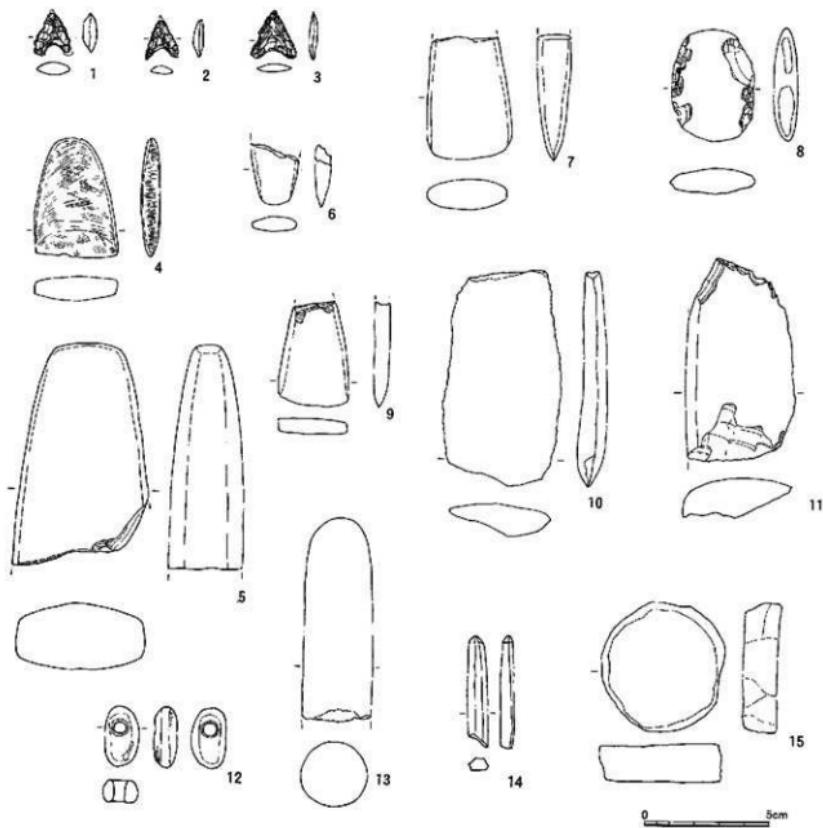
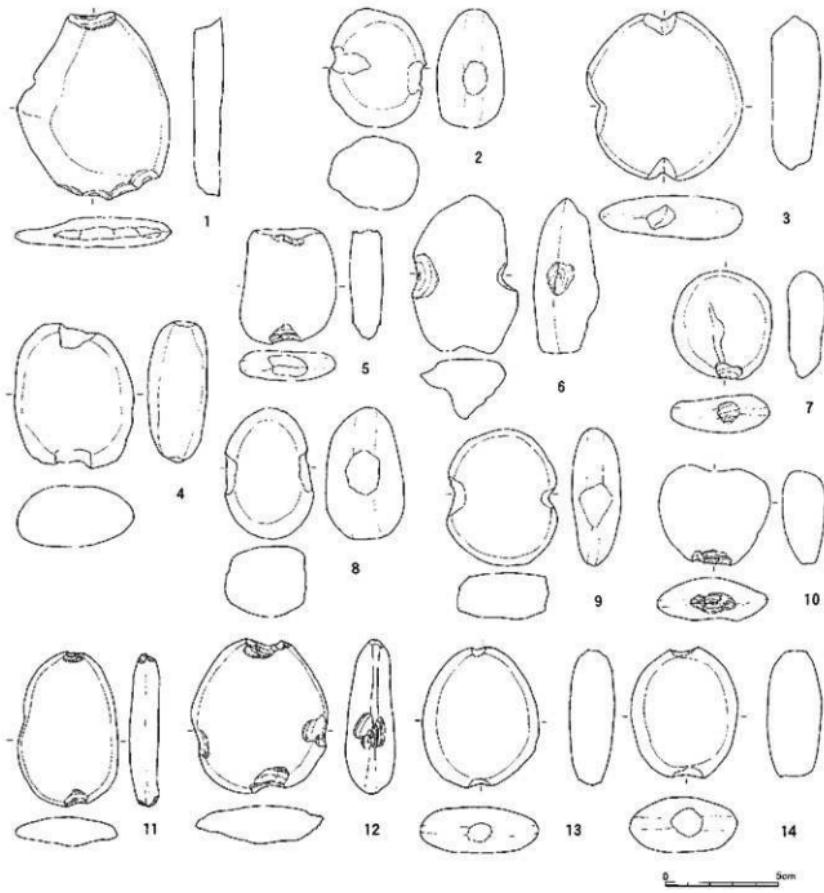


图76 出土遗物②3



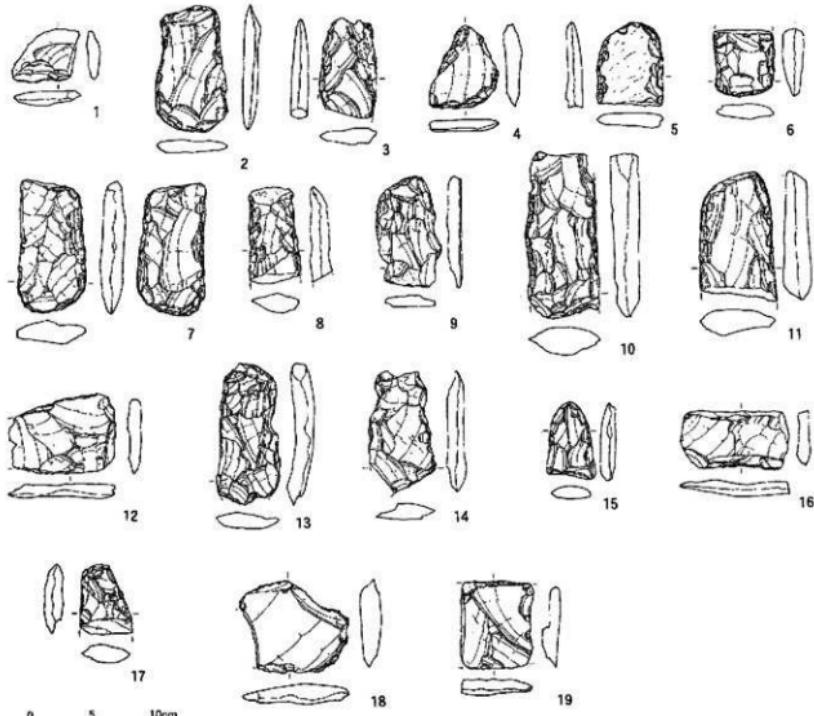
No.	器種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
1	石核	I号墓穴	(1.9)	(1.5)	0.5	(1.2)	黑曜石	無茎凹基
2	石核	B-2	(1.6)	1.4	0.4	(0.4)	黑曜石	無茎凹基
3	石核	B-2	1.9	1.8	0.3	0.9	黑曜石	無茎凹基
4	磨製石斧	B-2	4.8	3.3	0.6	30	蛇紋岩	小型·定角
5	磨製石斧	B-3	(9.0)	(5.5)	(3.0)	(260)	砂岩	定角
6	磨製石斧	A-1	(2.5)	(1.9)	(0.6)	(5)	泥岩	小型
7	磨製石斧	38号土坑	(5.0)	3.4	(0.9)	(45)	綠色凝灰岩	
8	玉	F-5	4.6	3.4	1.0	25	蛇紋岩	未製品
9	磨製石斧	C-2	(4.3)	2.8	(0.6)	(18)	綠色岩	小型·定角
10	磨製石斧	C-4	(8.7)	(4.6)	(1.2)	(80)	綠色凝灰岩	
11	磨製石斧	D-4	(7.2)	(4.5)	(1.8)	(90)	綠色凝灰岩	
12	骨錐(玉)	7号住	2.5	1.4	0.9	4.4	滑石	
13	石棒	表採	(6.2)	(2.8)	(2.7)	(115)	綠色片岩	
14	水晶	3号住	4.5	0.8	0.5	3.3	水晶	自然結晶
15	石圓盤	7号住	5.3	5.0	1.6	61	綠灰岩	

图77 出土石器(1)



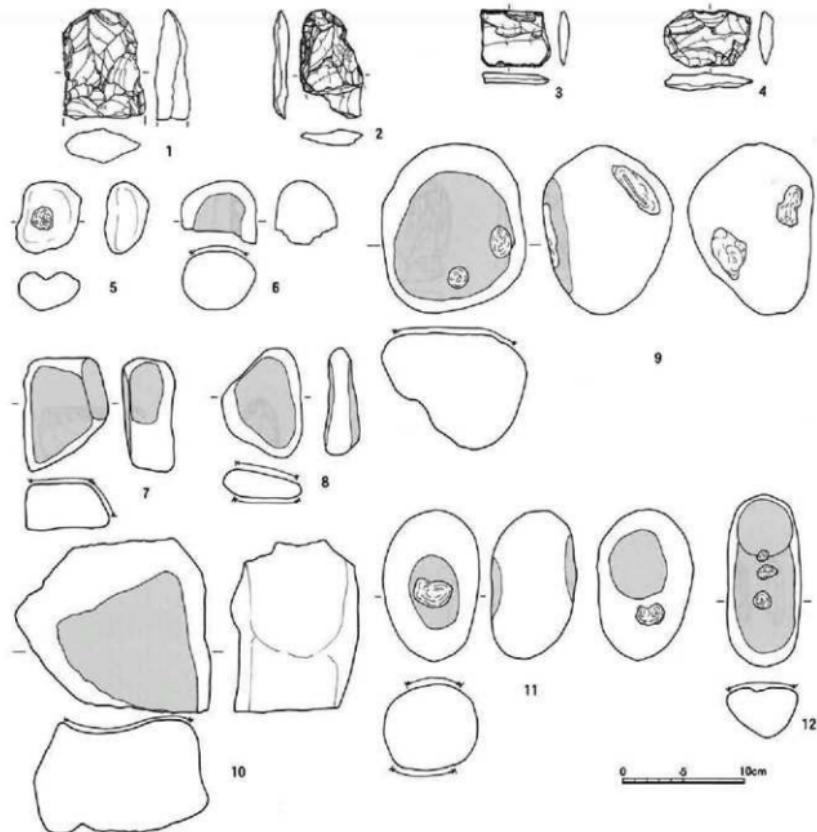
No.	器種	出土位置	最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)	重 量(g)	石 材	備 考
1	石鏟	4号住	8.6	6.9	1.4	114.9	輝石安山岩	打ち欠き・長軸
2	石鋸	6号住	5.3	4.3	3.1	69.0	輝石安山岩	切目・短軸
3	石鎌	7号住	7.7	7.1	2.3	122.0	輝石安山岩	切目・長軸
4	石鏟	7号住	6.5	5.5	2.8	141.4	輝石安山岩	切目・長軸
5	石鏟	B-1 (5.3)		4.4	1.5	(55.5)	粘板岩	打ち欠き・長軸
6	石鋸	B-2	7.2	4.8	3.0	85.7	輝石安山岩	打ち欠き・短軸
7	石鋸	D-4	5.0	4.4	1.8	48.6	輝石安山岩	打ち欠き・長軸
8	石鎌	B-2	6.0	4.1	3.6	91.8	輝石安山岩	切目・短軸
9	石鏟	C-4	6.3	5.0	2.3	84.7	輝石安山岩	切目・短軸
10	石鎌	D-4	4.5	5.0	2.0	59.8	輝質砂岩	打ち欠き・短軸
11	石鎌	F-5	7.1	4.6	1.4	61.6	頁岩	打ち欠き・長軸
12	石鎌	F-5	7.1	6.3	2.2	128.1	砂岩	打ち欠き・長軸
13	石鏟	F-5	6.4	5.3	2.1	106.9	砂岩	切目・長軸
14	石鋸	表様	6.0	4.8	2.5	92.4	砂岩	切目・長軸

図78 出土石器(2)



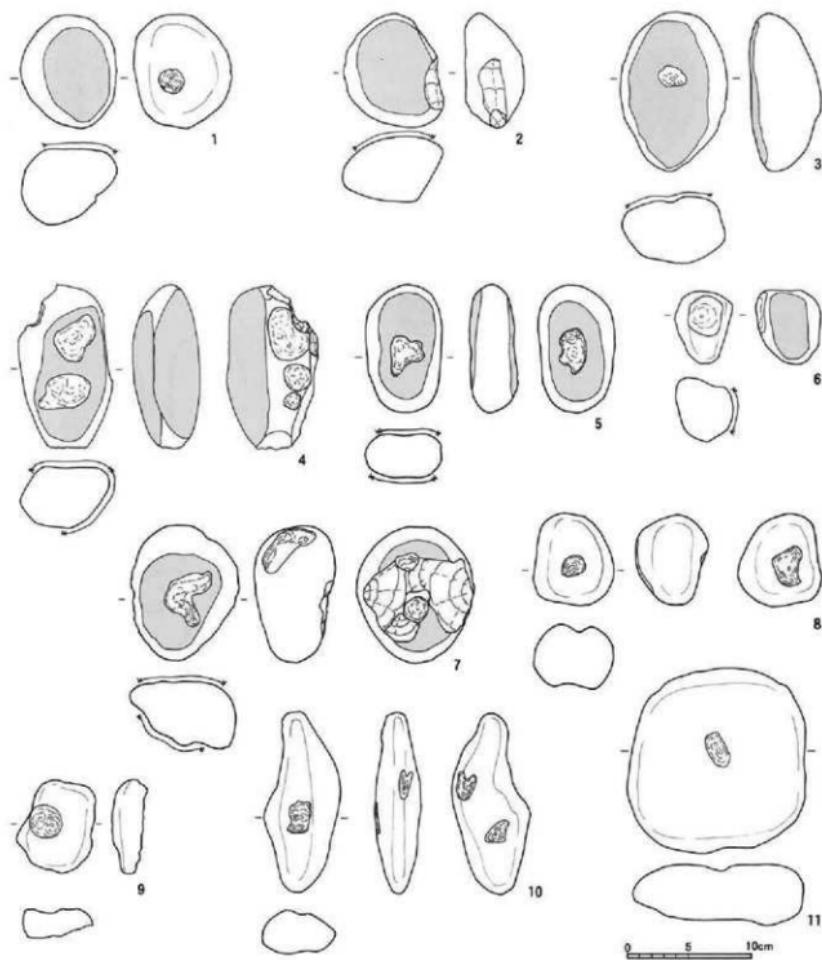
No.	種類	出土位置	最大長さ(m)	最大幅(m)	最大厚さ(m)	當量(g)	石材	備考
1	横刃形石器	3号住	(4.3)	(5.5)	(1.2)	(30)	頁岩	
2	打製石斧	7号住	10.2	5.7	1.6	115	砂岩	換形
3	打製石斧	7号住	(8.0)	(4.6)	(1.4)	(75)	ホルンフェルス	短錐形
4	横刃形石器	8号住	6.7	5.6	1.5	45	砂岩	
5	打製石斧	D-4	(6.2)	(5.3)	(1.3)	(75)	砂岩	短錐形
6	打製石斧	D-4	(5.4)	(4.9)	(1.8)	(70)	砂岩	短錐形
7	打製石斧	D-4	10.8	5.5	2.1	198	砂岩	短錐形
8	打製石斧	D-4	(7.8)	(4.1)	(1.9)	(80)	砂岩	短錐形
9	打製石斧	D-5	(9.0)	5.3	(1.2)	(90)	ホルンフェルス	短錐形
10	打製石斧	E-6	(13.5)	5.8	2.3	(275)	砂岩	短錐形
11	打製石斧	表探	(10.5)	(6.3)	(2.3)	(210)	砂岩	短錐形
12	横刃形石器	表探	6.5	(8.6)	1.2	(92)	ホルンフェルス	
13	打製石斧	表探	(11.5)	5.2	2.2	(130)	ホルンフェルス	短錐形
14	打製石斧	表探	(9.8)	(5.4)	1.6	(100)	ホルンフェルス	換形
15	打製石斧	表探	(6.3)	(4.1)	(1.2)	(40)	ホルンフェルス	換形
16	横刃形石器	表探	4.9	8.8	1.9	80	砂岩	
17	打製石斧	表探	(5.8)	(4.3)	(1.6)	(40)	砂岩	換形
18	横刃形石器	表探	7.5	(8.8)	1.7	(120)	ホルンフェルス	
19	横刃形石器	表探	(7.1)	(5.9)	(1.1)	(78)	ホルンフェルス	

図79 出土石器(3)



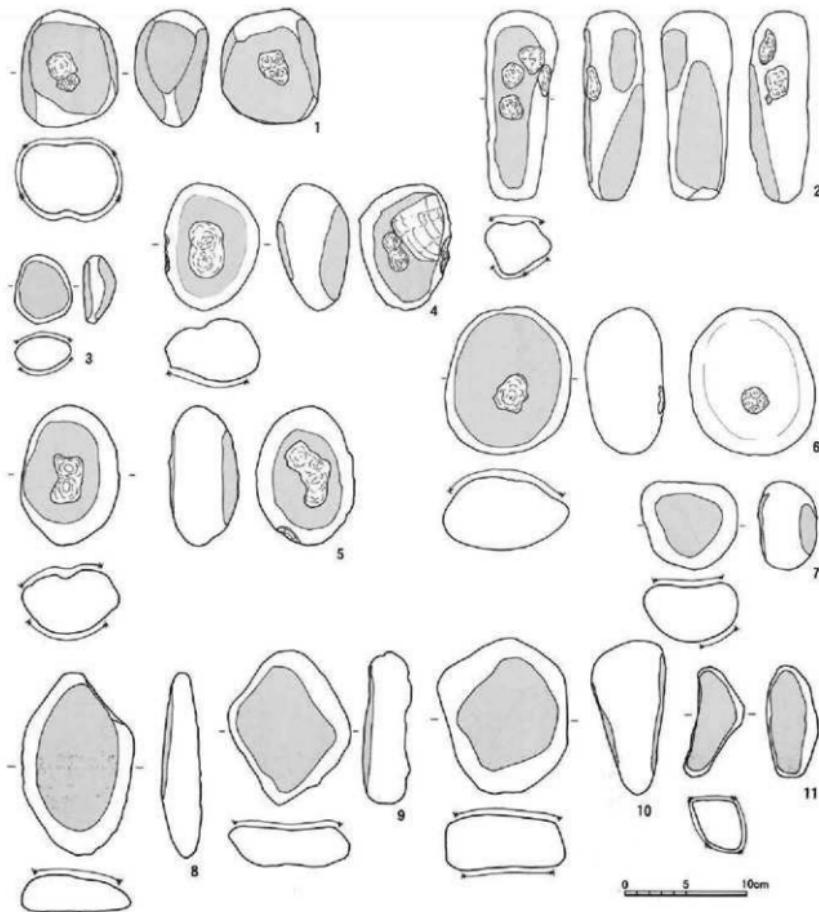
No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量[g]	石 材	備 考
1	打製石斧	C-3	(9.1)	(6.7)	2.9	(225)	ホルンフェルス	短刃形
2	打製石斧	1号溝	(9.0)	(5.3)	1.4	(58)	頁岩	斜形
3	横刃形石器	1号溝	4.8	5.6	1.0	50	頁岩	
4	横刃形石器	C-3	4.8	7.2	1.6	48	砂岩	
5	刮石	1号住	5.9	5.3	3.5	115	安山岩	使用面1
6	磨石	1号住	(5.2)	(6.2)	(5.1)	(150)	安山岩	使用面1
7	磨石	3号住	(9.2)	(7.0)	(4.0)	(430)	輝石安山岩	使用面2
8	磨石	3号住	9.1	6.6	2.9	190	輝石安山岩	使用面2
9	磨・刮石	3号住	13.8	11.9	9.5	1638	輝石安山岩	使用面3
10	石皿	3号住	(14.4)	(16.1)	(10.6)	(3500)	輝石安山岩	
11	磨・刮石	4号住	12.4	7.9	7.0	778	輝石安山岩	使用面2
12	磨・刮石	3号住	14.2	6.2	4.3	—	輝石安山岩	使用面1

図80 出土石器(4)



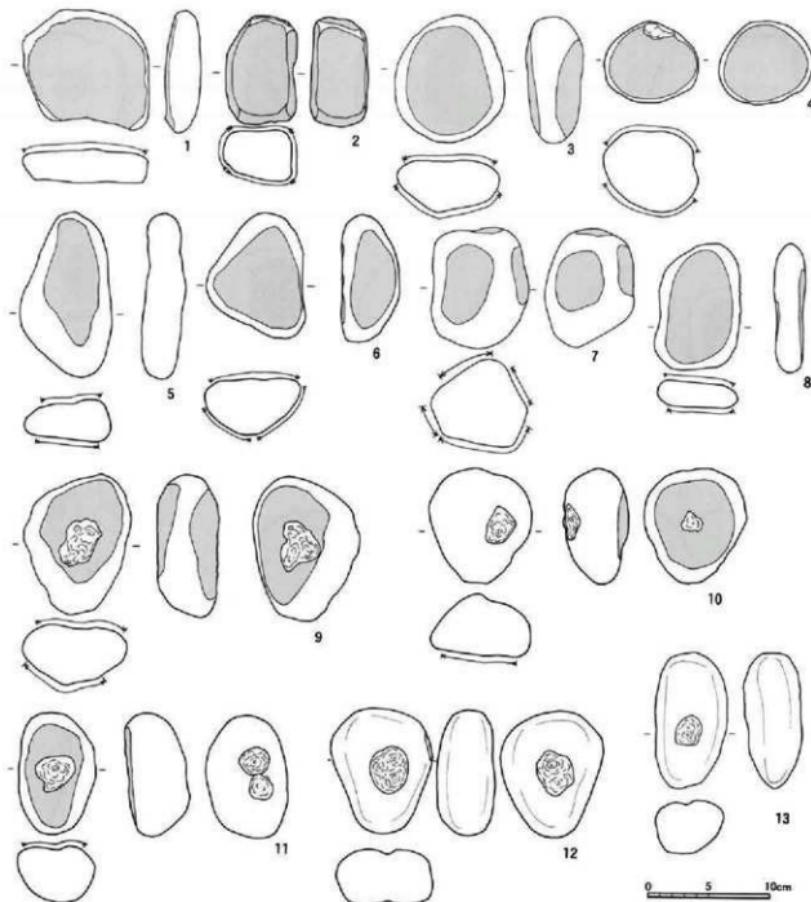
No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量[g]	石材	備考
1	磨・凹石	4号住	9.3	7.7	6.3	510	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	4号住	9.4	7.5	5.4	426	安山岩	使用面2
3	磨・凹石	4号住	13.1	8.2	5.5	755	輝石安山岩	使用面1
4	磨・凹石	6号住	13.4	7.7	5.5	523	輝石安山岩	使用面2
5	磨・凹石	6号住	10.5	6.2	3.6	325	輝石安山岩	使用面2
6	磨・凹石	6号住	6.0	4.7	5.3	188	安山岩	使用面2
7	凹石	6号住	11.1	5.9	(6.6)	(690)	安山岩	使用面3
8	凹石	6号住	7.6	6.7	6.0	340	輝石安山岩	使用面2
9	凹石	6号住	(7.6)	(6.3)	(2.5)	(130)	輝石安山岩	使用面1
10	凹石	6号住	14.9	6.3	3.8	325	輝石安山岩	使用面3
11	凹石	6号住	15.3	14.4	5.0	2000	輝石安山岩	使用面1

図81 出土石器(5)



No.	器種	出土位置	最大長辺	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	石材	備考
1	磨・凹石	6号住	9.5	8.0	5.5	585	輝石安山岩	使用面3
2	磨・凹石	6号住	15.5	5.9	4.4	575	輝石安山岩	使用面4
3	磨石	6号住	5.7	4.8	2.7	80	輝石安山岩	使用面2
4	凹石	6号住	10.5	7.6	5.1	470	輝石安山岩	使用面2
5	凹石	6号住	11.5	8.0	5.0	530	輝石安山岩	使用面2
6	磨・凹石	6号住	12.0	10.2	6.0	1000	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	6号住	7.2	8.0	4.8	340	安山岩	使用面2
8	磨石	6号住	14.9	9.8	3.2	520	輝石安山岩	使用面1
9	磨石	6号住	12.6	10.0	4.0	517	輝石安山岩	使用面1
10	磨石	6号住	12.8	10.5	6.0	1003	輝石安山岩	使用面2
11	磨石	6号住	9.0	5.0	4.2	200	輝石安山岩	使用面2

図82 出土石器(6)



No.	器種	出土位置	最大長[cm]	最大幅[cm]	最大厚[cm]	重量[g]	石材	備考
1	磨石	6号住	(10.3)	(10.5)	(2.9)	(430)	輝石安山岩	使用面1
2	磨石	6号住	8.9	5.8	4.2	430	輝石安山岩	使用面5
3	磨石	6号住	10.5	9.0	4.7	493	安山岩	使用面2
4	磨石	6号住	6.8	7.7	7.4	495	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	6号住	13.6	7.5	3.5	468	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	6号住	10.3	8.2	4.8	410	安山岩	使用面2
7	磨石	6号住	10.0	7.9	7.3	770	輝石安山岩	使用面5
8	磨石	6号住	10.5	7.1	2.6	270	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	7号住	11.6	8.9	5.1	550	輝石安山岩	使用面2
10	磨・凹石	7号住	9.5	8.3	5.3	443	輝石安山岩	使用面2
11	磨・凹石	7号住	10.0	6.4	5.3	360	安山岩	使用面2
12	凹石	7号住	10.3	8.3	4.1	480	輝石安山岩	使用面2
13	凹石	7号住	11.2	5.9	4.3	330	輝石安山岩	使用面1

図83 出土石器(7)



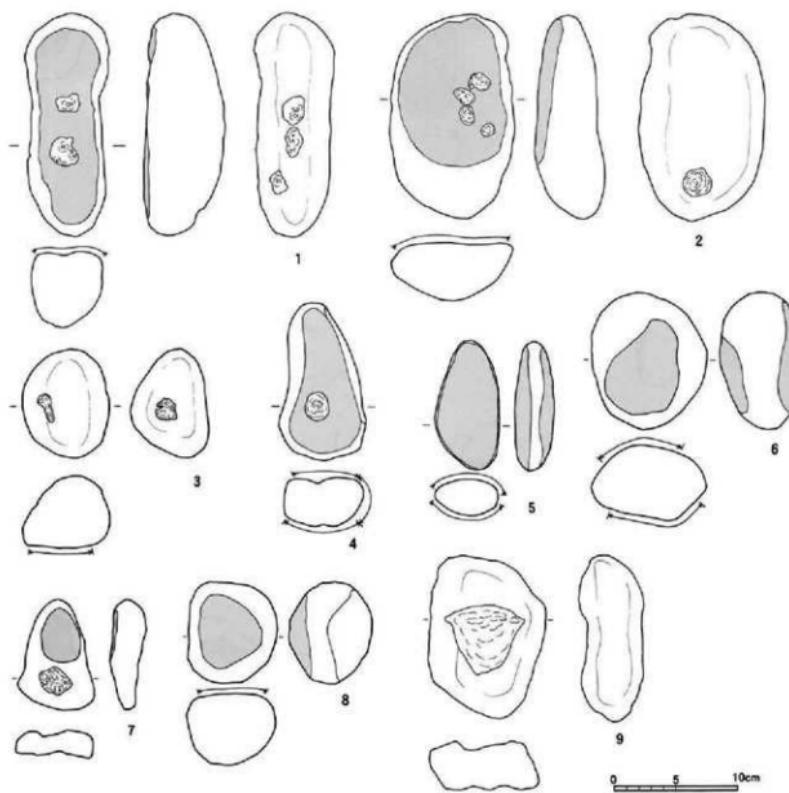
No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量[g]	石材	備考
1	圓石	7号住	(11.2)	(12.3)	(4.8)	(1035)	輝石安山岩	使用面1
2	圓石	7号住	7.9	7.8	4.2	320	輝石安山岩	使用面3
3	磨・圓石	7号住	11.7	6.5	3.5	350	安山岩	使用面2
4	圓石	7号住	(8.5)	(8.2)	(3.3)	(280)	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	7号住	12.4	9.5	7.5	1363	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	7号住	11.4	9.3	4.8	605	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	7号住	10.2	8.1	6.9	745	安山岩	使用面2
8	磨石	7号住	6.6	4.8	2.3	88	輝石安山岩	使用面2
9	圓石	1号整穴	(12.4)	(17.6)	(6.7)	(1500)	輝石安山岩	使用面3
10	磨石	7号住	9.5	6.8	6.1	418	輝石安山岩	使用面3
11	圓石	2号整穴	11.3	12.0	8.1	1045	輝石安山岩	使用面3
12	磨・圓石	2号整穴	14.3	7.3	4.4	570	輝石安山岩	使用面2

図84 出土石器(8)



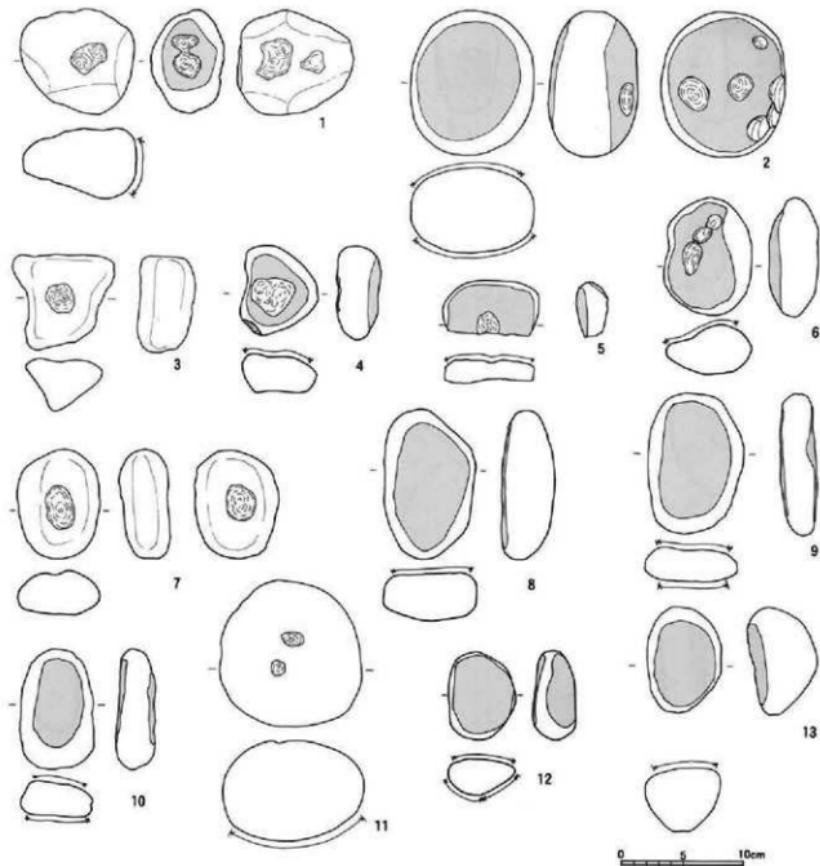
No.	器種	出土位置	最大長切	最大幅切	最大厚(m)	重量(g)	石村	備考
1	磨石	2号堅穴	(14.2)	(10.7)	6.2	(1183)	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	2号堅穴	14.0	6.9	4.3	790	輝石安山岩	使用面1
3	磨・凹石	3号堅穴	10.9	9.4	7.3	700	安山岩	使用面2
4	磨・凹石	9号土坑	11.0	7.6	3.5	418	輝石安山岩	使用面2
5	凹石	32号土坑	(5.3)	(8.4)	(4.3)	(250)	安山岩	使用面2
6	磨石	9号土坑	8.2	8.5	5.1	390	輝石安山岩	使用面3
7	磨石	ピット69	11.0	5.5	2.9	210	輝石安山岩	使用面2
8	凹石	ピット93	9.5	(5.1)	(3.7)	(225)	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	1号溝	13.6	5.7	5.3	470	輝石安山岩	使用面2
10	磨・凹石	1号溝	12.0	8.9	6.4	910	輝石安山岩	使用面1
11	磨・凹石	1号溝	8.2	6.5	5.4	412	輝石安山岩	使用面2

図85 出土石器(9)



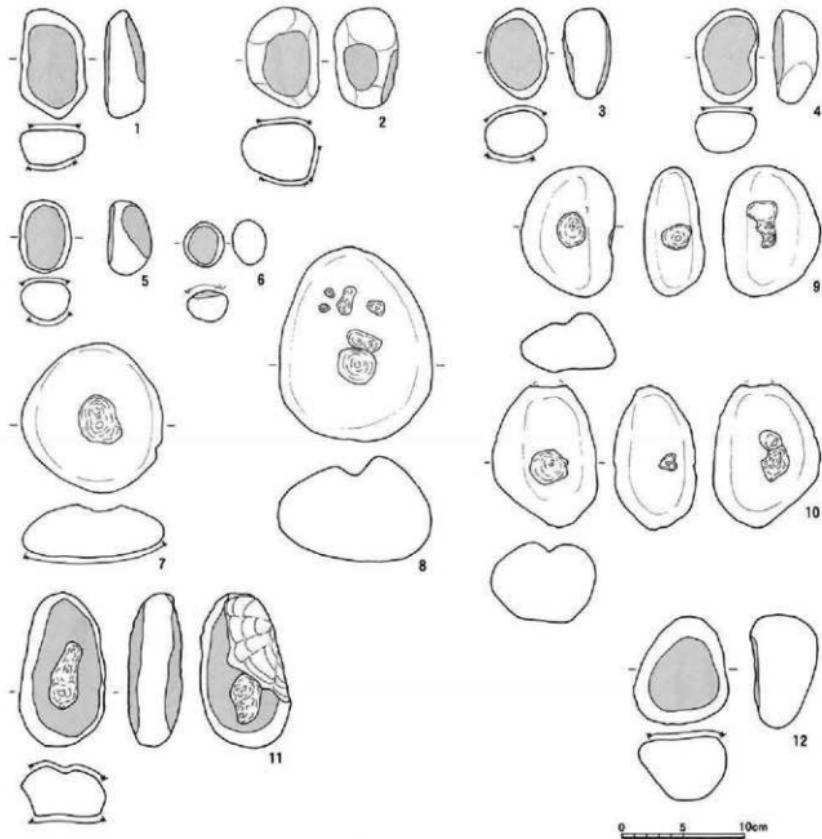
No.	器種	出土位置	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量(g)	石材	備考
1	磨・圓石	1号溝	18.4	6.8	6.2	130	輝石安山岩	使用面2
2	磨・圓石	1号溝	16.7	10.1	5.6	1164	輝石安山岩	使用面2
3	磨・圓石	1号溝	8.9	7.2	6.4	405	輝石安山岩	使用面2
4	磨・圓石	1号溝	13.0	7.1	4.0	565	輝石安山岩	使用面3
5	磨石	1号溝	10.6	5.2	3.2	240	綠色基灰岩	使用面2
6	磨石	2号溝	11.2	9.1	6.0	815	輝石安山岩	使用面2
7	磨・圓石	1号列石	(9.1)	(6.3)	(2.4)	(155)	輝石安山岩	使用面1
8	磨石	1号列石	8.3	7.4	6.8	440	安山岩	使用面1
9	圓石	1号列石	13.4	9.5	5.4	870	安山岩	使用面1

图86 出土石器(10)



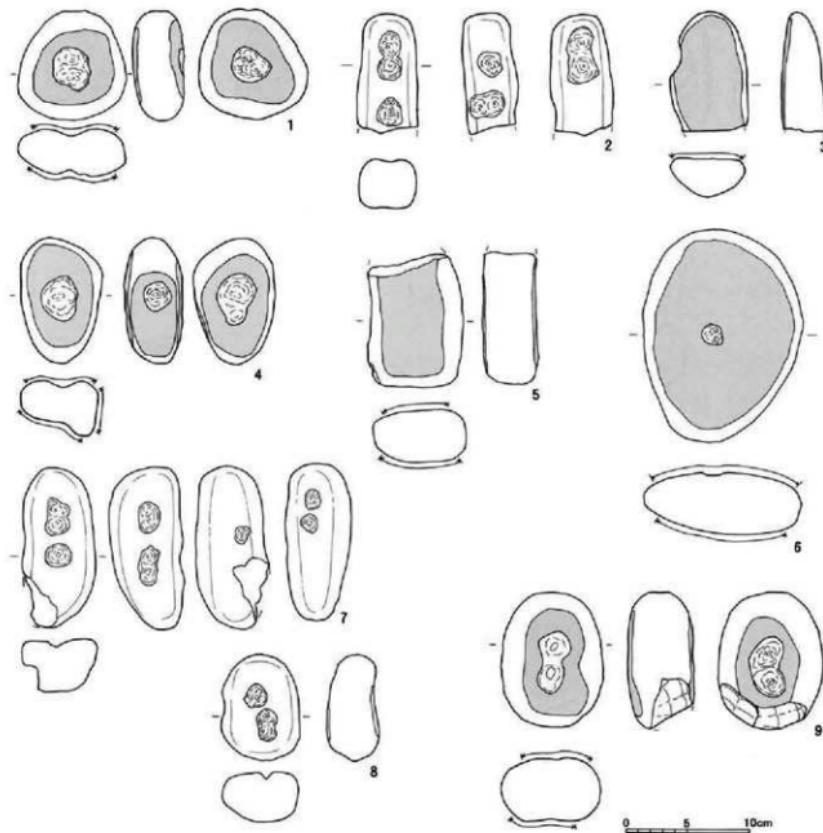
No.	器種	出土位置	最大長辺	最大幅辺	最大厚辺	重量(g)	石材	備考
1	凹石	B-2	8.4	9.4	6.0	460	輝石安山岩	使用面3
2	磨・凹石	B-2	11.9	10.4	7.2	—	輝石安山岩	使用面2
3	凹石	B-2	7.9	8.4	4.3	300	輝石安山岩	使用面1
4	凹石	B-2	7.4	5.9	3.2	180	輝石安山岩	使用面2
5	磨・凹石	B-2	(4.4)	(7.7)	(2.5)	(125)	輝石安山岩	使用面1
6	凹石	B-2	9.7	7.3	4.2	335	安山岩	使用面3
7	凹石	B-2	9.0	6.8	4.2	300	輝石安山岩	使用面2
8	磨石	B-2	12.3	7.6	4.5	600	安山岩	使用面1
9	磨石	B-2	11.6	7.9	3.2	350	安山岩	使用面2
10	磨石	B-2	9.9	6.1	3.1	250	輝石安山岩	使用面2
11	磨・凹石	B-2	12.0	11.7	8.3	1500	輝石安山岩	使用面2
12	磨石	B-2	7.2	5.5	3.0	165	輝石安山岩	使用面3
13	磨石	B-2	8.7	6.1	5.3	390	輝石安山岩	使用面1

图87 出土石器(II)



No.	器種	出土位置	最大長辺	最大幅辺	最大厚辺	重量(g)	石材	備考
1	磨石	B-2	9.0	5.6	3.2	245	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	B-2	8.3	6.0	5.2	315	輝石安山岩	使用面3
3	磨石	B-2	7.5	5.0	4.0	183	輝石安山岩	使用面2
4	磨石	B-2	7.7	5.0	3.6	190	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	B-2	5.9	4.3	3.2	90	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	B-2	3.7	3.4	2.6	45	輝石安山岩	使用面1
7	凹石	C-3	12.4	11.5	4.4	735	輝石安山岩	使用面2
8	凹石	C-3	16.0	12.5	8.8	2000	輝石安山岩	使用面1
9	凹石	C-3	10.7	7.7	5.0	460	輝石安山岩	使用面3
10	凹石	C-4	(11.7)	8.7	6.8	(670)	輝石安山岩	使用面3
11	磨・凹石	D-4	12.6	7.2	4.4	453	輝石安山岩	使用面2
12	磨石	D-4	8.9	7.8	5.4	380	輝石安山岩	使用面1

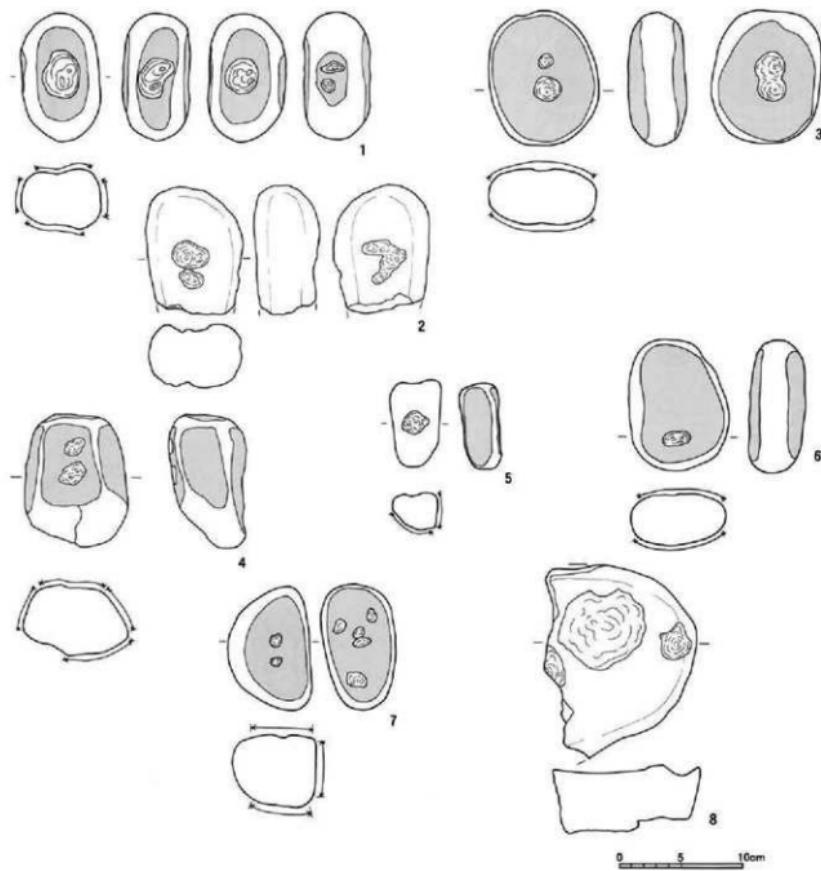
図88 出土石器12



0 5 10cm

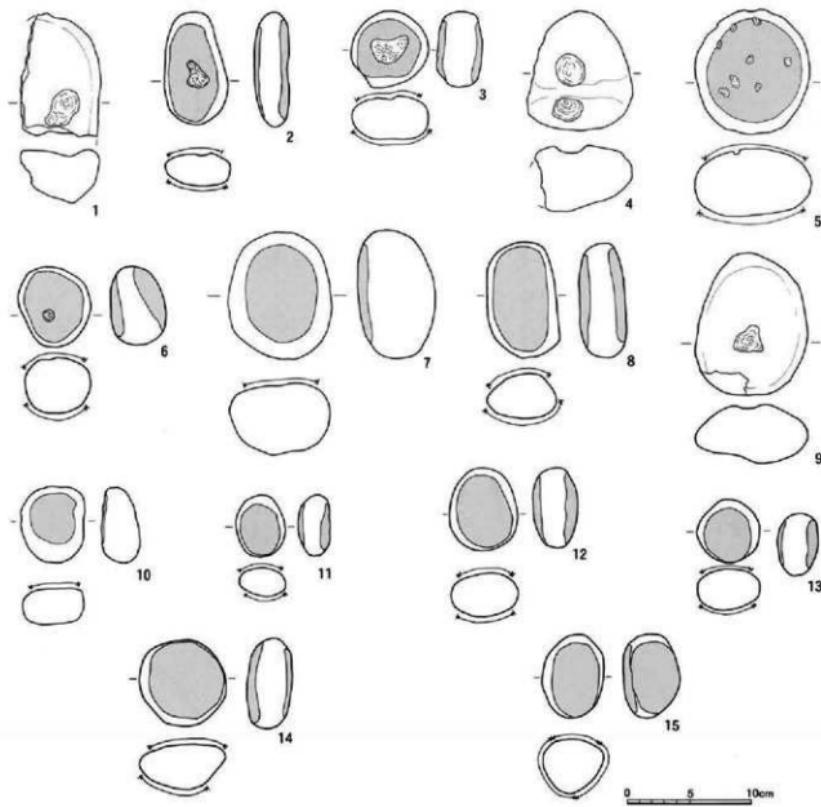
No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[cm]	重量(g)	石材	備考
1	磨・凹石	D-4	9.0	8.8	4.1	340	輝石安山岩	使用面2
2	凹石	D-4	9.8	4.9	4.0	330	安山岩	使用面3
3	磨石	D-4	(9.8)	(6.1)	(3.1)	(255)	輝石安山岩	使用面1
4	磨・凹石	D-4	10.2	6.7	4.5	347	輝石安山岩	使用面3
5	磨石	D-5	(10.9)	(7.3)	(4.5)	(730)	安山岩	使用面3
6	磨・凹石	F-5	17.4	12.9	5.5	—	輝石安山岩	使用面2
7	凹石	F-5	13.4	6.1	4.3	490	輝石安山岩	使用面4
8	凹石	F-5	8.7	6.5	4.2	285	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	F-6	(11.1)	8.3	5.4	(695)	輝石安山岩	使用面2

図89 出土石器(13)



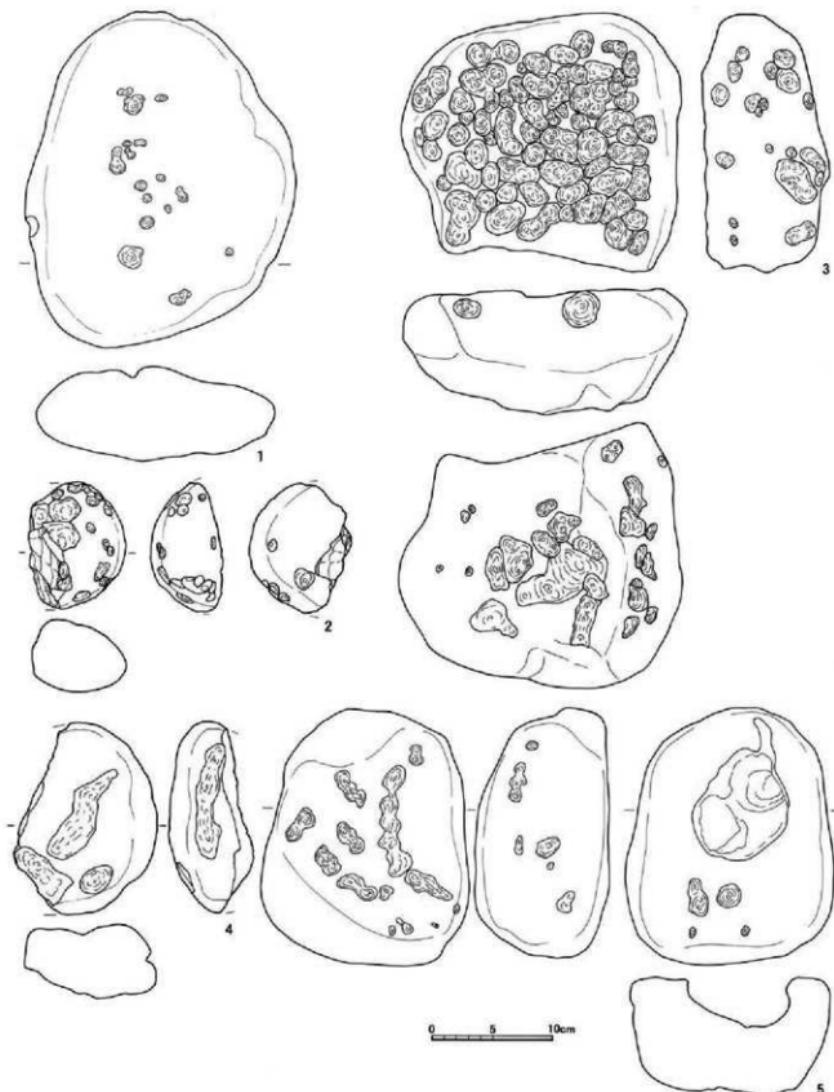
No.	器種	出土位置	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量(g)	石材	備考
1	磨・凹石	調査区一括	10.5	6.4	5.0	470	輝石安山岩	使用面4
2	凹石	調査区一括	(10.6)	7.9	5.2	(520)	輝石安山岩	使用面2
3	磨・凹石	調査区一括	11.1	9.1	4.7	660	輝石安山岩	使用面2
4	凹石	調査区一括	10.9	8.4	6.4	700	輝石安山岩	使用面4
5	凹石	調査区一括	7.2	4.2	3.1	155	輝石安山岩	使用面3
6	磨・凹石	調査区一括	10.7	8.1	4.3	535	輝石安山岩	使用面2
7	磨・凹石	調査区一括	10.4	6.8	6.0	555	花崗岩	使用面3
8	凹石	調査区一括	(15.9)	(12.1)	5.3	(1500)	輝石安山岩	使用面1

図90 出土石器(14)



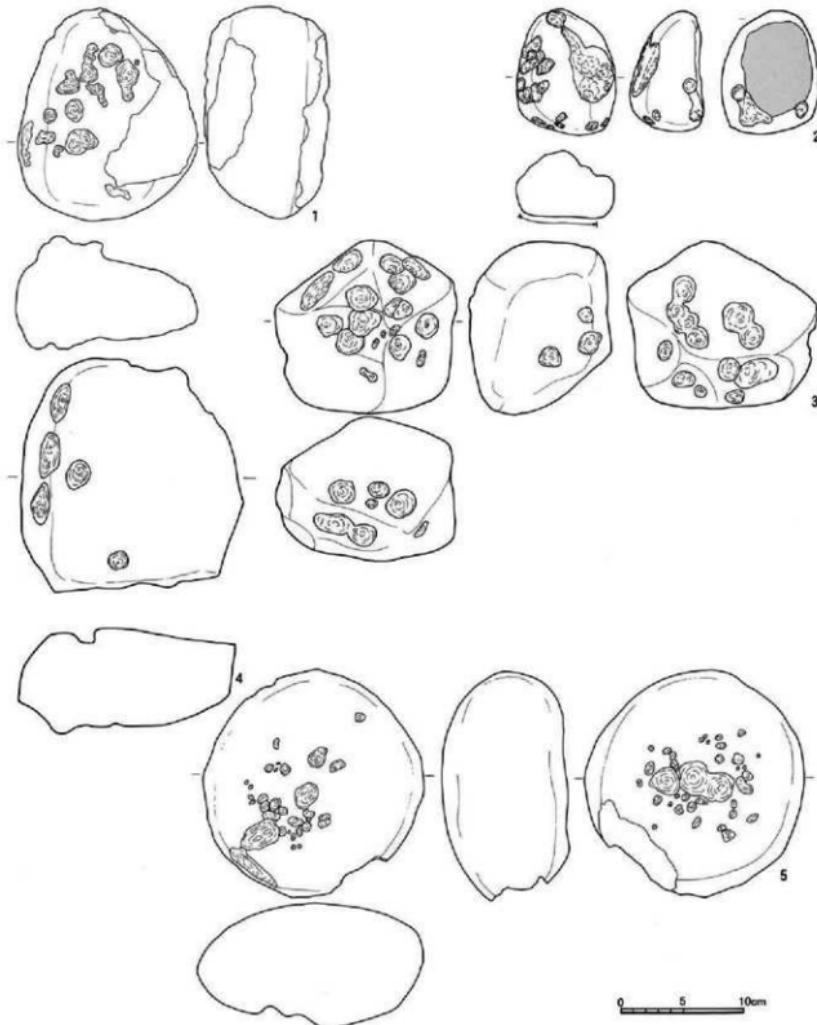
No.	器種	出土位置	最大長[cm]	最大幅[cm]	最大厚[cm]	重量[g]	石材	備考
1	刮石	調査区一括	(10.3)	(6.6)	4.3	(365)	輝石安山岩	使用面1
2	磨・刮石	調査区一括	9.3	5.2	2.7	220	輝石安山岩	使用面2
3	磨・刮石	調査区一括	6.4	6.2	3.6	175	輝石安山岩	使用面2
4	刮石	調査区一括	9.9	8.1	5.5	765	輝石安山岩	使用面1
5	磨・刮石	調査区一括	10.4	9.4	5.6	660	輝石安山岩	使用面2
6	磨・刮石	調査区一括	6.5	6.0	4.6	215	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	調査区一括	10.4	8.5	5.8	715	輝石安山岩	使用面1
8	磨石	調査区一括	9.6	6.1	3.8	310	輝石安山岩	使用面2
9	刮石	調査区一括	11.7	9.2	4.9	650	輝石安山岩	使用面1
10	磨石	調査区一括	6.3	5.3	3.1	120	輝石安山岩	使用面1
11	磨石	調査区一括	5.2	4.1	2.4	70	輝石安山岩	使用面2
12	磨石	調査区一括	6.7	5.6	3.1	160	輝石安山岩	使用面2
13	磨石	調査区一括	5.2	5.0	3.4	110	輝石安山岩	使用面2
14	磨石	調査区一括	7.1	7.1	3.7	275	輝石安山岩	使用面2
15	磨石	調査区一括	6.9	5.1	4.5	210	輝石安山岩	使用面3

図91 出土石器15



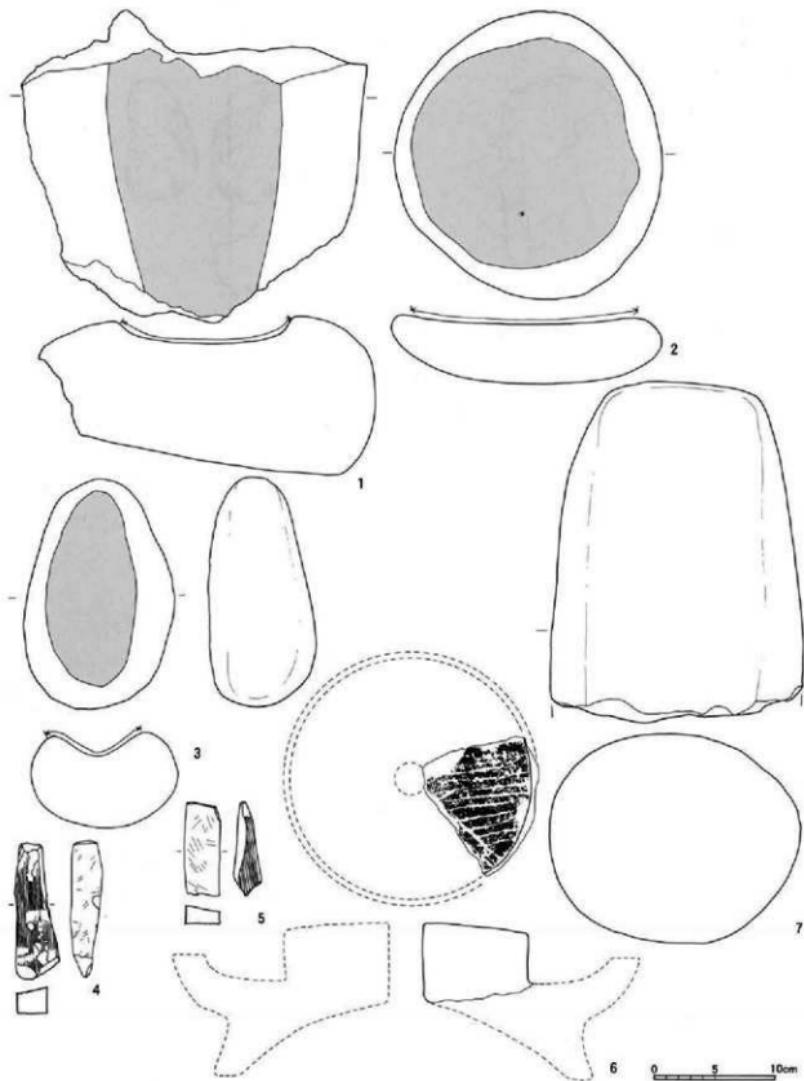
No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量[g]	石材	備考
1	多孔石	2号住	27.9	22.3	7.6	6000	輝石安山岩	使用面1
2	多孔石	6号住	10.5	(7.9)	6.0	(435)	輝石安山岩	使用面4
3	多孔石	6号住	(21.5)	(22.8)	(10.4)	(4000)	輝石安山岩	使用面4
4	多孔石	6号住	15.8	(11.3)	(6.0)	(1080)	輝石安山岩	使用面2
5	多孔石	7号住	21.2	17.0	9.7	4500	輝石安山岩	使用面3

图92 出土石器(16)



No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量 [g]	石 材	備 考
1	多孔石	C-5	17.6	14.7	9.3	3000	輝石安山岩	使用面2
2	多孔石	B-2	10.4	8.1	6.0	510	安山岩	使用面3
3	多孔石	B-2	14.3	14.8	11.9	2500	輝石安山岩	使用面4
4	多孔石	F-5	(19.0)	(18.3)	(8.7)	(4500)	輝石安山岩	使用面2
5	多孔石	調査区一括	18.9	18.0	10.3	4500	安山岩	使用面2

図93 出土石器(1)



No.	器種	出土位置	最大長[m]	最大幅[m]	最大厚[m]	重量(g)	石材	備考
1	石皿	61号土坑	(25.7)	(28.3)	13.1	(10500)	多孔質安山岩	
2	石皿	7号住	23.7	21.8	5.5	3500	輝石安山岩	
3	石皿	E-6	18.6	12.5	8.7	2500	輝石安山岩	
4	砾石	D-5	(11.2)	(3.5)	(2.2)	(110)	流紋岩	
5	砾石	D-5	(7.8)	(2.9)	(1.5)	(50)	流紋岩	
6	茶臼(下臼)	調査区一括	直徑(23)×ふくみ幅(0.8), 6匹面, 溝10本			(594)	多孔質安山岩	回転方向左
7	石棒	2号集石	(28.2)	20.6	17.3	(13500)	輝石安山岩	

図94 出土石器(18)

## 第4章 まとめ

今回の調査では縄文時代・平安時代・中世の遺構・遺物が出土した。塙川地区での本格的な発掘調査は頭無遺跡に次ぐものであり、この地域の歴史の解明に役立つものと思われる。以下各時代の概要および特筆すべき点を記してまとめとしたい。

### 1 縄文時代

縄文時代の遺構は中期末～後期初頭の住居址2軒（小礫を敷き詰めた敷石住居含む）、堀之内式期の敷石住居2軒・列石1基、土坑数基が発見された。遺物は中期中葉から後期前半にかけての土器が出上り、その大多数が堀之内式で占められている。出土石器は磨石・凹石を中心に石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・石皿・石棒等がある。

#### （1）小礫を敷き詰めた敷石住居について

中期末～後期初頭と考えられる3号住居址は小礫を敷き詰めた敷石住居である。県内ではこれと類似する事例は今のところ確認できない。唯一八ヶ岳西南麓の長野県富士見町唐渡宮遺跡33号住居址（図95-1）が似たような状況を示している。それは、直径が3.6mほどの小さな住居で、手のひら大の平石を一部に敷いているが、ほとんどが小礫で敷き詰められている。本遺跡の3号住居址と違い、石囲炉を伴うことから住居と断定できる。時期は曾利V式期である。また、唐渡宮遺跡29号住居址（図95-2）は住居内ではないが外側に小礫が敷かれている。調査区にかかり敷石の全体形は不明であるが、手のひら大ないし拳大前後、あるいはそれ以下の小礫が集中している。地山に礫が多く含まれており、その敷石の礫が地山に埋もれたり食い込んだりしていたため、人工のものと判断するのに迷ったようであるが、その周辺にこのような小礫の密集したところが確認されなかつたため、敷石ととらえている。住居址との関係は、調査では判断つかなかつたらしいが、29号住居址と関連のあることは間違いないようである。時期は曾利IV～V式期である。

本遺跡の地山にも礫が多く含まれており、唐渡宮遺跡の地山と類似しているが、3号住居址周辺および床面の下に小礫の密集した所は確認できなかつたので、3号住居址の礫が敷き詰められたものと判断した。時期も本遺跡の方が若干新しいと思われるが、中期末と考えると、これらの住居址と時期的に重なってくる。中期末に中部高地に敷石住居が出現してくるのだが、その時に平石を使わず、地山の礫で間に合わせて作ったのかもしれない。現在のところ、一般的な平石を使う敷石住居と関係があるかどうかも不明であるが、いずれにしても、敷石住居の一つの形態として、平石を使わず小礫を敷き詰めるだけの敷石住居もあるということを考えてもいいのではないだろうか。

それらとは少し違った遺構も長野県北佐久郡御代田町瀧沢遺跡で確認されている。D-8号土坑（図95-3）であるが、3.26m×1.63mの楕円形をした土坑の側壁に偏平な礫が張り付けられ、中央に後期初頭の大型粗製深鉢が正位に埋められていた。この土器の中から骨粉が山土

しているので、この土坑は墓坑であるとしている。時期は後期初頭である。本遺跡3号住居址とは遺構の規模・土器の出土状況・敷石の状態等が異なるが、この土器は本遺跡から出土した土器（図60-48）と似ており、炉のない3号住居址が住居と断定できないだけに、同時期の遺構として見逃せないものであろう。

以上、小砾を敷き詰めた敷石住居は発見例が少なく、現在のところ分布状況・遺構の性格・一般的な敷石住居との関連など不明な点が多い。資料の増加を期待したい。

#### （2）列石について

後期堀之内式期の1号列石は弧状を呈するものである。全長8mであり、弧の半径はおよそ10mである。大きい砾の下には浅い土坑が掘られており、墓坑の集合体の可能性がある。同時期の敷石住居とは約35m離れているので、居住域と墓域が区別されていたであろう。今回の調査区は北東から南西にかけてはしる沢筋にあり、南北方向が開けていてその正面に鳳凰三山の嶺々が望める。列石の軸から直交した方角が地蔵岳のオベリスクにあたるとか、冬至・夏至・彼岸の中日に地蔵岳のオベリスクに口が落ちるとかは不明であるが、この遺跡に立つと北の八ヶ岳、東の金峰山、西の中斐駒ヶ岳、南の富士山が見えず、鳳凰三山のみが眺望できるだけなので、それを意識して作られている可能性が高いであろう。

縄文時代中期後半になると、気候変動等により社会的不安が大きくなり、集落間の結びつきが強く求められるようになり、その一端として、大規模配石等の構築といった地域での共同作業が行われ、それまでの伝統的な社会関係が変化していく（佐野・小宮山1994）ようである。本遺跡の列石もこのような社会的不安の解消・集落間の相互関係強化・維持のために作られたのである。大泉村金生遺跡、高根町青木遺跡・石堂B遺跡と行った大規模配石を伴う遺跡は、現在水田になっている低地から発見されており、本遺跡も同様に低地に立地している。

#### （3）石錘について

本遺跡から石錘が14点と数多く出土している。北巨摩郡内で石錘は、並崎市宿尻遺跡（1点、中期）・後田遺跡（1点、中期）・宮ノ前遺跡（3点、中～後期）・新田遺跡（27点、後期）・三宮地遺跡（1点、晚期）、双葉町唐松遺跡（4点、中期）、明野村屋敷添遺跡（27点、中～後期）・消水端遺跡（4点、後期）・神取遺跡（1点、時期不明）、須玉町上ノ原遺跡（100点以上、後期）、白州町板橋遺跡（1点、早期）、高根町青木遺跡（4点、後期）・社口遺跡（6点、後期）・川又坂上遺跡（2点、後期）、大泉村甲ツ原遺跡（1点、後期）・金生遺跡（8点、後～晚期）から出土している。この中で、上ノ原遺跡・新田遺跡・屋敷添遺跡が數多く石錘を出土する遺跡であり、県内でも大月市大刀遺跡で22点の出土が見られるくらいで、石錘が出土する場合はほとんどが10点未満の点数である。本遺跡も14点出土しているので、石錘の多い遺跡といえるであろう。

これらの遺跡で共通することは、後期の、それも堀之内式期を中心とした遺跡であり、敷石住居や配石遺構が発見されていることである。そして、石錘の出土状況をみると、住居内からの出土が少なく、配石遺構や土坑の中およびその周辺からの出土が目立っている。遺構外出土の遺物は、近くの遺構と関係していたかどうかは判断しづらいが、出土点数の少ない他の遺跡

の出土状況を見ても、配石遺構や土坑の中およびその周辺から出土していることが多い。これは偶然の可能性も否定できないが、多くの遺跡で見られる傾向があるので、石錘と配石遺構や土坑が何か関連していると考えてもいいであろう。

また、石錘の推定時期を見ると早期から晩期まで出土しているが、点数が多くなるのは後期壠之内式期である。称名寺式期までは数点しか出土しないが、壠之内式期になり急激に出土量が増える。前出の上ノ原遺跡・新田遺跡・屋敷添遺跡は壠之内式が主体の遺跡であり、本遺跡も壠之内式が主体の遺跡である。渡辺誠氏の説によると中期前葉に東関東で発達した土器片錘が、中期後半に土器から石への素材転換を作り、中部高地に伝播していく（渡辺1973）ようである。山梨県においては中期後半に石錘が増え始め、後期壠之内式期に急増してくる。しかし、次の加曾利B式期になるとまた出土数が減り、壠之内式期の出土数が突出している。

石錘は從来漁網錘や編み物用の錘と考えられてきた。しかし、石錘の遺跡内での残され方は、配石遺構や土坑周辺が多い。漁網もしくは編み物川具の保管は素直に考えると、住居内が妥当であろう。実際に、弥生時代や平安時代の住居内から細長い櫛が10数個まとまって出土する事例がいくつかあり、それらが編み物用の錘と考えられている。また、保管された状態でなく、廃棄された状態の出土を考えると、やはり、住居覆土内からの出土が多くてもよいであろう。しかし、山梨県内の石錘の出土状況を見ると配石遺構や土坑周辺から出土する場合が多く、何か意味があるように思えてくる。石錘が漁網錘や編み物用の錘として使用されていたことは否定しないが、遺跡からの出土状況を見る限り、石錘が廃棄される時、祭祀行為や葬送行為が関係していたのではないであろうか。その時の具体的な関係は現在のところ分からぬが、漁網錘や編み物用の錘以外の使用も考えられるであろう。

本遺跡も、南に約50m行くと鳩川に出るので、石錘を使用した網漁活動があったであろう。しかし、図78-11のように土坑の副葬品と考えられる出土がみられるため、全部ではないが、石錘の廃棄時に祭祀あるいは葬送行為と関係していると思われる。

## 2 平安時代

平安時代の遺構は住居址4軒、掘立柱建物跡1棟が発見された。住居址の帰属時期は出土土器と切り合ひの関係で、5号住居址が4号住居址より古く甲斐型土器編年X期である。1・2・4号住居址の時期は、出土土器をみると甲斐型土器編年XI期～XII期と思われるが、1・2号住居址と4号住居址とではカマドの位置が異なり、5号住居址と同じ方向の4号住居址が1・2号住居址より古いと考えられる。また、出土した甲斐型壺を比べると2号住居址の方が、玉緑化が進んでいるようなので、少し新しいと考えられる。1号住居址は出土遺物がほとんどなく、時期決定は難しいのだが、2号住居址とカマドの位置が同じであり、住居の掘り込みも1・5号住居址と違い、2号住居址と同じくらいの深さであるので、2号住居址と同時期と思われる。よって、平安時代の住居は、5号住居址（X期）→4号住居址（おそらくXI期）→1・2号住居址（おそらくXII期）と変遷していく。掘立柱建物跡は4・5号住居址に隣接し、遺構の軸がほぼ同じなので、4・5号住居址と同時期と思われ、X～XI期であろう。

平安時代の実年代は、甲斐型土器研究グループの編年研究により、X期が860年～880年、XI期が880年～920年、XII期が920年～960年と考えられている。この土地には9世紀後半から人々は住み始め、およそ100年間継続してこの土地を集落として利用してきた。

平安時代の八ヶ岳山麓では、9世紀半ば以降新たに集落が形成され、10世紀前半に繁栄し、10世紀後半に突如として廃絶していくことが知られている。8世紀前半の生産力の停滞を打破するために、当時の律令政府は「三世一身法」「耕田永世私財法」等の開墾奨励策を打ち出した。それにより、平地部の富豪百姓層が没落農民や浮浪農民を支配し、共同用益地であった八ヶ岳山麓一帯の開墾を推し進めていったと考えられる（萩原1986・岡本1990）。これが、9世紀半ばに集落が急速に形成された要因であろう。しかし、それが租を納めなくてもよい公田として開墾されたために、律令政府は再び、そこから収奪できるように国家体制および土地制度を改革し、それで經營基盤の弱い富豪百姓層は農業經營に行き詰まり、この地からの撤退を余儀なくされたと思われる。10世紀半ばに集落が激減するのはこのためであろう。

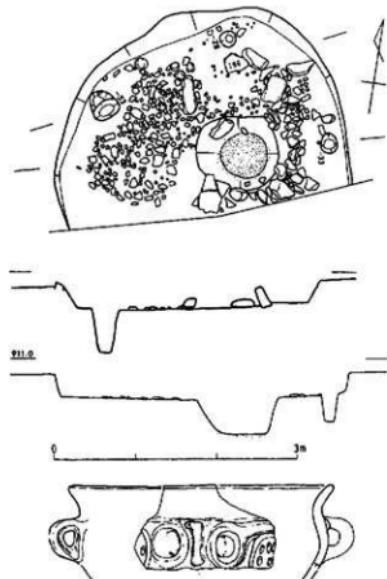
本遺跡も9世紀半ばから10世紀半ばまでの集落であり、八ヶ岳山麓の開墾に合わせて進出してきた集落と考えられる。農業經營の盛衰の一端を示しているこの集落が、圃場整備という現代の農業經營基盤整備事業で発見されたことは、意味深である。平安時代では經營に行き詰まり撤退を余儀なくされたが、現代においてはどうであろうか。この歴史を教訓として、平安時代の二の舞を演じないことを願うのみである。

### 3 中世

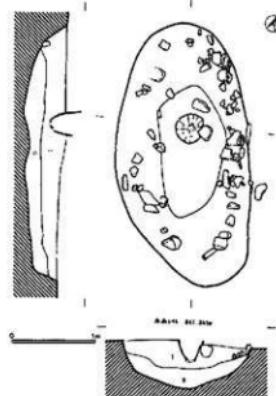
中世のものとを考えられる遺構に竪穴遺構2基がある。1号竪穴は形状からみると井戸と考えられる。2号竪穴はカマドに似た石組遺構を持つ梢円形をした竪穴であるが、どういう性格の遺構か不明である。規模が3.4m×2.8mと小さく、石組遺構もカマドとして使われていた様子ではなく、その遺構だけでは住居址とは考えにくい。2号竪穴の東側周辺には柱穴のようなピットが数多くあるので、それらが掘立柱建物となり、2号竪穴がその建物の付属施設あるいは建物内の一室である可能性が考えられる。

石組遺構をカマドと考え2号竪穴を土間の調理場とすると、普通カマドは建物の外壁に造られ、煙を外に出すように設置するであろう。しかし、2号住居址を掘立柱建物の一部と仮定すると、石組遺構は建物内部に向くことになり、煙を排出するには不都合であろう。そのため、掘立柱建物の一部と考える時は、石組遺構はカマドとは考えにくい。逆に2号竪穴の西側に建物跡が展開していたとも考えられるが、現段階では調査区外にあたりピットが確認できおらず、なおかつ、そこには水路が流れ、対岸が急な斜面で立ち上がっているので、その考えには無理がある。石組遺構がカマドでなく別のものとして機能していて、竪穴の東側に掘立柱建物跡が展開していたと考える方が妥当であろう。

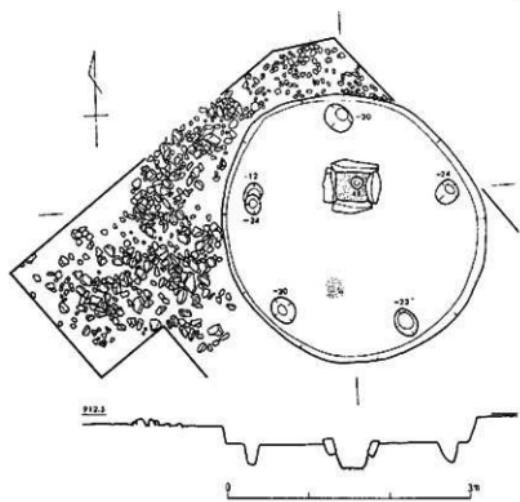
詳細な時期は不明であるが、この建物跡は中世（13～16世紀）のものと思われる。10世紀後半の集落廃絶から約200年以上は、この土地の利用は空白である。中世になりこの地に再び集落が形成され、現在に至るまで連鎖と続いている。



1. 唐渡宮遺跡33号住居址(1/60)及び出土土器(1/6)



3. 滝沢遺跡D-8号土坑(1/60)  
及び出土土器(1/10)



2. 唐渡宮遺跡29号住居址(1/60)  
及び出土土器(1/6)



図95 小碟を敷き詰めた遺構

アミの濃度は遺物量を示す

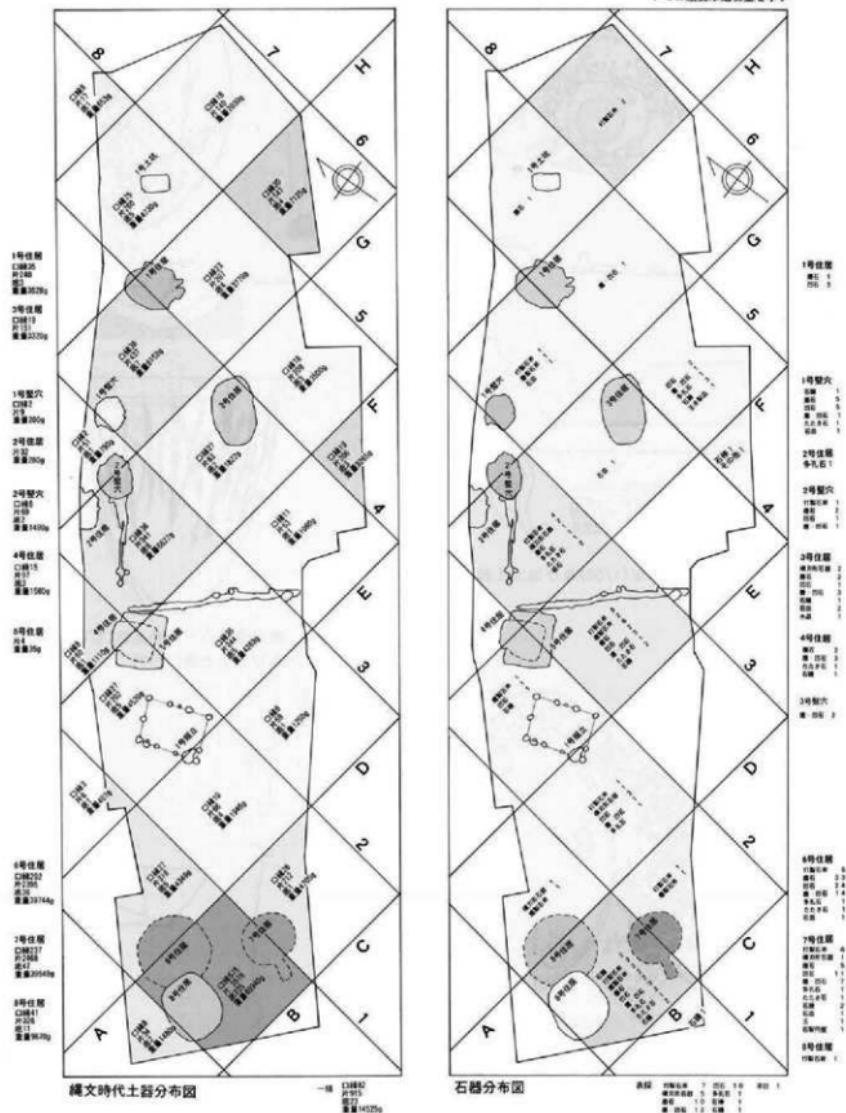


図96 遺物分布図(1)

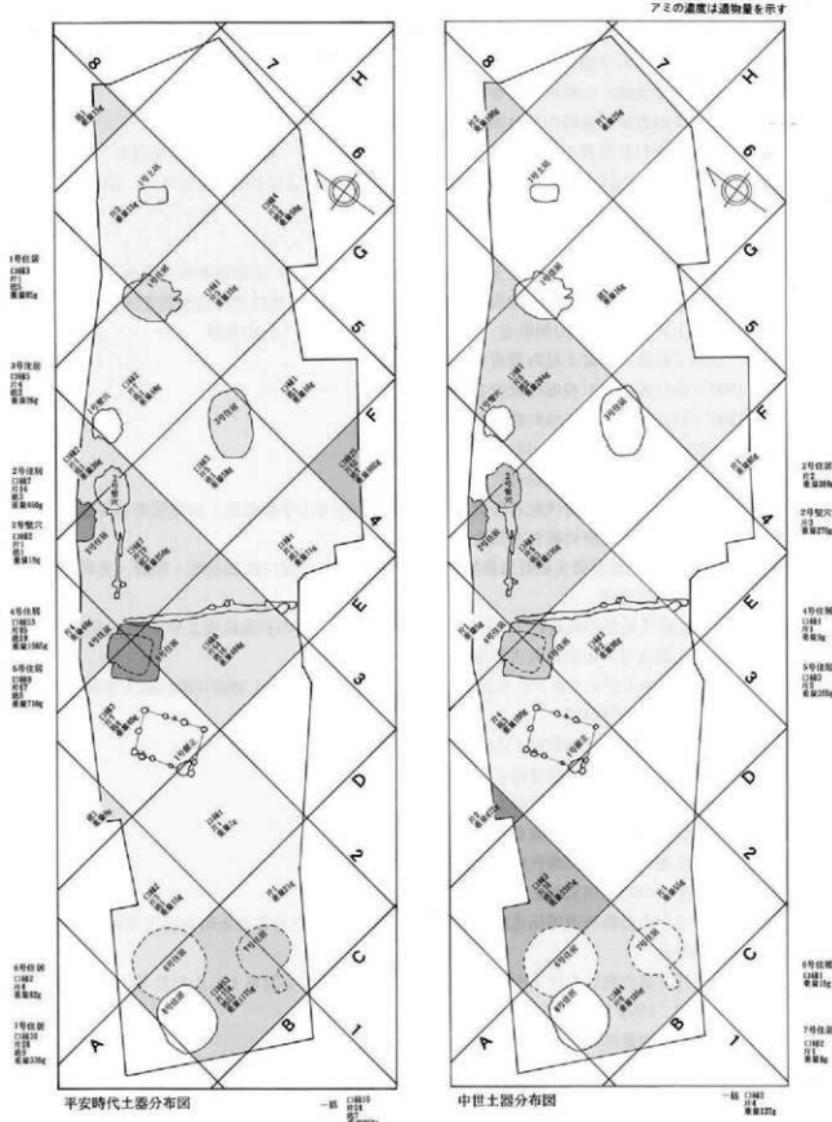


図97 遺物分布図(2)

## 参考文献

- 雨宮正樹・山下孝司・櫛原功一 1988「山梨県高根町青木遺跡調査概報」『山梨県考古学協会誌』第2号 山梨県考古学協会
- 石神孝子 1996『唐松遺跡』山梨県教育委員会
- 伊藤正彦 1996『新田遺跡』韮崎市遺跡調査会
- 稻村晃嗣 1990「加曾利E系列の土器群」『調査研究集録』第7冊 横浜市埋蔵文化財センター
- 岡本範之 1990「平安期における甲斐国巨摩郡の動向」『山梨県考古学協会誌』第3号 山梨県考古学会
- 折井敦 1989『板橋遺跡』白州町教育委員会
- 甲斐型土器研究グループ 1992『甲斐型土器 ーその編年と年代ー』山梨県考古学協会
- 櫛原功一 1997『社口遺跡第3次調査報告書』高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団
- 櫛原功一 1998『上ノ原遺跡』『山梨県史 資料編1 原始・古代1』山梨県
- 小林公明他 1988『唐渡宮』富士見町教育委員会
- 小宮山隆 1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会
- 小宮山隆 1997『別当西遺跡』長坂町教育委員会
- 小山岳大編 1997『流沢遺跡』御代田町教育委員会
- 佐野隆 1994『神取』明野村教育委員会
- 佐野隆・小宮山隆 1994『縄文時代配石研究の一視点』『山梨考古学論集Ⅲ』山梨県考古学協会
- 佐野隆 1996『星敷添Ⅱ』明野村教育委員会
- 末木健 1975『山梨県中央道理蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 ー北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内ー』山梨県教育委員会
- 末木健 1987『縄文時代集落の継続性(II)ー縄文中期八ヶ岳山麓の石器組成よりー』『山梨県考古学協会誌』創刊号 山梨県考古学協会
- 長岡文紀編 1997『パネルディスカッション敷石住居の謎に迫る記録集』神奈川県埋蔵文化財センター  
柳かながわ考古学財団
- 長坂町誌編纂委員会 1990『長坂町誌』上巻 長坂町
- 長沢宏昌・笠原みゆき 1996『中谷遺跡』山梨県教育委員会
- 長沢宏昌・笠原みゆき 1997『大月遺跡』山梨県教育委員会
- 中山誠二 1993『宿尻遺跡』山梨県教育委員会
- 新津健 1989『金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)』山梨県教育委員会
- 新津健・三田村美彦 1993『川又坂上遺跡』山梨県教育委員会
- 仁科義男他 1970『中央自動車道関係遺跡第一次調査概報 ー北巨摩郡長坂町東前田遺跡ー』山梨県教育委員会
- 萩原三雄 1986『八ヶ岳南麓における平安集落の展開』『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会
- 平野修・櫛原功一編 1992『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会
- 宮沢公雄 1986『清水端遺跡』明野村教育委員会
- 山下孝司 1989『後田遺跡』 韮崎市教育委員会
- 山下孝司・閑間俊明・秋山圭子 1998『二宮地遺跡』韮崎市遺跡調査会
- 山本茂樹・野代幸和 1994『甲ヶ原遺跡(第5次)Ⅰ』山梨県教育委員会
- 渡辺誠 1973『縄文時代の漁業』雄山閣出版

# 宮久保遺跡





図版1 宮久保遺跡全景



図版2 1号住居址



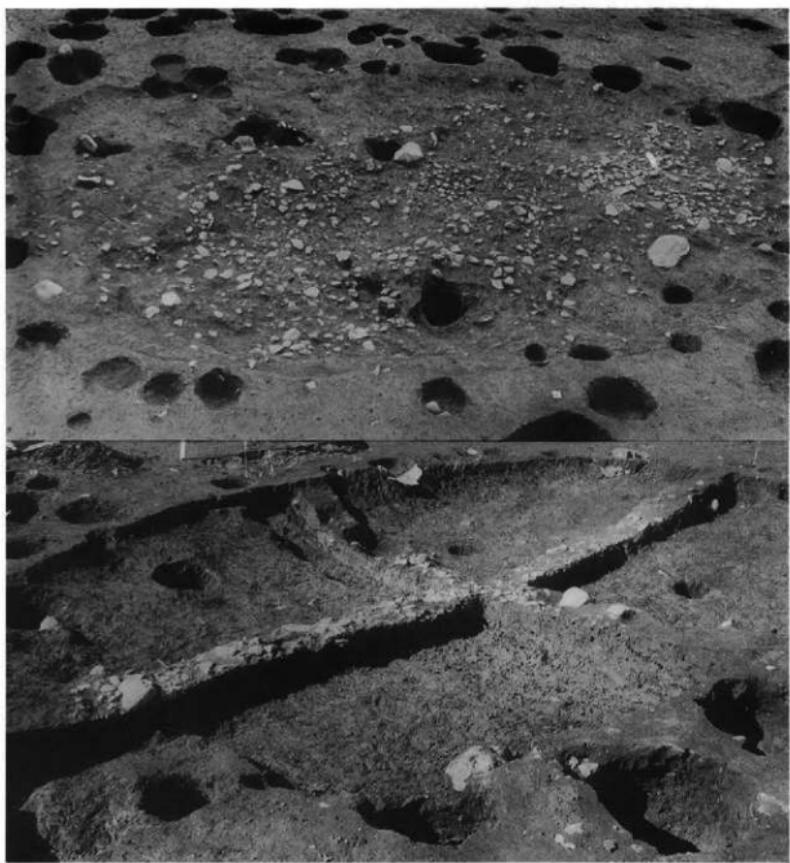
図版3  
2号住居址



図版4  
2号住居址  
遺物出土状況



図版5 作業風景



图版 6 3号住居址



图版 7  
3号住居址 遗物出土状况



図版8 4・5号住居址



図版9 4号住居址カマド



図版10 5号住居址カマド



図版11 4号住居址 遺物出土状況



5号住居址 遺物出土状況



図版12 6号住居址



図版13 6号住居址上層



図版14 6号住居址 炉



图版15 7号住居址(1)



图版16 7号住居址(2)



图版17 7号住居址 埋设土器



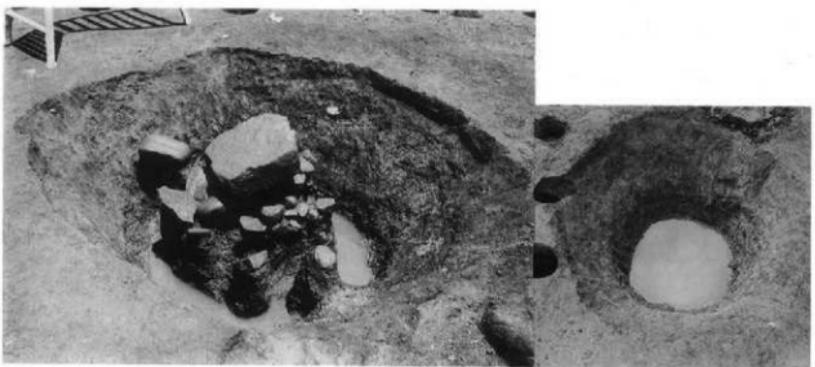
図版18 8号住居址



図版19 1号掘立柱建物跡



图版20 1号列石



图版21 1号竖穴遗構



図版22 1号溝



図版24 2号竪穴造構



図版25 1号集石



図版26 2号集石



図版23 2号溝



図版27 1号土坑



図版28 9号土坑



図版29 19号土坑



図版30 20号土坑



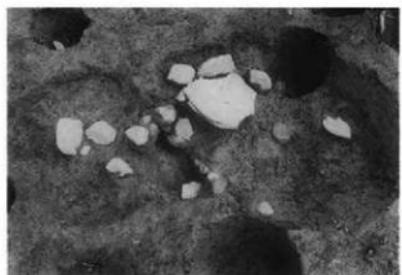
図版31 21号土坑



図版32 27号土坑・ピット14



図版33 61・62・63・64号土坑



図版34 68号土坑



図版35 95号土坑（集石土坑）



図版36 100号土坑



図版40 垂飾(玉)出土状況(7号住居址)



図版37 ピット1



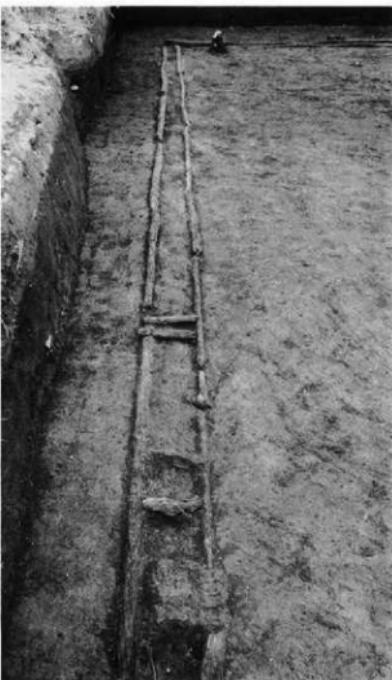
図版41 水晶出土状況(3号住居址)



図版38 ピット4



図版39 F-5 G a 遺物出土状況



図版42 1号暗渠



图版43 3号住居址 出土土器



图版44 6号住居址 出土土器



图版45 6号住居址 炉体土器



图版46 6号住居址  
出土土器



图版47 7号住居址 埋設土器



图版48 7号住居址 出土土器



图版49 8号住居址 出土土器



图版50 100号土坑 出土土器



图版51 B-2 出土土器



图版52 B-2 出土土器



图版53 B-2 出土土器



图版54 B-2出土土器



图版55 B-2出土土器



图版56  
B-2出土土器



图版57 2号住居址 出土土器



图版58 5号住居址 出土土器



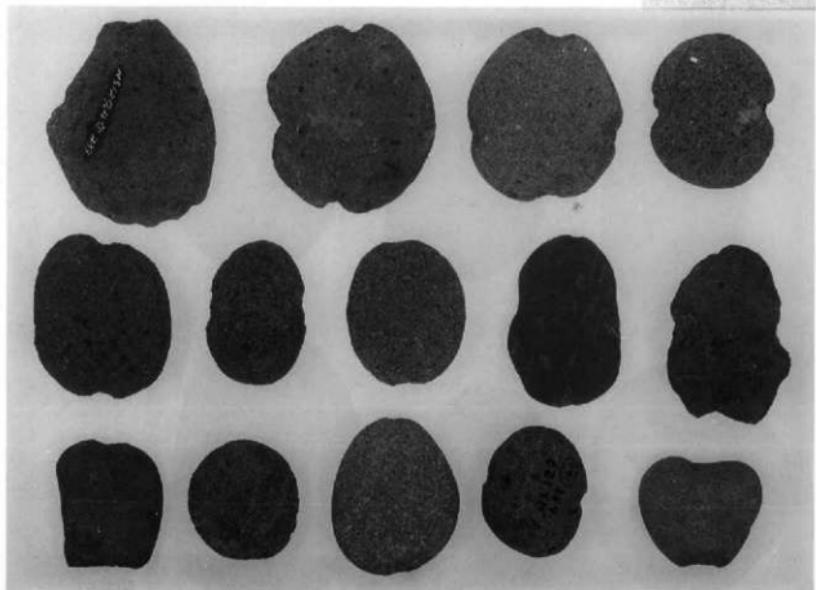
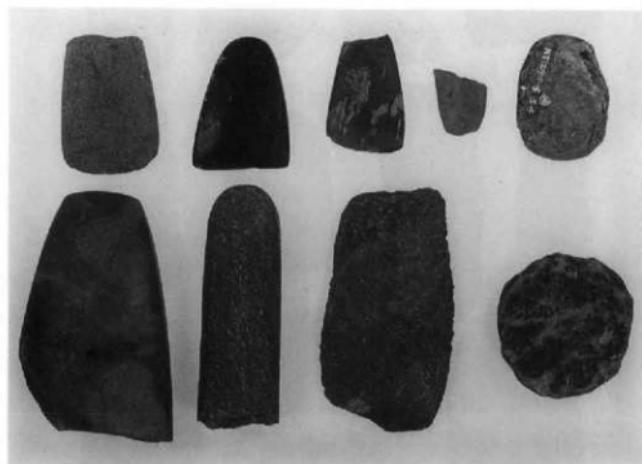
图版59 4号住居址 出土土器



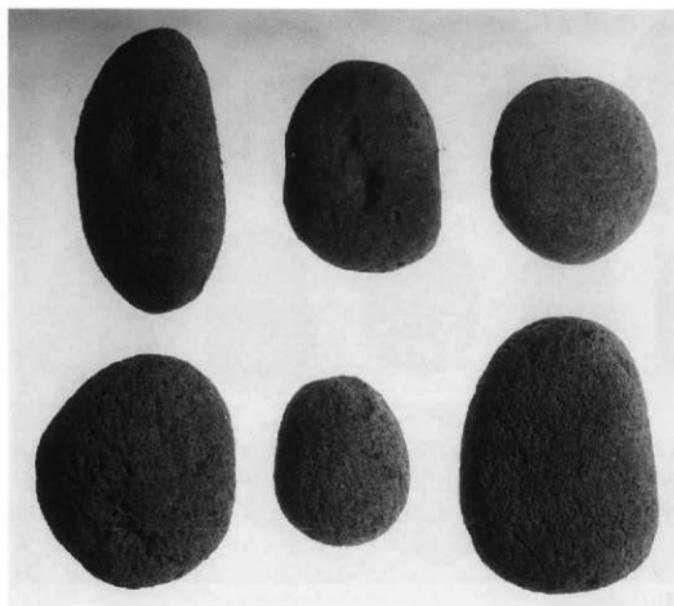
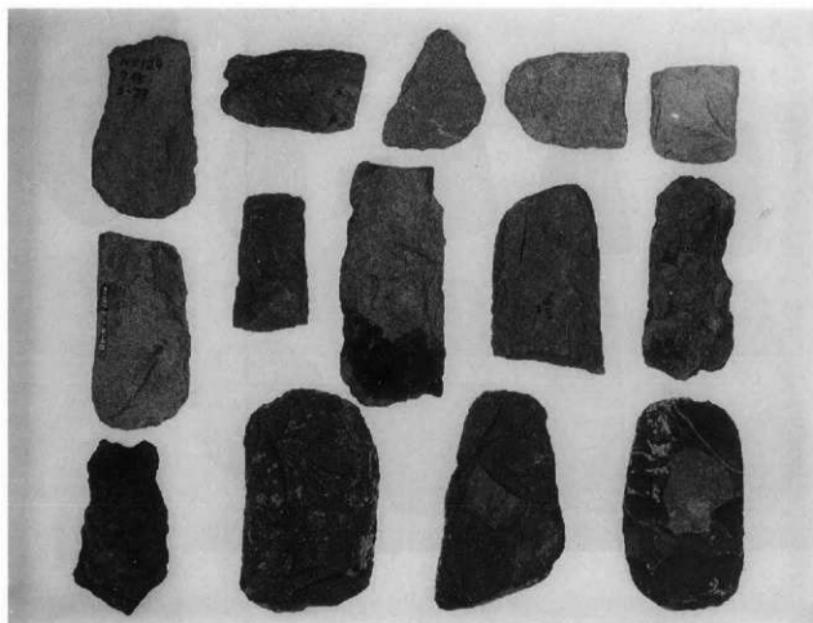
图版60 5号住居址 出土土器



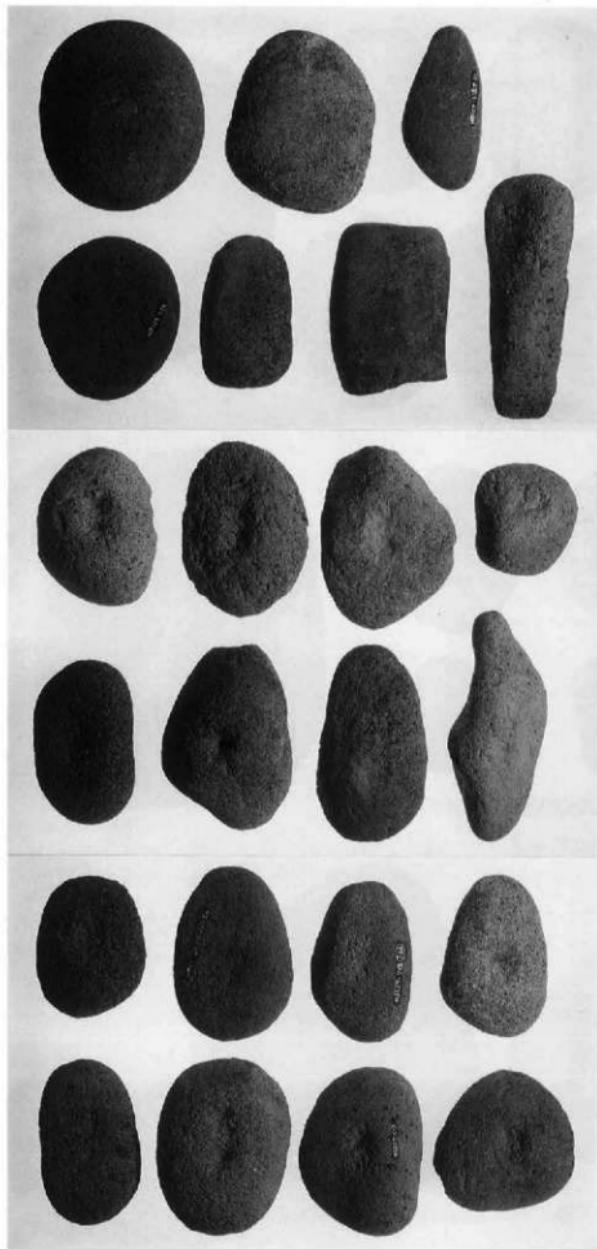
图版61 4号住居址 出土土器



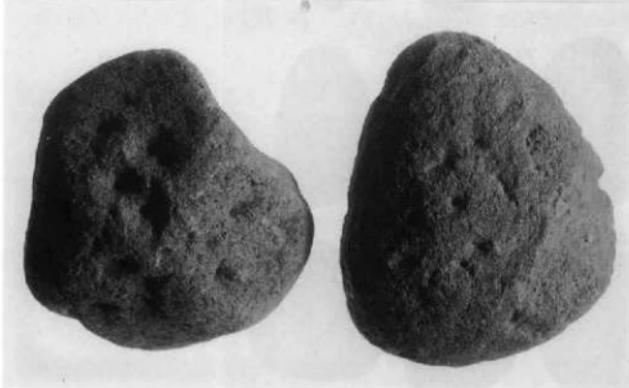
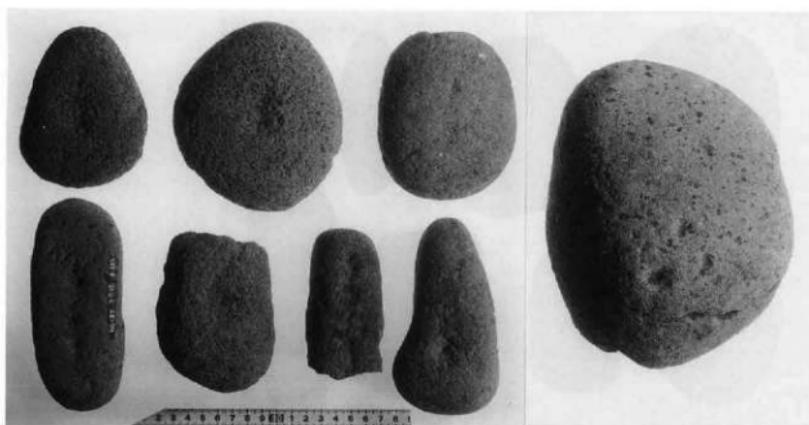
图版62 出土石器(1)



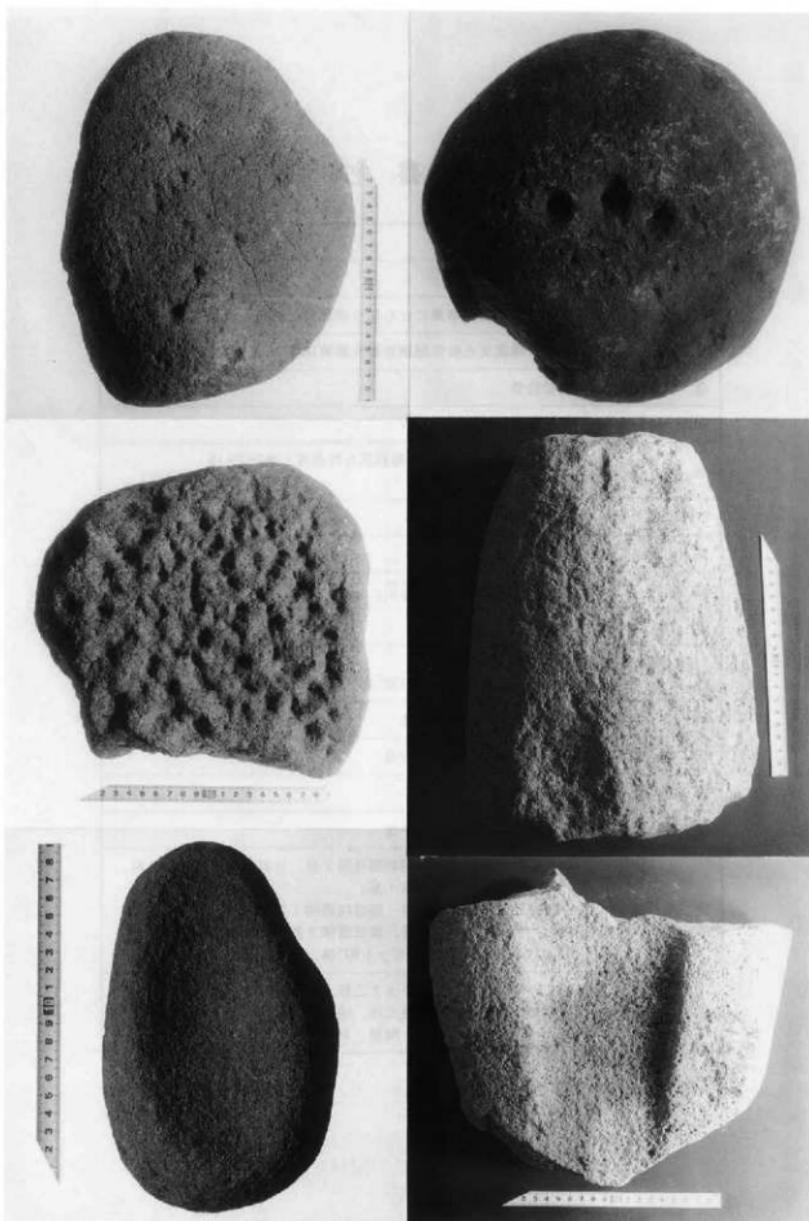
圖版63  
出土石器(2)



图版64 出土石器(3)



図版65 出土石器(4)



圖版66 出土石器(5)

## 報告書抄録

フリガナ	ミヤクボイセキ
書名	宮久保遺跡
副題	団体営団場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	峠北印刷株式会社
発行日	1999年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町塚川2,161外
遺跡番号	長坂町 No.129
1/25,000地図名 位置・標高	若神子 北緯35°48'00" 東経138°23'45" 標高620m
調査原因	塚川団体営団場整備事業
調査期間	1997年5月13日～9月27日
調査面積	1,403m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代・平安時代・中世
主な遺構	縄文時代（中期末～後期初頭住居2軒、後期前半敷石住居2軒、後期前半列石1基） 平安時代（竪穴住居4軒・据立柱建物1棟） 中世（竪穴遺構2基、集石遺構2基、溝状遺構2条） その他（土坑101基、ピット921基、陪塚1条）
主な遺物	縄文時代（土器、ミニチュア土器、土製円盤、石器） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、陶器） 中世（土師質土器、陶器、石製品）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集

## 宮久保遺跡

1999年3月25日 印刷

1999年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19  
TEL.0551-32-2111

印 刷 島北印刷株式会社

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313  
TEL.0551-32-3245

宮久保遺跡全体図

